

特2

.26

普通學講義全書

第四卷

日本地誌講義

全

東京

帝國通信講習會

日本地誌

第一編 總論

一 日本ノ位置

亞細亞大陸ノ東ニ極マル處、大平洋ノ西ニツク
 一處ニ東經百十九度二十分ヨリ百五十六度三十二分ニ至リ、北緯二十
 一度四十五分ヨリ五十度五十六分ニ亘リテ、其間ニ巒巒トシテ飛龍ノ
 如キ形狀ヲナスモノハ則チ吾日本帝國ナリ、五千有余ノ大小島嶼斷續
 シテ千二百五十里ニ延ビ、其狀式ハ花彩^{フエイト}ヲ垂ル、如キヲ以テ外人或ハ
 是ヲ花彩島ト稱ス。

二 五大島

然シテ其島嶼ノ内大ナルモノ五アリ、中央ニアルモノ
 ハ本州ニシテ其西南ニアルモノハ四國及九州トシ、最モ南ニアルモノ
 ハ臺灣トシ、更ニ本州ノ北ニ在ルモノハ北州島トス、樺太ハ明治八年以



後露領トナリタリ。

三、對岸ヲ見ヨ 北州島ヨリ千島ヲ經郡司大尉ノ移住セシ占守

島ヨリ北ニ進メバ則チ露領カムシヤツカトス。千島ノ西ハオヨツク海ト云ヒ樺太以南ハ日本海ニシテ九州朝鮮ノ間ニ至リ迫リテ朝鮮海峡ヲナス。對馬島コノ間ニ立ツ。オヨツク海日本海ノ北及西ハ朝鮮ノ外皆露領シベリヤトス。其ウラヂヅオストク港ハ我北陸ト相望ム。朝鮮海峡ヲ南ニ下レバ則チ黃海ニシテ日清大海戰ハ皆人ノ知ル所ナリ。黃海ヲ南スレバ東海トナル。我琉球列島ハ支那本部ノ尤モ繁盛ナル地方トコノ東海ヲ挾ム。台灣ハ支那ノ福建省ト相對シ。其間台灣海峡ヲ夾ム。波羅夕暗礁多シ。台灣ノ南ニハフィリッピン諸島アリ。近頃アメリカ合衆國ノ領トナレリ。

日本列島ノ東西ハ悉ク太平洋ニシテ遙カニアメリカ大陸ニ對ス。橫濱ヨリ汽船ニ乗ジテ東行スレバ十二三晝夜ニシテ北米合衆國ノ海岸ニ

達ス。合衆國ハ現時本邦ト貿易上至大ノ關係アリ。

四、廣サ 凡ソ二萬七千方里アリテ歐羅巴ノ英吉利本國ヨリハ稍大

ニ。佛蘭西獨逸ヨリハ稍小ナリ。今又各五大島ニツキテ云ハハ大概左ノ割合ナリ。

四國	一四五
九州	二二五
臺灣	二二五
北州島	五
本州	一四五
其他諸島合計	一五
總計	二七

五、地勢 我ガ國ノ地勢ハ三個ノ連續シタル弓狀ヨリ成リテ亞細亞東部ノ堤防ヲナセルガ如シ。千島群島ハ其北端ニシテ沖繩列島及ビ台灣

ハ其南彎ヲナシ中部ハ則中彎ヲナス中彎ハ本邦陸地ノ主要ナル部分ニシテ猶細ニ其山脈ヲ調査スレバ南北ニクノ大山脈ノ結合ヨリ成ル門チ一ハ支那崑崙山脈ノ餘派ニシテ九州ニ入り中國及ビ四國ヲ經テ東ニ進ミ一ハ樺太山脈ニシテ樺太島ニ起リ北海道ヲ貫キテ本州ニ入り奥羽ヲ彌縫シテ西ニ進ミ甲斐信濃地方ニ於テ兩派ノ結合ヲナス從テ此地方ハ地体殊ニ隆起シ山岳高峻ナリ。

本邦ノ火山脈ハ主ナルモノニアリ其一ハ富士帶火山脈ニシテ遠ク南洋マリアナ群島ヨリ起リ小笠原島伊豆七島ヲ噴起シ箱根富士山八ヶ岳等ヲ經テ越後ノ妙高火山群ニ至ル。

其二ハ千島帶火山脈ニシテ千島諸島ヲ噴起シテ北州島ニ入ル其三ハ霧島帶火山脈ニシテ九州霧島山ヨリ河邊七島等ヲ經テ臺灣ノ大屯火山ニ至ル。

六、區劃

全國ヲ畿内八道ニ大別シ更ニ之ヲ八十五國ニ分チ別ニ台

灣アリ。

畿内	山城	大和	河内	和泉	攝津
東海道	伊賀	伊勢	志摩	尾張	三河
	豆	相模	武藏	安房	上總
					下總
東山道	近江	美濃	飛騨	信濃	上野
	前	陸中	陸奥	羽前	羽後
北陸道	若狹	越前	加賀	能登	越中
					越後
山陰道	丹波	丹後	但馬	因幡	伯耆
					出雲
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後
					安藝
南海道	紀伊	淡路	阿波	讚岐	伊豫
					土佐
西海道	筑前	筑後	豊前	豊後	肥前
					肥後
					日向
					大隅
					薩
北海道	渡島	後志	石狩	天鹽	北見
					膽振
					日高
					十勝
					釧

路 根室 千島

以上へ我國古來ノ區劃ニシテ今日政治上ニ於テハ四廳三府四十六縣ヲ置キテ全國ヲ管治ス

廳府縣	官廳所在地	管轄國名	廳府縣	官廳所在地	管轄國名
北海道廳	札幌區	北海道	東京府	東京市	武藏ノ内、伊豆ノ内、小笠原島
京都府	京都市	山城、丹波ノ内、丹後	大阪府	大阪市	河内、和泉、攝津ノ内
神奈川縣	横濱市	相模、武藏ノ内、兵庫	神戸市	神戸市	播磨、但馬、淡路、攝津ノ内、丹波ノ内
長崎縣	長崎市	壹岐、對馬	新潟市	新潟市	越後、佐渡
埼玉縣	浦和町	肥前ノ内	前橋市	前橋市	上野
千葉縣	千葉町	安房、上總	水戸市	水戸市	常陸、下總ノ内
栃木縣	宇都宮市	下野	奈良市	奈良市	太和
三重縣	津市	伊勢、伊賀、志摩、紀伊ノ内	名古屋市	名古屋市	三河、尾張
静岡縣	静岡市	駿河、遠江、伊豆ノ内	甲府市	甲府市	甲斐

滋賀縣	大津市	近江	岐阜縣	岐阜市	美濃、飛騨
長野縣	長野市	信濃	宮城縣	仙台市	陸前ノ内、磐城ノ内
福島縣	福島町	岩代、磐城ノ内	盛岡市	盛岡市	陸前ノ内、陸中ノ内、陸奥ノ内
青森縣	青森市	陸奥ノ内	山形市	山形市	羽前、羽後ノ内
秋田縣	秋田市	羽後ノ内、陸中ノ内	福井市	福井市	越前、若狹
石川縣	金澤市	加賀、能登	富山市	富山市	越中
鳥取縣	鳥取市	因幡、伯耆	松江市	松江市	山見、石見
廣島縣	廣島市	安藝、備後	岡山市	岡山市	隱岐、備前、備中、美作
山口縣	山口町	周防、長門	和歌山市	和歌山市	紀伊ノ内
德島縣	德島市	阿波	高松市	高松市	讚岐
愛媛縣	松山市	伊豫	高知市	高知市	土佐
福岡縣	福岡市	筑前、筑後、豊前ノ内	大分市	大分市	豊前ノ内、豊後
佐賀縣	佐賀市	肥前ノ内	熊本市	熊本市	肥後

宮崎縣	宮崎町	日向ノ内	鹿兒島縣	鹿兒島市	大隅、薩摩、日向ノ内
沖繩縣	那覇區	琉球諸島	臺北縣	臺北府	臺灣ノ内
台中縣	台中府	台灣ノ内	台南縣	台南府	台灣ノ内
宜蘭廳	宜蘭	台灣ノ内	台東廳	卑南	台灣ノ内
澎湖廳	馬公	澎湖列島			

第二編 地方誌

地理學上地方誌ヲ左ノ十二區域ニ別ツ

- 第一 關東地方
- 第二 奥羽地方
- 第三 東海地方
- 第四 東山地方
- 第五 北陸地方
- 第六 畿内地方
- 第七 中國地方
- 第八 四國附瀬戸内海諸島及瀬戸内海
- 第九 九州地方
- 第十 沖繩諸島
- 第十一 北海道
- 第十二 台灣

第一章 關東地方

一、區劃 中ニ東海道ノ相模、武藏、安房、上總、下總、常陸ト、及ビ東山道ノ

上野、下野トノ八ヶ國ヲ含ミ、政治上東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣、茨城縣、群馬縣、栃木縣、ノ一府七縣ヲ以テ之ヲ管轄ス。

二、地勢 此ノ地方ハ吾國ニ於ケル最モ有名ナル平野ニシテ西ニ富

士火山脈及ビ關東山脈ヲ以テ、伊豆、駿河、甲斐ヲ限リ、東北ハ阿武隈山脈、那須、帝釋、三國淺間ノ諸山脈ヲ以テ、信濃、越後、磐城、岩代ニ接シ、東南一帯太平洋ニ面ス、此間ハ廣大ナル平野ニシテ、面積大凡百三十方里、一畔限ナク、遙カニ蒼空ニ盡キ、僅カニ筑波ノ丘陵ヲ窺フノミナリ。

三、河流 地勢東南ニ傾斜セルヲ以テ、此間ノ河流モ亦皆東南ニ流レ

テ海ニ注グ、其最モ有名ナルモノヲ利根川、那珂川(四二隅田川(三〇)多摩川(一八)馬入川トス。

利根川上野ノ北境ヨリ發シ、此國ヲ貫キ、下總、常陸ノ間ヲ過ギテ銚子港ニ注グ、長サ七十餘里、水勢緩ニシテ、水量甚ダ深ク、下流ヨリ關宿ニ

至ルノ間ハ舟楫ノ便アリ、坂東太郎ト稱スルモノ則チ是ナリ。

四、海岸

南方ハ屈曲多ク伊豆半島ト房總半島トハ、東西相對シテ一
大灣ヲナシ、三浦半島其間ニ突出シテ相模洋ト東京灣トヲ分ツ、三浦半
島ハ丘陵起伏シテ房總諸山ト其質ヲ同ウス、東部ニ觀音崎アリ、猿島夏
島ト共ニ堅固ナル砲臺ヲ設ク、遙カニ富津ノ砲臺ト相對シテ以テ東京
灣ノ關門ヲ扼ス、東京灣深ク入ルコト十餘里以テ關東唯一ノ内海ヲナ
シ、帝國ノ首府ニ至大ナル便利ヲ與ヘタリ。

コレヨリ以北ハ屈曲多カラズ、下總ノ海岸ハ九十九里濱ト云ヒ、鰯ノ漁
ヲ以テ名アリ、其北ニ犬吠岬アリ、岩角波ニ峙チ燈臺ヲ設ク、是ヲ關東ノ
最東トス、常陸ノ海ハ鹿島灘ト稱ス。

關東ノ近海總テ鰯、鯉、鮪、鯛ノ漁利最大ナリ。

五、東京府

武藏ノ南部豆南七島及ビ小笠原群島ヲ支配ス、關東平野
ノ西部ヲ占メ多摩川、隅田川、中川等諸水ノ灌溉ヲ受ク、土地平坦ニシテ

肥沃ナリ

東京市ハ、我帝國ノ首府ニシテ東洋第一ノ大都會ナレバ、其規模ノ宏大
ナルコト言フ待タズ、南ニ東京灣ヲ控ヘ、隅田川東部ヲ貫流ス、全市東西
三里南北四里、人口殆ント百五十萬ニ至リ、世界ノ第六位ニ居ル、若シ廣
サニツキテ云ヘバ、ロンドン、ニューヨークニ次ギ、佛京パリト頡頏スト
云フ、

サシモノ大都モソノ昔ハ武藏野ト云ヒテ、彼ノ

武藏野ヤカギリシラレズ照ル月ノ草ヨリ出デ、草ニ入ルカナ
ト歌ヒタリシ茫々タル荒野ナリシガ、徳川氏覇府ヲ爰ニ開キテ江戸ト
稱ヘシヨリ、明治ノ初年皇居ヲ移シ給フニ及ビ東京ト改メラレ、爾來中
央政府ノ所在地トシテ、帝國ノ進運ト共ニ益々發達シ、遂ニ今日ノ盛況
ヲ見ルニ至レリ。

全市大概平坦ナリト雖、北部ヨリ西部ニ亘リテ小ナル丘陵起伏ス、故ニ

或ハ山ノ手下町ノ稱アリ、行政上ニハ全市ヲ十五區ニ分ツ、其十三區ハ隅田川ノ西ニ在リ、其二區ハ隅田川ノ東ニ在リ、市街ハ四通八達シテ、主要ノ街路ニハ馬車鐵道ノ設置アリ、電氣燈ハ夜ヲ照シテ殆ンド晝夜ノ別ナシ。

皇城ハ市ノ中央ナル麴町區ニアリ、濠渠 繞ラシ、城郭甚壯嚴ナリ、城内ニハ内閣、宮内省、樞密院、近衛師團等アリ、其他各省、官衙、國會議事堂、大審院、第一師團警視廳、外國公使館等宏大ナル諸官衙ハ城外ヲ周リテ散在ス、學校ニハ東京帝國大學ヲ初メトシテ、各種ノ學校備ヘラザルナク、公立圖書館ノ如キ廿萬卷ノ書籍ヲ藏ス。

市内ニハ各所ニ公園アリ、中ニモ上野公園ニハ動物園、博物館、東照宮等ノ見ルヘキモノ多ク、園内ハ櫻樹殊ニ多クシテ花季ニハ頗ル明媚ノ風致ヲ添フ、其ノ他淺草公園ニハ淺草寺、芝公園ニハ増上寺、九段公園ニハ靖國神社等アリテ皆有名ナリ、又郊外ニハ向島ノ堤、愛宕山ノ眺望、四子

坂ノ菊、龜井戸ノ梅、堀切ノ高瀨、飛鳥山、小金井ノ櫻、瀧ノ川、道灌山ノ紅葉等何レモ四時遊覽ノ勝地ナリ。

東京ハ只ニ政治教育ノ中心タルノミナラス、又實ニ帝國經濟ノ中心ナリ、市中銀行會社ノ數四百ヲ超エ、其資本金總額三億圓ニ至ラントス、日本橋區神田區ニハ豪商軒ヲ並ベ、本所區深川區ニハ盛大ナル工場多シ、錦繪、團扇、紫染、海苔等ハ本市固有ノ產物ナレドモ、近來製造業益々隆盛ニ趣キ、硝子細工、セメント、煉瓦、西洋紙、石鹼、麥酒及ビ各種ノ裝飾品等ヲ製出スルニ至レリ。

陸路ハ東海道、甲州街道、中山道、奥羽街道、水戸街道等ノ諸道ニ連ナリ、海路ハ總房相等ノ諸州ニ達セリ、鐵道ハ新橋、上野、飯田町、本所ノ四ヶ所ニ停車場ヲ設ケテ流車發着ノ用ニ具フ、東京市ノ西ナル八王子ハ織物ヲ以テ名高シ。

豆南七島ハ伊豆半島ノ南方ニ位ス、大島最モ大キク、利島、新島、神津島、三

宅島、御倉島其ノ西南ニ散布シテ遠ク八丈島ニ連ナル。居民ハ耕織、漁樵ニ從事セリ、中ニモ八丈島ノ居民ハ質樸ニシテ言語風俗共ニ内地ニ異ナル所多シ、八丈絹此地ニ出ツ。

小笠原島ハ豆南七島ノ南方ニアリ、父島、母島最モ大キク、其南ハ硫黄島ニ連ナル、此群島ハ久シク無人ノ境ナリシガ、今ハ人烟日々ニ増殖シテ五千ニ近キ人口ヲ有スルニ至レリ、土地ハ一般ニ肥ニ、椰樹、鳳梨、露兜、甘蔗、珈琲等熱帯ノ植物ノ生育ニ適シ、又漁業ノ利アリ、硫黄島ハ殊ニ硫黄ヲ産ス。

六、神奈川縣

神奈川縣ハ武藏ノ最南部及ビ相模全國ヲ支配ス、西

ハ箱根ノ諸山ヲ控ヘ、東南ハ一帯海ニ面ス、横濱市ハ縣廳所在ノ地ニシテ武藏ノ東南隅ニ位シ、我が國開港場中ノ第一ヲ占ム、港内ハ帆船常ニ林立シ、市街ハ整然トシテ商賈櫛ヲ列テ、殊ニ居留地ニハ魏々タル洋館相接シテ一種ノ奇觀ヲ呈ス、此處ヨリ主要ノ輸出品ハ茶、生絲、絹、手巾、銅

等ニシテ輸入品ノ主ナルモノハ綿絲、石油、砂糖、羅紗、機械雜貨類トス、其貿易額ハ殆二千萬圓ニ達シ、本邦全貿易額ノ半ヲ占ム。

横須賀ハ相模ニアリ、海内廣ク自然ノ良港ヲナセルニヨリ、第一海軍區ノ鎮守府ヲ置キ、軍事上極メテ重要ナル處ナリ、巨大ナル造船場アリテ艦船ノ建造修繕ニ從事セリ、史上ニ名高キ浦賀ハ横須賀ノ東南ニアリ、金澤文庫ノ遺址ナル金澤ハ横須賀ノ北ニアリ。

鎌倉ハ昔源賴朝ノ幕府ヲ開キシ地ニシテ名蹟舊趾ニ富メリ、鶴ヶ岡ノ八幡宮、鎌倉宮、建長寺、圓覺寺、長谷大佛等最モ名高シ、西海岸ナル七里ヶ濱ニハ稻村崎、龍口、腰越等ノ古蹟アリ、對岸ノ江ノ島ハ風景ノ絶佳ヲ以テ世ニ知ラル。

大磯ハ海水浴場ナルヲ以テ名高ク、小田原ハ後北條氏ニヨリテ史上ニ名高シ。

箱根ハ有名ナル温泉ノアル處ニシテ避暑ノ好地タリ、其ノ絶頂ノ蘆ノ

湖へ水清クシテ風光明媚ナリ、元來箱根へ其形狀地質ニ由テ察スルニ其太古ニ在リテハ猛烈ナル噴火ヲナシタルモノナレドモ今日ハ唯大地獄小地獄等ヲ殘スノミニシテ、有史以來嘗テ噴烟ヲ認メズ斯ノ如キモノヲ舊火山ト稱ス。

縣下ノ物産ノ主ナルモノハ秦野ノ烟草、濱物、鎌倉海老、挽物細工等トス、又根府川ヨリハ石材ヲ出ス。

七、埼玉縣

埼玉縣ハ武藏ノ北部大半ヲ支配ス、西部ハ秩父群山起伏スレドモ東部ハ利根川、荒川ノ灌域タル一面ノ平野ニ接ス。

浦和町ハ縣廳所在地ニシテ中山道ノ通路ナリ。

大宮ハ日本鐵道ノ東北線ト高崎線トノ二分スル所ニシテ、其ノ西ノ川越ハ甘藷ノ名産地ナリ。又川越所澤ハ共ニ織物ヲ以テ名高く、秩父地方ヨリハ石灰石、蠟石等ヲ出ダス。

八、千葉縣

安房上總ノ全部及ヒ下總ノ大部ヲ支配ス、北部ハ利根

川、江戸川ヲ限リ地勢概テ平坦ナレトモ、南部ハ山岳稍重ナリテ清澄、鹿野、鋸ノ諸山起伏セリ。

千葉町(二萬七千)ハ縣廳所在地ニシテ縣下第一ノ都會ナリ、第一高等學校ノ醫學部アリ、總武鐵道ハ東京ノ本所ヨリ起リ、佐倉ヲ經テ銚子ニ通ジ、成田鐵道ハ佐倉ヨリ成田ヲ經テ佐原ニ達ス。

江戸川ノ流域ニ關宿、野田、流山、行徳等ノ都會アリ、市川ノ北ナル國府臺ハ里見氏ノ古戰場ニシテ、近頃マテ教導團ノアリシ處ナリ、成田ノ新勝寺ノ不動尊ハ殊ニ世ニ名高く、佐原ノ東ノ香取神社ハ我が國最古ノ神社ナリ、銚子ノ海角ハ犬吠岬ニシテ、コヽヨリ西南ニカケ一弓彎ノ砂汀ヲナセルヲ九十九里濱トス、安房ノ海岸ニ勝浦、小湊、館山等アリ、小湊ハ日蓮上人ノ誕生地ニシテ名高く、館山ハ北條、木更津ト共ニ氣候溫和ナルニヨリ療養地トシテ知ラル。

縣下ノ物産ニハ野田醬油、流山味淋、行徳鹽、銚子縮布、佐倉炭、佐原酒、東金

茶、房州砂等名高シ。

九、茨城縣 茨城縣ハ常陸ノ全部、下總ノ西北小部ヲ支配ス。利根川ノ流域ヘ一般ニ土地平坦ナレドモ、北部ヘ阿武隈山脈ノ餘派重疊シテ中ニ筑波加波ノ諸山アリ。

水戸市(三萬二千)ハ縣廳ノ所在地ニシテ北ニ那珂川ヲ帶ビ南ニ千波沼ヲ控フ。此ノ地ヘモト徳川氏(三十五萬石)ノ城市ニシテ、偕樂園、弘道館等ノ如キ今猶舊型ヲ存シ、其ノ名義公、烈公、幽谷、東湖等ノ名ト共ニ高シ。殊ニ偕樂園ハ規模宏壯ニシテ風趣ニ富ミ、金澤ノ兼六園、岡山ノ後樂園ヲ併セテ日本三公園ト稱セラル。

日本鐵道ノ水戸線ハ霞ヶ浦ノ沿岸ヲ周リ、土浦、石岡等ヲ經テ此處ニ通シ、常磐線ハ勿來ヲ過ヤテ仙臺ニ連結シ、小山線ハ笠間、下館、結城ヲ經テ東北鐵道ニ會シ、太田鐵道ハ久慈川ヲ渡リテ太田ニ達ス。

磯濱町ハ漁業地ニシテ近傍ニ大洗ノ海水浴場アリ、河口ノ淺町ハ地方

ノ要津ニシテ市街モ亦盛ナリ。太田ハ徳川光圀公隱棲ノ地トシテ知ラレ、勿來ハ關趾トシテ名高シ。結城ハ鬼怒川ニ臨メル小都會ニシテ織物ヲ以テ現ヘレ、古河町ハ奥羽街道ノ衝ニ當ル一小都會ナリ。縣下ノ物産ニハ水戸煙草、西内紙、結城紬能ク世ニ知ラレ、西部地方ハ特ニ木綿ヲ産シ又各種ノ石材ヲ出ス。

十、群馬縣 群馬縣ハ上野ヲ支配ス。利根川上流ノ灌域ハ土地平ラカニ肥エ、桑ノ栽培ニ適シ、蠶業最モ盛ナレドモ北東西ノ三方ハ山岳ヲ以テ繞圍セラレ、淺間火山脈域内ヲ通過シテ處々ニ高山峻嶺ヲナス。前橋市(三萬)ハ縣廳ノ所在地ニシテ商業繁榮セリ、日本鐵道ノ兩毛線ハ高崎ヨリ來リ伊勢崎桐生ヲ經テ小山ニ連絡ス。

高崎(三萬)ハ交通上ノ要路ナルヲ以テ歩兵第十五聯隊ノ營所ヲ設ケラレ、中山道ノ通路ニシテ鐵道ハ西ハ信越線ニ通シ、西南ハ宮岡ヲ經テ上野鐵道ヲ連テ、東南ハ東京ニ至ル交叉點ニ當ルヲ故ニ市況賑ハシク且

ツ製絲ノ業盛ナリ、富岡亦製絲ノ業盛ニシテ伊勢崎ノ銘仙織、桐生ノ絹織物ハ共ニ世上ニ名高シ。

前橋ノ西北ニ聳ユル榛名山ハ有名ナル火山ニシテ赤城、妙義ノ二山ト共ニ上野ノ三山ト稱シ、奇秀ヲ以テ聞ユ、榛名山ノ東北ナル伊香保ノ温泉ハ草津ト共ニ古ヨリ世ニ知ラレタリ。

縣下ノ物産ハ絹織物ヲ以テ第一トス。

十一、栃木縣

栃木縣ハ下野ヲ支配ス三方山岳ニ圍マレ中央以南ハ平野開ク地味麻ノ栽培ニ適ス。

宇都宮市(三萬七千)ハ縣廳ノ所在地ニシテ奥羽街道ノ要路ニ當ルヲ以テ甚ダ繁盛ナリ、鐵道ハ東京ヨリ遠シ、那須野原ヲ經テ磐城ニ通シ、一ハ日光鐵道ニヨリテ日光ニ連絡ス、市ノ東南ナル真岡ハ小都會ナレトモ木綿ヲ以テ名高シ。

日光ハ男體白根等ノ踏山ヨリ成レル二荒山ノ南麓ニ位シ、此處ニ肥レ

東照宮ハ金碧燦爛トシテ建築ノ精好壯麗ナルヲ以テ其ノ名海内ニ轟ク、男體山ノ南麓ニ中禪寺湖アリ、其ノ水流レテ華嚴瀧トナリ、裏見瀧、霧降瀧等ト共ニ勝景ヲ以テ名高シ、日光ノ西南ナル國境ニ足尾山アリ、本邦第一ノ銅山ナリ、壯大ナル機械ヲ以テ盛ニニ採掘ス。

小山ハ水戸兩毛二線ノ交叉點ニシテ兩毛線ハ栃木、佐野、足利ヲ經テ前橋ニ達ス、栃木ハ縣下第二ノ都會ニシテ北ノ鹿沼ト共ニ麻ノ產地ナリ、佐野ハ木綿、鍋釜等ノ鑄物ヲ以テ聞ユ、佐野鐵道ハ北ハ葛生、南ハ越名ニ通ズ、足利ハ足利絹ヲ出ス、其ノ足利學校ハ小野篁ノ創立セシ所ト傳フ、蓋シ古ノ國學ノ遺制ナルヘシ。

縣下ノ物産ハ足尾ノ銅ヲ主トシ、鹿沼麻、足利絹、日光塗等ノ特産アリ、米穀綿煙草亦著名ナリ。

十一、括論

平原一面山脈ノ遮ギルモノナキヲ以テ交通自在ニシテ氣風モ亦相類似ス、由來素朴ニシテ雄健ナリ、賴山陽ハ關東ハ日本ノ

胸腹ナリト云ヒタリ。

農業至ル所ニ開ケ、八州ノ産額米麥合セテ一千萬石アリ、蠶業亦一般ニ盛ンカントモ殊ニ群馬縣ヲ主トス。

歴史上ノ人物ニ於テ記憶スベキ人三三ヲ舉グレバ下總ノ伊能忠敬佐倉宗吾、安房ノ日蓮、兩野ノ新田、足利二氏、高山彦九郎相模ノ前後北條氏及二宮尊徳翁、常陸ノ光圀卿等ナリ、太田道灌モ相模ニ出ヅ。

練習問題

- 一、日本ヲ組ミ立ツル三彎ヲ説明セヨ、
- 二、日本ノ三大火山脈ヲ説明セヨ、
- 三、關東沿海ノ海産物ハ何ゾ、
- 四、關東ニ於テ織物ヲ以テ名アル都會數ヶ所ヲ舉ゲヨ、
- 五、沿海ノ港數ヶ所ヲ舉ゲヨ、
- 六、舊火山トハ如何ナルモノナリヤ、
- 七、關東ヨリ出テタル有名ナル歴史上ノ人物ヲ舉ゲヨ、八、有名ナル神社寺院各二ツヲ記セ、
- 九、關東ニ於ケル縣ノ名及其所在地ヲ舉ゲヨ、
- 十、小笠原島ノ事ヲ記セ、
- 十一、關東ノ地勢ヲ圖ヘヨ、

第二章 奥羽地方

一、區劃

奥羽ハ磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後ノ七國ヲ含ミ、福島縣宮城縣巖手縣青森縣秋田縣山形縣ノ六縣ヲ置テ是ヲ支配ス。

二、地勢

奥羽ノ廣サハ關東ニ倍スト雖、山脈域内ニ亘リテ平地多カラズ關東地方トハ全ク其地貌ヲ異ニセリ、今其山脈ヲ通覽スルニ、大略三條ヨリ成リ、共ニ縦ニ南北ニ向テ走レリ、其中央ニ在ルモノヲ分水山脈トシ、東側ニ在ルモノヲ北上山脈及阿武隈山脈トシ、西側ニ在ルモノヲ羽越山脈トス。

分水山脈及羽越山脈ハ共ニ火山性ニシテ、殆ンド平行シテ南ニ走リ磐代ニ至リテ兩脈漸ク相近キ、上野越後ノ境ニ於テ相合シテ三國山脈トナル、而シテ此兩山脈ノ間ニアル平地ハ細ク長キ平原ヲナサズシテ、數條ノ横走山脈アリテ以上ノ兩脈ヲ結合シ、爲メニ階段狀ノ地形トナリテ其間ニ大概五箇ノ平原ヲ含メリ。

胸腹ナリト云ヒナリ。

農業至ル所ニ開ケ、八州ノ産額米麥合セテ一千万石アリ、蠶業亦一般ニ盛シカントモ殊ニ群馬縣ヲ主トス。

歴史上ノ人物ニ於テ記憶スベキ人三三ヲ舉ゲ、下總ノ伊能忠敬、佐倉宗吾、安房ノ日蓮、兩野ノ新田、足利二氏、高山彦九郎、相模ノ前後北條氏及二宮尊徳、常陸ノ光圀、脚等ナリ、太田道灌モ相模ニ出ヅ。

練習問題

- 一、日本ヲ粗ミ立ツルニ三條ヲ說明セヨ。
- 二、日本ノ三太火山脈ヲ說明セヨ。
- 三、關東沿海ノ海産物ハ何ゾ。
- 四、關東ニ於テ植物ヲ以テ名アル都會數ヶ所ヲ舉ゲヨ。
- 五、沿海ノ港數ヶ所ヲ舉ゲヨ。
- 六、富士山トハ如何ナルモノナリヤ。
- 七、關東ヨリ出テタル有名ナル歴史上ノ人物ヲ舉ゲヨ、八、有名ナル神社寺院各二ツヲ記セヨ。
- 九、關東ニ於ケル縣ノ名及其所在地ヲ舉ゲヨ。
- 十、小笠原島ノ事ヲ記セヨ。
- 十一、關東ノ地勢ヲ陳ヘヨ。

第二章 奥羽地方

一、區劃

奥羽ハ磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後ノ七國ヲ含ミ、福島縣宮城縣巖手縣青森縣秋田縣山形縣ノ六縣ヲ置テ是ヲ支配ス。

二、地勢

奥羽ノ廣サハ關東ニ倍スト雖、山脈域内ニ亘リテ平地多カラズ關東地方トハ全ク其地貌ヲ異ニセリ、今其山脈ヲ通覽スルニ、大略三條ヨリ成リ、共ニ縦ニ南北ニ向テ走レリ、其中央ニ在ルモノヲ分水山脈トシ、東側ニ在ルモノヲ北上山脈及阿武隈山脈トシ、西側ニ在ルモノヲ羽越山脈トス。

分水山脈及羽越山脈ハ共ニ火山性ニシテ、殆ンド平行シテ南ニ走リ磐代ニ至リテ兩脈漸ク相近キ、上野越後ノ境ニ於テ相合シテ三國山脈トナル、而シテ此兩山脈ノ間ニアル平地ハ細ク長キ平原ヲナサズシテ、數條ノ横走山脈アリテ以上ノ兩脈ヲ結合シ、爲メニ階段狀ノ地形トナリテ其間ニ大概五箇ノ平原ヲ含メリ。

五箇ノ平原ニ相應シタル五條ノ河流ハ各分水山脈ヨリ發シ、羽越山脈ノ間ヲ裂キテ各西流シテ日本海ニ注ダリ、五箇平原ノ内最モ北ニ在ルモノハ陸奥ノ弘前ノ平原ニシテ、岩木川コノ間ヲ流ル、第二ハ能代川ノ平原ニシテ、第三ハ御物川ノ平原、第四ハ山形ノ平原ニシテ、最上川迂曲シテコノ間ヲ流ル、長サ六十二里、水勢猛烈ニシテ本邦三急流ノ一ト稱ス、第五ハ會津ノ平原ニシテ猪苗代ノ湖水ヲ涵ヘ、阿賀ノ川此平原ヨリ流レ出ヅ。

今又更ニ分水山脈ノ東面ヲ見レバ、西面トハ頗ル其趣ヲ異ニセリ、北上山脈ハ陸奥陸中ノ境ヨリ起リ、早池峰、(六六〇〇尺)ニ至リテ最モ高ク、更ニ南ニ延ビテ牡鹿半島ニ盡ク、コノ山脈ト分水山脈トノ間ハ細長キ一條ノ低地ヲナセリ、是ヲ奥ノ平野ト稱ス、北上川其間ヲ流ル、奥ノ平野ハ是ヲ分テ二トナシ、北部北上川ノ沿岸ハ是ヲ北上平野ト稱シ、南部ハ別ニ宮城野ノ稱アリ、北上川全長七十九里、石卷ニ至リテ牡鹿灣ニ入ル、流勢

緩カニシテ灌溉漕運ノ便ヲ與フルコト少カラズ、本邦有數ノ良河ナリ、

三、海岸

北上山脈、牡鹿半島ニツキテ阿武隈山脈未ダ起ラザルノ處、海水深ク灣入シテ仙臺灣ヲナス、大河コノ灣ニ注ギ、島嶼コノ間ニ散布ス、有用ナル港灣コノ間ニ少ナカラス、宮城野ハ此灣ヲ得テ初メテ奥羽第一ノ良地トナレリ、是ヨリ以南磐城ノ海岸四十里ハ略弓形ヲナシ、大體平衍ニシテ沃壤、米穀、漁鹽ノ利アリ、二三ノ港灣アレドモ水淺クシテ大船ヲ容ルルニ便ナラズ。

更ニ牡鹿半島ノ端金華山以北ハ海岸鋸齒狀ヲナシ、出入極リナシト雖、大概斷岸削ルガ如ク良港ヲ得ルコト難シ、地質モ亦礫礫ナリ、閉伊崎ヲ過ギテ海岸稍西北ニ轉ズ、此三陸海岸百數十里ノ間、曾テ海嘯ノ爲非常ノ慘害ヲ受ケタリ、明治廿九年六月十五日、岩手縣節句ノ夜、午後八時頃、海上ニ當リテテ來リ、八千ノ家屋ト三萬ノ生靈トハ瞬間ニシテコノ怒濤ノ爲ニ奪ヒ去ラレタリ、中ニモ釜石ノ如キハ最モ甚シク當時生命ヲ全クセシモノハ五分ノ一ニ過ギザリキト云フ。

海嘯ハ海底ニ起ル地震ニシテ凡ソ海底ニ地ニアルトキ此運動ハ一方ニハ直接ニ海水
ヲ震盪シテ津浪ヲ起サシメ一方ニハ地盤ヲ震盪シテ地震ヲ起サシム安政元年下田ノ
津浪モ有名ナリ。

陸奥ノ境ニ入りテハ沙濱遠ク連ナル、湖沼此間ニ散在ス、尻矢岬ヲ過ギ
テ海岸西ニ轉ジ、潮勢急激ナル津輕海峽ヲ進ンデ大間岬ニ至ル、實ニ本
州ノ最北岬ナリ、下北半島ト津輕半島トハ陸奥内海ヲ擁シ、其内良港少
ナカラズ、龍飛岬ヨリ南シテ岩木川平野ノ濱ヲ過グレバ、海岸再ビ峻峻
奇岩往々海中ニ峙ツ、兩羽ノ海岸ハ一般平直ニシテ田圃遠ク連ナル、獨
リ男鹿半島海中ニ突出シテ八郎瀨ヲ擁スルアルノミ、此一帶冬期ハ寒
風波浪ヲ揚ゲ航行頗ル不快ナリトス。

四、福島縣

磐城ノ大部岩代ノ全部ヲ管ス。

東京ヨリ汽車ニ乗リテ下野奈須野原ヲ過クレバ地勢狹隘トナリ、奥羽
ノ地ニ入り白河(二萬四千)ニ達ス、馬ノ賣買ヲ以テ名高シ、其近傍古關村ハ
則古昔白川關ノ有リシ處ナリ、山峯峨々トシテ僅カニ一溪路ノ通ズルアル
ノミ白河ノ細流其傍ヲ流ル能因法師ノ「部」をば置
と共に立ちしかば秋風ぞ吹く白河の關の歌世に高し。

是ヨリ地勢北ニ開キ阿武隈川ニ沿ウテ須賀川(二萬)郡山(二萬)二本松等
製糸業ノ盛ナル地方ヲ過ギテ福島町ニ達ス、二本松ハ紬ヲ産シ白河ト
共ニ維新ノ際激戦アリシ地ナリ、郡山ノ東ニ三春アリ、馬ノ產地ニテ三
春駒ノ名世ニ著ル、福島町(人口一萬九千)ハ縣廳所在地ニシテ、生絲蠶卵
紙ノ賣買甚盛シナリ、東京ヨリ汽車ハ約十時間ニシテ達ス、

汽車ハ郡山ヨリ分岐シ、吾妻山磐梯山等ノ火山ヲ北ニ望ミ、猪苗代湖(周
回十三里)ノ傍ヲ過ギテ、若松ニ達ス、(中央火山脈ハ吾妻山附近ニ於テ爆烈セリ
熱破裂シテ山中數個ノ湖水ヲ生シ廿六年ニハ吾妻山破裂シテ三浦西山ノ南理學士ヲ
シテ其實驗ニ曉レシメ今年七月廿一日沼尻硫黃山噴火シテ數多ノ工夫ヲ埋没シタリ)

若松市(人口二萬九千松平氏)ハ會津平野ノ略中央ニ位シ越後街道ノ要路
ニ當ル、盛シニ會津塗ヲ産シ、蠟燭亦名アリ、藥用人參ハ本邦ニ於テ此地
方ヲ主ナル產地トス、

福島ヨリ桑園多キ地方ヲ北ニ進メバ、東ニ靈山ヲ望ミ、半田銀山ヲ西ニ

見テ、白石ヲ過ギ、宮城縣ニ入ル。(靈山ニハ北畠氏ノ城趾アリ、又靈)羽前ニ通ズル汽車ハ福島ヨリ分レ、板谷峠ノ十九ノ隧道ヲ經テ米澤ニ達ス。

磐城ノ東海岸ニハ常陸ヨリ勿來ヲ過ギテ來ル濱街道アリテ、鐵道全通ス、平(人口一萬)近傍ニハ炭坑多ク、磐城炭ト稱シテ其南ノ小名濱港ヨリ積出ス、中村(相馬氏ノ舊城地)ヨリハ相馬燒ヲ出ス、多ク奔馬ヲ描ク、中村ノ東ノ海岸ハ松川浦ト稱シ、風景甚佳ナリ。

本縣下ハ養蠶製絲及蠶種製造ノ業甚ダ盛ンニシテ、群馬長野二縣ト共ニ本邦ニ冠タリ、其山林原野ヨリ出ス材木モ亦莫大ナリ、磐城ノ沿海ハ鯉ノ漁最モ多シ。

五、宮城縣

奥州街道ハ本縣下岩沼驛ニ於テ濱街道ト相合シ、埋木ノ産ヲ以テ有名ナル名取川ヲ渡リテ、仙臺ニ入ル、東京ヨリ汽車約十二時間程ナリ、仙臺ハ奥羽第一ノ都會ニシテ、宮城野ノ西部ニ位シ、人口八萬三千伊達氏ノ舊城市ニシテ現時縣廳第二師團司令部第二高等學

校等ヲ此ニ置ク、故ニ軍事上教育上ニ於テモ亦東北ノ中心タリ、青葉神社、躑躅岡等ハ市内ノ勝地トス、市ノ名産ニハ仙臺平、八橋織埋木細工等アリ、仙臺ヨリ東行スレハ松島灣頭ニ鹽竈アリ、古來製鹽ヲ以テ名アリ、日本三景ノ一ナル松島ハユノ處ニ在リ、海水深ク陸地ニ入りテ一小灣ヲナシ、灣内無數ノ島嶼ヲ殘ス大ナルモノハ周圍數里ニ至リ、小ナルモノハ一塊岩ニ過ギズ大小島嶼悉ク松ヲ戴キ、其風光ノ明媚ナルコト三景中特ニ松島ヲ推スト云フ、釋南山詩アリ曰ク天下有山水各擅一方美衆美歸松島天下無山水鹽竈ノ西ニ多賀城ノ古趾アリ、鹽ノ碑猶存ス、松島ヨリ海岸ヲ東行スレバ石卷港ニ至ル、北上川ノ河口ニ位ス、港内水深ク汽船河ヲ上下シ縣下商業ノ中心タリ、牡鹿半島ニ至レバ荻濱港アリ、橫濱函館ニ向ツテ汽船ノ便アリ、半島ノ南端ニ金華山島アリ、突兀波ニ立ツコト八十丈昔ハ陸奥山ト稱シ、本邦ニ於テ初テメハ金ヲ出セシ所ナリト云フ。

すべらぎの御世さかえんとあづまなる

みちのくやまにこがねはなさく。 大伴 持家

細倉鑛山ハ國ノ西北ニアリ其鉛産ハ本邦總額ノ過半ヲ占ム沿海ニハ
鯉鯛ノ産アリ殊ニ仙臺鮪有名ナリ。

六、岩手縣

陸中ノ大部陸前陸奥ノ一部ヲ管ス。

汽車ニテ仙臺ヨリ北上平野ヲ北ニ進メバ陸中一ノ關ニ入ル平泉ヨリ
衣川ヲ渡ル此邊古跡多シ平泉關趾(藤原秀衡ノ館趾)高館(即チ衣川ノ館趾ニシテ義經ノ寄寓セシ所)衣
川柵趾(阿部貞任ノ討死セシ所)及中尊寺(行基ノ開基)等アリ中ニモ中尊寺ニハ藤原秀衡
等三代ノ廟アリテ其光堂ハ今モ猶昔ノ面影ヲ改メズ其建築彫刻ハ美
術家ノ嘆稱スル所ナリト云フ北上河沿岸田圃遠ク連ナル所ヲ進ミ商
業上ノ一都會黒澤尻ニ至ル舟楫ノ便河口ヨリコヽニ至ル仙臺ヨリ汽
車ハ約六時間ニシテ盛岡ニ達ス。

盛岡(南部氏廿萬石ノ城地)ハ縣廳ノ所在地ニシテ又道路ノ四達スル中心タリ。

南部紬鐵瓶林檎等ノ産アリ近傍ニ厨川ノ柵趾(安部貞任ノ據リシ處)アリ盛岡ノ西
北ニ聳ユル岩手山(五六七尺)ハ南部富士ノ稱アリ。

釜石港ハ東海岸ノ南部ニ在リ鐵鑛ヲ以テ名高ク近傍仙人峠ハ本邦第
一ノ鐵山ニシテ七百萬噸ノ鐵ヲ藏スト云フ宮古モ亦良港ナリ。

本縣ノ地タル山岳多シト雖其間平野亦少ナカラズ從テ牧畜盛ンニシ
テ殊ニ南部馬ノ名高シ海産ニハ鮪烏賊鱒鮭昆布アリ。

七、青森縣

陸奥ノ大部陸中ノ一部ヲ管ス

東北鐵道ハ馬淵川ニ沿ウテ岩手縣ヨリ本縣ノ域ニ入り八戸(人口一萬二千)
ニ着ス商業頗ル盛ンニシテ近傍ニ湊鮫ノ二港アリテ海運ノ便ヲナス。
八戸ヨリ平野ノ間ヲ北ニ進ミ小河原沼ノ近傍ヲ過ヤテ陸奥内海ノ沿
岸ニ沿ヒ南ニ八甲田山ヲ望ンテ青森ニ達ス。

陸奥内海ノ口ハ兩半島蝸牛ノ角ノ如ク延ビテ平館海峽ヲ挾ミ夏泊崎
南ヨリ出テ野邊地灣ト青森灣トヲ分ツ。

青森市(人口二萬七千)ハ縣廳ノ所在地ニシテ海陸交通上ノ要區ナリ函館マ
 デ五十六里半夜ニシテ達ス弘前市(人口三萬一千津輕)ハ津輕富士(五二四)
 ナル岩木山ノ麓ニ在テ縣下第一ノ都會タリ第八師團ノ司令部ヲ此ニ
 置ク產物ニハ津輕塗アリ、下北半島ノ大湊ハ軍港ノ豫定地トナレリ。
 當縣海產物ニハ鱒、鱒、貝柱、乾鮑、昆布アリ、其他林檎、材木(松柏科ノ内殊ニ羅
 キト云)又鑛物ニハ恐山ノ硫黃及ビ滿俺ヲ出ス。

八、秋田縣

羽後ノ大部陸中ノ一部ヲ管ス。

汽車ハ弘前ヨリ南シテ矢立峠ヲ越エ羽後ノ大館ニ達ス本縣下ニ於テ
 汽車ノ便ヲ得ルハ僅カニ數里ニ過ギズ大館ヨリ能代川ニ沿ウテ下レ
 バ能代ニ出ヅ其南ナル男鹿半島ノ沿岸ハ名所多ク風景ノ佳ナルコト
 松島ニ讓ラズト云フ半島ノ南ニ舟川港アリ縣下最良ノ港トス、
 秋田市(人口二萬六千佐竹氏)ハ縣廳ノ所在地ニシテ御物川ノ下流ニ位シ
 河口ニ土崎港ヲ控ヘ、多ク材木米ヲ輸出ス。秋田畝織殊ニ有名ナリ、市

ノ東ニ高清水ノ城址(秋田氏ノ世々)アリ御物川ノ平原ニ從ヒテ東南ニ
 進メバ金澤柵趾(源義家ガ清原家衡)ノ近傍ヲ過キ院內村ヲ經テ羽前ニ
 入ル飛鳥ハ海上十里許ノ所ニ在リテ居民千餘皆漁業ヲ營ム。
 本縣山脈中ニハ多量ノ鑛物ヲ含有シ、小坂、阿仁、院內ノ諸鑛山何レモ銀
 ヲ産シ、其總額本邦全額ノ殆ド半ヲ占ム、尾去澤、尾澤、阿仁、荒川ノ諸鑛山
 ヨリ出ヅル所ノ銅ハ其多量ナルコト下野ノ足尾及伊豫ノ別子ノ次ニ
 位ス、秋田フキ秋冬ハ特ニ珍シク高七八尺葉ハ傘ノ如シ本縣北半部ノ杉材
 ハ本邦ニ於テ有名ナルモノニシテ夙ニ秋田杉トシテ其名著レタリ、海
 産ニハ鱒ヲ多量トシ、河ニハ鮎ヲ産ス。

九、山形縣

羽前ノ全部羽後ノ一部ヲ管ス。

秋田ヨリ海岸ヲ南行シ島海山ノ高峯(七〇五)ヲ東ニ見テ進メバ酒田港
 ニ達ス酒田町(人口二萬)最上川ノ河口ニ位シ、縣下唯一ノ要港ナリ、最上
 川沿岸ノ穀物ヲ輸出ス、其南ニ鶴岡アリ(人口二萬酒井氏十)此地方ハ庄

内ト稱ス、羽黒、月山(六四八五尺)、湯殿ノ三山、其東南ニ聳ユ、是等ノ山ハ共ニ行者ノ尊信スル所ナリ。

羽後ノ院内ヨリ南行スレバ、羽前ノ新庄ニ出ヅ、其龜綾織ハ世ニ名高シ、コレヨリ最上川ニ沿ウテ上レバ、山形ニ達ス、山形市(人口三萬四千)縣廳ノ所在地ニシテ、道路四方ニ通ジ、市況モ亦盛ンナリ、市ノ西部ニ大沼アリ、周圍十餘丁、數十ノ浮島、集散離合ス、山形ヨリ南行シ、赤湯ニ至レバ、温泉アリ、一浴ノ後、汽車ニ乗シテ、米澤(人口三萬上杉氏十萬石ノ舊城地)ニ至ルベシ、米澤織ノ名世ニ高シ、此ノ邊、養蠶モ亦盛ンナリ。

縣下能ク米ヲ産シ、最上川ノ沿岸ハ、薄荷ノ産ニ富ミ、コレヨリ薄荷油、及薄荷腦(結晶)ヲ製シ、歐米ニ輸出ス、養蠶製絲ノ業亦盛ナリ。

十、括論

奥羽ノ地タル東北ニ偏在シ、山岳險峻ナルヲ以テ、長ク蝦夷人ノ占居スル所トナリ、北上川ノ上流地方ハ、殊ニ官軍ヲ惱シタリ、下リテ、安信清原氏ノ亂モ亦此天險ヲ利用スルニ由レリ、然レテ後世ニ至

リテ有名ナル人少ナカラズ、仙臺侯伊達政宗、米澤侯上杉鷹山公ノ如キ最モ著シキモノナリ、羽後ノ佐藤信淵ハ農學者トシテ又名高シ。

阿武隈川ノ平原、奥羽ノ平野、及西部五箇ノ平原ハ、皆能ク米穀ヲ産スト、雖モ其段別多カラザルヲ以テ、收穫モ亦關東ノ半ニ過キズ、然レドモ福島岩手ノ牧馬、及一般ニ鑛産林産ニ富メルコトハ、此地方ノ特ニ著シキ所ナリ、福島山形ノ養蠶モ亦大ニ注意セザル可カラズ。

第三章 東海地方

一、區海 此地方内ニハ伊豆、駿河、遠江、三河、尾張、伊勢、志摩、伊賀ノ八國ヲ含ミ、静岡、愛知、三重ノ三縣ニテ管治ス。

二、地勢 南ハ大概茫々タル太平洋ニ臨ミ、北ハ木曾山脈、赤石山系(赤石山高一萬百九十七尺)等ニ由リテ、東山道ニ界シ、而シテ富士帶火山脈ハ關東トノ間ヲ劃シ、富士山ハ實ニ甲駿ノ間ニ峙テリ、紀伊山脈ハ紀伊ヨリ東ニ走リテ、志摩半島ニ盡キ、鈴鹿山脈美濃近江ノ間ヨリ南走シテ、伊勢ト伊

賀トチ分ツ、伊賀ハ鈴鹿山脈ト笠置山脈トノ間ニ在リ、伊勢内海ハ陸地ヲ縦斷シテ彎入スルコト猶關東ノ東京灣ニ於ケルガ如ク、海水盡クル所低地ハ更ニ北ニ開キテ尾濃ノ大平原ヲ形成セリ、從テコノ平原及海岸一帶ハ平野遠ク連ナルト雖、紀伊ノ西及南、駿遠三ノ北部ノ如キハ海岸ヲ去ルノ度ニ從テ山岳次第ニ重疊セリ。

三、海岸

伊勢ノ海岸ハ沃野遠ク連ナレドモ、志摩ハ山骨波浪ニ接シ海岸多ク嶮ナリ、知多半島ト渥美半島ハ木曾山脈ト赤石山系ノ餘脈ヲ受ケテ突出シ、各同名ノ灣ヲ擁シ志摩ト共ニ内海ノ口ヲ扼ス、此邊島嶼散在セリ、遠江ノ濱名湖ハモト湖水ナリシガ、今ハ潮水通ジテ灣トナレリ、御前崎ヨリ以東海岸東北ニ屈シ伊豆半島ト共ニ駿河灣ヲ擁ス、伊豆ノ海岸ハ概テ峻急ナリ、其南端ヲ石廊崎トイフ、コノヨリ志摩ノ大王崎ニ至ル間舟行七十五里所謂遠州灘ニシテ風濤嶮惡古來舟人ノ恐怖スル所ナリ。

三、河流

富士川ハ甲斐ヨリ來リ舟楫ヲ通ズルコト十八里、迅キコト飛ブガ如シ、日本三急流ノ一トス、大井川ハ駿遠ノ界ヲ劃ス、平時水量多カラザレドモ、時トシテ亦氾濫ノ恐アリ、天龍川(六十里)諏訪湖ヨリ發シ、遠江ニ入リテ巨流トナリ、掛塚ノ港ニ注グ、木曾川(四十六里)源ヲ信州木曾谷ニ發シ、數派ニ分レテ伊勢海ニ朝ス、沿岸ノ平野ヲ潤スノ利多シト雖、其水害ヲ與フルコト少ナカラズ、其他三河ニ矢作川アリ、伊勢ニ宮川アリ。

四、静岡縣

伊豆駿河遠江ノ全部ヲ管治ス。

相模ノ小田原ヨリ人車鐵道ニ乗ジテ伊豆ノ熱海ニ至ルベシ、熱海ハ有名ナル間歇泉ニシテ時ヲ定メテ熱湯ト蒸氣トヲ噴出ス、今ハ人工ヲ以テ其口ヲ塞ギタルヲ以テ噴出ノ狀ヲ見ルコト能ハズ、熱海ヨリ南行スレバ天城山ヲ望ムベシ、コノ山良材薪炭ヲ出ス、其南ニ下田港アリ、維新ノ前開港場トナリシコトアリ、天城山ノ北ニ修善寺ノ温泉アリ、(源頼家ノ試セ)

シラレソレヨリ韭山北條ヲ經テ沼津(一萬二千)ニ至ル。沼津ハ冬期モ氣候溫和ニシテ且風景明媚ナルヲ以テ頗ル保養ニ適ス。其近傍ニハ海水浴場アリ。

東海道鐵道ハ相模國府津ニ於テ舊道ト岐レ、幕府ノ時嚴メシキ關所ヲ置キシ箱根峠ヲ南ニ見テ足柄山ノ北麓ヲ廻リ駿河ノ御殿場ニ出ヅ、富士山ニ上ル路ハ爰ヨリ岐ル。

富士山ハ海拔殆ド一萬二千五百尺ニ達シ頂上ニ登レバ十三州ヲ俯視スベシ極ノ壯觀ナリ夏季登山者數萬ニ達ス絶頂ニハ舊火坑アリ周圍一里ト稱ス未ダ雪候ニ達セズト雖モ早曉ニハ寒威凜烈ナルヲ以テ登山者ハ防寒ノ用意ヲ要ス氣象觀測所巡査駐在所等ノ設置アリ此山古來活火山ニシテ寶永年間噴火ノ際山腹ニ一峯ヲ生ゼリ是ヲ寶永山ト稱ス當時噴煙數ンテ休眠火山トナレリ麓ハ一面火山灰火山岩流岩ニ山ヲ掩ハレ人穴胎内穴等ノ奇觀多シ

汽車ハ沼津ヨリ浮島沼ノ傍ヲ過ギ進ンテ富士川ヲ渡レバ平家ノ潰走ヲ想起スベシ、コノ邊沿岸一帶田子浦ト稱シ風景賞スベク北ニハ富士ノ秀嶺ヲ望ム。

田子の浦に打出でて見れば真白にる

富士の高根に雪は降りける 山邊 赤人

清見瀉ヨリ三保松原ノ邊バ汽車ヨリ海上ノ波光ヲ眺望スベシ清水港此處ニ在リ、ヤガテ久能山ヲ過ギテ静岡市ニ着ス。静岡市(人口三萬)ハモト駿府ト稱ス、徳川家康退隱ノ地ニシテ東海道中名古屋ヲ除キ、コノ市ヲ最モ盛ンナリトス。静岡縣廳ノ所在地ニシテ城趾尙舊觀ヲ保テリ。汽車ハ東京ヨリ約六時間ニテ達ス、加之清水港ノ便ヲモ有スルヲ以テ物貨ノ集散盛ンナリ。市ノ產物ニハ竹細工漆器アリ、市ノ北方ニ臨濟寺アリ臨濟宗ノ本山ニシテ今川氏ノ廟アリ、市内ニハ淺間神社アリテ結構壯麗ナリ、山田長政ハ此地ノ產ナリ。

静岡ヲ過グレバ燒津アリ、日本武尊ヲ想起セシム。汽車ハヤガテ大井川ノ鐵橋ヲ渡ル、マタ、古昔連臺越ノ影モ見ズ、大井川以西ハ遠江ナリ、小夜ノ中山ハ今ハ金谷ノ隧道トナレリ、金谷地方ハ製茶ノ業盛ンナリ、御前崎近傍相良ニハ石油ノ產アリ、天龍川ヲ越ユレバ間モナク濱松ニ着ス、濱松

(人口一萬九千)ハ遠州第一ノ都會トス。加茂真淵ハ此處ニ出ヅ、其北ニ三方原ノ古戰場アリ、又天龍川ノ上流ニ秋葉神社アリ、濱名湖ノ口ヲ今切ト稱ス、湖中ハ汽船往來シ、風光モ亦佳ナリ、今切ヲ越ユレバ忽ニシテ三河ノ豊橋ニ達ス、

本縣下ハ本邦ニ於ケル茶ノ主産地ニシテ其産額三百萬貫ニ達シ、本邦全額ノ三分ノ一ヲ占ム、其他駿河半紙、興津鯛、遠州ノ疊表、伊豆ノ石材、木材、鯉節、山葵等有名ナリ、又沼津近傍ノ藍ハ外國ニ輸出ス、

五、愛知縣

三河尾張ヲ管ス、

豊橋(人口二萬一千舊名吉田ト云フ)ハ豊川ノ流レニ臨ミ商業盛シナリ、有名ナル第十八聯隊ハ此ニ居ル、豊川稻荷其近傍ニ在リ、豊川鐵道ハ豊橋ヨリ分レテ新城ニ至ル、是ヨリ長篠古戰場(信長大ニ勝賴ヲ破リシ所)ヲ經テ鳳來寺ニ詣ルベシ、豊川ヨリ西行スレバ岡崎(一萬八千)ニ至ル(本多氏五萬石ノ舊城地)、コノ地ハ徳川氏創業ノ地ニシテ三州第一ノ都會トス、汽車ハヤガテ矢作川ヲ渡リ知多半島ノ頭

部ヲ西北ニ走リ、桶狭間古戰場(織田信長ノ今川ノ勝)、木綿ヲ産スル

有松鳴海ヲ右ニ望ミテ熱田及名古屋ニ達ス、(千)ハ伊勢内海ニ面

シ伊勢地方ニ渡ルノ要津タリ、其熱田神宮(天照大神ヲ奉祀ス)

尾濃平野ニ名古屋市ノ存スルコトハ關シ、東京アルト畿内平野ニ大

坂外ル如ク地勢宜シキニ適スルヲ以テ商工諸般ノ業益發達シ人口既

ニ廿五萬ヲ越エ、(千)邦第四ノ都會タリ、縣廳亦此ニ在リ、徳川氏(六十二萬石)ノ舊

城郭ハ今モ其壯麗ヲ失ハズシテ第三師團ノ司令部トナリ、其牙城ハ離

宮トナレリ、有名ナル金ノ鯨ハ猶天主閣上ニ在リ、市ノ産物ニハ七寶燒

豊助樂燒織物、名古屋扇、漆器陶器類アリ、

東海道鐵道ハ是ヨリ清洲(一萬四千)ヲ經テ木曾川ヲ渡リ美濃ニ入ル、武

豊鐵道ハ大府ヨリ分レ、龜崎半田ヲ過ギテ武豊ニ至ル、此地方一般造酒ノ

業甚盛ナリ、半島西部ノ常滑ハ陶器ヲ以テ名アリ、尾張ノ北部ニ犬山(或

ハ稻匠アリ又陶器ヲ以テ著ル、然レドモコノ業ニ就キテ最モ盛シナル

ハ國ノ東北ニ在ル瀬戸村ニ及ブモノナシ、コノ地ハ陶磁器製作ノ中心ヲナシ、陶工加藤景政ハ其名ヲ著セリ景政始メ瀬戸村ニテ陶器ヲ造リシニ、精工ナラズ、由テ後堀河天皇ノ貞應二年、僧道元ニ從テ宋ニ航シ、陶法ヲ學ビ四年ニシテ歸リ、再ビ瀬戸村ニ瓦土ヲ探リテ業ヲ開ク、其技精巧、前年ノ比ニアラズ、後世皆氏ノ作ヲ重ンズ小牧山ハ犬山ノ南ニ在リ、長久手ハ瀬戸村ノ西南ニ在リ、共ニ豊臣徳川二氏ノ戰地ヲ以テ名アリ、

中山道鐵道ノ一部トシテ名古屋ヨリ美濃ノ多治見ニ至ルマデハ近日既ニ開通セリ、關西鐵道ハ名古屋ヨリ分レ舊東海道ニ從ヒテ伊勢ニ入ル、津島ハ國ノ西ニアル商業上ノ要區ニシテ水運ノ便ヲ有シ、鐵道ノ支線亦此ヲ通過セリ、

本縣下ハ尾濃平野ノ主要部ヲ占メ、地味豊饒ニシテ灌溉ノ便アリ、之ヲ以テ本邦中屈指ノ米產地ニシテ尾州米ト唱ヘ、年産額大概百九十萬石ニ達ス、其他ノ穀類モ亦是ニ伴フ、陶器ノ産ハ本邦第一ニシテ六千ノ職工ヲ用、井價額百五十萬圓ヲ越ユ、各種ノ織物及酒モ亦主要ノ産物ニシ

テ製茶、養蠶、及紡績ノ業モ近來益發達セリ、綿花ノ産額モ亦大阪府ニ次ギテ第二タリ、藍ハ徳島縣ニツグノミ、三河木綿、岡崎味噌、宮重大根ナドノ名モ聞ユ、沿海、海産ノ利モ亦多ク、佐久島ノ海鼠、腸殊ニ名アリ、

歴史上ノ事蹟モ頗ル多ク、織田豊臣徳川ノ三英雄皆コノニ出デタリ、
六三三重縣 伊勢志摩及ヒ紀伊ノ東部ヲ管ス、

モトノ東海道ハ關西鐵道ニ沿ウテ尾張ノ熱田ヨリ木曾川ヲ渡リ本縣下ノ桑名(人口二萬、松平氏十一萬石)ニ出ツ、コノ地ハ伊勢海ノ要津ニシテ豪商多ク米穀ノ賣買甚ダ盛ンニシテ、時雨蛤ハ此地ノ名産ナリ、其南ノ四日市ハ横濱ヘ二百海里定期汽船ノ便アリ、商工ノ業共ニ昌ヘ、縣下第一ノ商區ナリ、萬古燒ハ桑名ト共ニ盛ナリ、此ヨリ西行スレハ龜山ニ至ル、其近傍ニ能褒野ノ陵アリ、舊東海道ハコレヨリ鈴鹿峠(古代鈴鹿關ヲ云フ)ヲ越エテ近江ニ入ル、龜山ヨリ南スレハ一身田(真宗高田派ノ本山寺、修寺コトハ在リ)ヲ經テ津市(人口三萬一千又安濃津ト云フ)ニ至ル、縣廳所在地ニシテ阿漕浦ニ臨ミ、舊藤堂氏ノ城下(十三

二萬石ノ城地）タリ、縞木綿、緞子、阿漕焼ヲ産ス、更ニ參宮鐵道ニ乘シ、南スレバ松坂ニ至ル、松坂縞世ニ名アリ、有名ナル國學者本居宣長ハ此地ノ人ニテ、市内ニ山室山神社アリ、平田篤胤ヲモ合祀ス、更ニ南シテ宮川ヲ渡レバ、宇治山田町ノ長キ市街（三萬八千）ニ達ス、

此地則我國大廟ノアル所ニシテ、參拜者常ニ絶ユルコトナク、市況是カ爲メニ般賑ナリ、

内宮ハ宇治ニ在リテ、皇祖天照大神ヲ祀ル、神路山ノ蒼翠其傍ニ峙チ、五十鈴川ノ清流其麓ヲ遠ル、外宮ハ山田ニ在リテ、豐受大神ヲ祀ル、兩宮共ニ廣キ神苑アリテ、附屬ス、市ノ産ニハ春慶塗、御山杉等アリ、宇治ヨリ海岸ニ進メバ、二見浦ニ出ヅ、其夫婦岩最モ名高シ、伊勢詣リノモノ、此ニ至リテ日ノ出ヲ拜スルヲ例トス、又朝熊山ニ上リテ富士山ヲ望ムコトヲ得ベシ、志摩ノ鳥羽ハ良港ナリト雖モ、交通ノ便惡キヲ以テ盛シナラズ、
關西鐵道ハ龜山ヨリ西ニ進ミ、伊賀ノ柘植ニ至リテ分岐シ、一方ハ近江

ノ草津ニ至リテ、東海道鐵道ニ合シ、一方ハ伊賀大和河内ヲ過キテ、大阪ニ至ル、上野（二萬四千）ハ伊賀ノ小平野ニ在リテ、モト藤堂氏ノ支城アリシ所ナリ、伊賀越仇討ノ古跡ハ名張町モ伊賀南部ノ名邑ナリ、伊賀ノ陶器ニ丸柱焼アリ、丸柱村ヨリ出ヅ、又伊賀燒

縣下ノ産物ハ茶、紙、陶器ノ外、伊勢蝦ハ殊ニ有名ナリ、志摩ヨリ鹿角菜、石花菜、眞珠ヲ出ス、

七、括論

此地方平地ニ富ミ、且ツ氣候亦人身ニ適スルヲ以テ古來戶口夙ニ開ク、居民生産ノ業モ亦早ク發達セリ、徳川幕府ノ世ニ至リテハ東西往復ノ要路ニ當リタルヲ以テ、本邦中最モ交通多キ地方トナリ、東海道五十三驛ハ輿馬ノ往復日ニ絡繹トシテ絶エス、從テ人文發達ノ度モ概シテ他ノ地方ニ優リタルガ如シ、

農産ハ無論米麥ヲ主トシ、産額約六百萬石、其内、量ハ愛知縣ヲ第一トス、レドモ、質ハ伊勢米ヲ良トス、本地方ハ鐵産ニ乏シケレドモ、沿海漁業ノ

利ハ頗ル多ク、殊ニ静岡縣ノ鱈、鮑、鮭、石花菜、愛知ノ牡蠣及愛知三重ノ鱈ノ如キハ共ニ東海地方ニ冠タルモノナリ、藍ハ愛知ヲ最トシ、静岡三重各其半ニ位ス、桑園モ亦愛知静岡三重ト次第ニ増殖セリ、茶ハ静岡ハ拔群ニシテ三重モ亦産額頗ル多シ、工業ニ於テモ大ニ注意スベキモノアリ、全國織物ノ産額約二千萬圓ノ中愛知ハ其十分一ヲ占メ、唯京都ト群馬トノ次ニ位スルノミ、製紙ハ静岡ヲ第一トシ、本邦中高知岐阜ノ次ニ位ス、其原料ハ三椏及富士山麓ニ鬱茂セル椏ナドヨリ之ヲ製ス、愛知三重ノ紡績業及愛知静岡ノ摺附木製造ノ如キモ近年益發達セリ、要スルニ愛知ノ諸種ノ産物ニ富メルコトハ此地方ニ於テノミナラス、全國ニ於テ主要ノ地位ヲ占ムルモノナリ

第四章 東山地方

東山道ハ十三國ナレドモ、本講義ニ於テハ其内七國ハ奥羽トナシ、兩野ハ關東ニ入レテ講述シタリ、又近江ハ畿内地方ト類似ノ點多キヲ以テ其部ニ入レテ脱カントスサレバ、残ル所ハ美濃飛騨信濃ノ三國トナル、且甲斐ハ固ヨリ東海道ノ内ナレドモ、唯海ニ面セザルノミナラス、地勢及其他ノ關係上以上ノ三國ト合觀スルヲ便トスルヲ以テ甲斐ヲバコノ地方ニ組入レタリ、

コノ地方内ニハ岐阜長野山梨ノ三縣管轄地ヲ含ム。

一、地勢

コノ地方ハ山脈蟠結シテ至ル處峻峯高嶺聳立シ、其内一萬尺前後ニ達スルモノ少カラズ、從テ小平地ハ所々ニ孤立シテ大概山脈ノ爲、離隔セラレ、本州ニ在リテ古來久シク交通上不便ノ地位ニ立テリ、故ニ此地方ヲ特ニ山岳地方ト稱スルモ可ナリ、唯美濃ノ一部ノミハ濃美平原ニ屬スルヲ以テ稍異ナル所アリ。

中國山脈ハ畿内北部ヲ東ニ進ミ、近江平原ニ於テ稍中斷セラレタレドモ、更ニ越前美濃ノ界ヲ東走シ漸ク其高度ト幅トヲ加ヘ、支脈錯雜シテ其趨勢一ナラズ、遂ニ高臺性トナリ、美濃飛騨高原ヲ形成ス、此高原山脈中ニハ貴重ナル鑛物ヲ多ク包藏セリ、飛騨山脈ハ信濃飛騨ノ境ニ連ナル本邦中最高ノ山脈ニシテ美濃飛騨高原ノ東端ヲナシ、其内御嶽九八三四尺乘鞍岳一〇五三〇尺鎗ヶ岳一〇二〇尺穗高岳等アリ、岷々トシテ雲表ニ聳エ、其頂

上ハ炎暑ノ候ト雖、猶斑々タル積雪ヲ遺存セリ、其風景ノ一種雄壯ナル
 コト、アルプス或ハアンデスノ麓ニ在ル如キ感ヲ起スニ足レリ、飛驒山
 脈ト木曾川ヲ隔テテ相對スルモノヲ木曾山脈トス、其内惠那山駒ヶ岳
 等アリ、更ニ木曾山脈ト天龍川ノ谷ヲ隔テテ相對スルモノヲ赤石山脈
 トス、此内白根山(九七〇尺)北ヶ岳(九五〇尺)駒ヶ岳(九九〇尺)赤石山(七三九尺)
 ノ高峯アリ

赤石木曾兩山脈ハ伊勢内海ヲ隔テテ紀伊山脈ト相應ジ、飛驒山脈ハ美
 濃飛驒高原ノ東側ヲ爲シ、此三大山脈ニ由テ本邦中彎ノ崑崙山脈ノ東
 端ヲナセリ

更ニ信甲地方ノ東境ヲ顧レバ阿武隈山脈ト關東大平原ヲ隔テテ相望
 ミタル關東山脈ハ信甲武ノ相接スル地方ニ於テ頗ル重厚ナル山脈ヲ
 ナシテ東西ニ亘リ、其内ニハ甲武信山、國司ヶ岳(八四一五尺)武甲山、三國山
(九八〇一尺)等アリテ甲斐信濃ノ國境ヲ西方ニ奔リ八ヶ岳ノ南ニ於テ

終リ以テ其西側ノ赤石山系ト相對ス。

信濃ノ東境ニハ奥羽ノ分水山脈ヨリ連續セル上信山脈、三國山脈(共ニ
 火山脈或ハ那須火山脈又ハ淺間火山脈ノ稱アリ)アリテ、其内淺間山八一五尺吾妻山七七八尺白根山七〇六尺

等アリ、斯クテ以上ノ關東山脈及中央火山脈ニ由テ樺太山系ハ主ニ信
 濃甲斐ノ東部ニ於テ其終ヲナセリ。而シテ別ニ數條ノ彎曲セル山脈ア
 リテコノ樺太山系ノ終端ト崑崙山系ノ終端トヲ結合ス、信濃ノ筑摩山
 脈甲斐ノ御坂山脈ノ如シ。

以上ノ山脈ノ外富士帶火山脈ハ箱根富士ヨリ八ヶ岳九八三尺立蓼山八五四尺
 尺戸隱山ヲ經テ恰モ甲信ノ中央ヲ貫キテ越後ノ妙高火山ト相連絡ス
 ルヲ以テ此地方山岳ノ錯雜スルコト非常ナリ、今更ニ以上ノ山脈ヲ概
 括スレハ。

- (一) 飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈 概子崑崙山系ニ屬ス。
- (二) 上信山脈、三國山脈、關東山脈 概子樺太山系ニ屬ス。

(三) 以上二者ヲ結合スル彎曲セル山脈
 (四) 富士帶火山脈 獨立ノ山脈ナリ。

一、二河流

此地方ハ土地高ク恰モ屋根ノ如ク、信濃川木曾川ヲ初メトシテ、大河ノ源ヲ此地方ニ發スルモノ少ナカズ、何レモ其初メハ山間ノ溪ヨリ起リ所々飛瀑ヲナシ奇岩怪石ノ間ヲ流ルルヲ以テ風景ノ賞ス可キ處少ナカラス、信濃川ハ信甲ノ境ノ金峯山ヨリ發シ北流シテ水量更ニ大ナル犀川ヲ合シ越後ニ入ル、木曾川ハ木曾山中ニ發シ岐阜縣ニ入り北方高原ヨリ扇骨ノ狀ヲナシテ流出スル幾條ノ水ヲ集メテ伊勢海ニ入ル、其他天龍川ハ信濃ヨリ出テ富士川馬入川等ハ甲斐ヨリ神通川、射水川ハ飛驒ヨリ發シ皆其斜面ニ從テ太平洋若クハ日本海ニ流入ス。

練習問題

一、奥羽ニ於ケル山脈ト平地トノ配置ヲ陳ベヨ。 二、奥羽ノ鑛産ヲ述ベヨ。

- 三、奥羽ノ要港數個ヲ舉ゲヨ。
- 四、仙臺、會津、秋田ノ特産物ヲ問フ。
- 五、奥羽ノ林産ヲ問フ。
- 六、奥羽ニテ漆器、陶器ノ産地ヲ問フ。
- 七、三陸沿岸ノ海産物ヲ問フ。
- 八、三春、二本松、米澤ニ付キテ知ル所ヲ述ベヨ。
- 九、陸奥ノ略圖ヲ描ケ。
- 十、海嘯及火山破裂ノ實例ヲ述ベヨ。
- 十一、伊豆ノ温泉ニケ所ヲ舉ゲ、且ソレニツキテ知ル所ヲ記セ。
- 十二、駿河沿岸ノ勝地ニツキテ説明セヨ。
- 十三、東海地方ノ有名ナル神社ヲ記セ。
- 十四、三方原、富士川、桶狭間ノ位置及歴史上ノ事蹟ヲ述ベヨ。
- 十五、東海地方ノ工業ヲ略記セヨ。
- 十六、東海地方沿岸ノ要港ヲ舉ゲヨ。
- 十七、名古屋、静岡、津、三市ノ情況ヲ記セ。
- 十八、尾張、伊勢ノ農産物ニツキテ記セ。
- 十九、奥羽及東海地方ニ於テ大河十條ヲ舉ゲヨ。
- 二十、奥羽及東海地方ニツキテ國別ニ歴史上有名ナル人物一人ツツテ舉ゲヨ。
- 廿一、本邦、崑崙山系ト樺太山系トハ如何ナル地方ニテ如何様ニ結合スルカ。
- 廿二、美濃、飛驒、高原ト他ノ山脈トノ異同ヲ述ベヨ。
- 廿三、飛驒、木曾、赤石ノ諸山脈ニツキ、高峯各二三ヲ舉ゲヨ。
- 廿四、信濃、飛驒、甲斐ヨリ發源スル諸水ヲ述ベヨ。

三、山梨縣

甲斐全部ヲ管ス。

恰モ摺鉢ノ底ノ如キ甲府ノ平原ヲ圍繞スルニ、赤石山脈、關東山脈、富士帶山脈ヲ以テシ、而シテ郡内ハ別ニ東部ニ一區ヲ爲セリ、郡内ニ於テハ桂川山中ノ湖ヨリ出テ、諸水ヲ集メテ相模ニ入りテ馬入川トナル、甲府

平原ニ於テハ笛吹川、釜無川等相合シテ富士川トナリ、山谷ヲ穿チテ駿河ニ奔流ス、富士山南ニ聳エテ駿河東部トノ界ヲ劃シ、裾野ハ廣漠タル原野ヲナシ、森林雜草之ヲ蔽フ、又裾野ノ凹所ニ水涵ヘテ木柄、精進、西川口、山中等ノ湖水ヲナス、其邊地質ハ主トシテ火山ノ灰砂ヨリ成リ、巨大ナル噴出岩、及溶岩流ヲ目撃スベク、滿目荒涼タリ、甲府ノ平原ハ地味肥沃ナレドモ、概シテ此國ハ穀産ニ於テ豐饒ナリト云フヲ得ズ、本縣未ダ全ク鐵道ノ敷設ヲ見ズ、然レドモ甲武鐵道ハ遠カラズシテ武藏ノ八王子ヨリ甲府ニ延長セラルベシ、此道ハ從來ノ甲州街道ニシテ八王子ヨリ小佛峠ヲ越エ更ニ進ンデ甲斐國ニ入レバ、此地方ハ則郡内ニシテ、有名ナル猿橋ヲ渡リテ猿橋驛ニ達スベシ、猿橋ハ本邦三奇橋ノ一ト稱ス(長サ十七間)郡内地方ハ馬鈴薯ノ外穀産ニ乏シケレドモ、蠶絲ニ從事シ、甲斐絹ノ産殊ニ名アリ、是ヨリ笹子峠ヲ越エ、天目山ヲ北ニ見、葡萄栽培ヲ以テ有名ナル勝沼ヲ過ギ石和ヲ經テ甲府市ニ達ス、石和ヨリ道

ヲ東南ニ取リ御坂嶺ニ登リ、富士ノ裾野ヲ一眸ノ中ニ收メ、川口湖ヨリ吉田ニ至レバ、富士山ニ上ルベシ、吉田ヨリ南スレバ駿河ノ須走ニ出ヅ、甲府(三万六千)ハ縣廳ノ所在地ニシテ平原ノ中心ニ位シ、又道路商工業ノ中心タリ、街衢端正百貨輻湊シ、本縣第一ノ都會タリ、市ノ北ニ躑躅崎ノ古城址アリ、武田勝頼ノ據リシ處市ノ東ニ酒折宮日本武尊ノ止マリ給ヒシ處甲府ヨリ韭崎ヲ經テ信濃ノ諏訪ニ達スル街道アリ、甲府ノ南、鵜澤ヨリ舟ニ乘ジテ富士川ヲ下レバ、舟行矢ノ如ク、五六時間ニシテ駿河ノ岩淵ニ出ヅ、其間十八里、駿河街道モ亦河ノ西岸ニ沿ウテ通ズ、身延山久遠寺日蓮宗其道ニ在リ、本縣産物ニハ水晶金峰山ノ麓ニハ諸所ニ水晶坑アリ、金峰山ノ南御嶽ノ近傍ニ向山ノ水晶坑アリ、聖上御藏品ノ六寸玉及明治十年内國博覽會ニ出品セシ代價三萬圓ノ巨品ハ此向山坑ヨリ出テシモノナリ、葡萄、郡内ノ織物、雨畑ノ硯等アリ、金銀ノ産出モ亦少カラズ、

四、長野縣

信濃國全部ヲ管ス

本縣ハ筑摩山脈中央ヲ横ギルヲ以テ、地勢自ラ南北二部ニ大別セラル、

北部ハ善光寺平ヲ主トシ、又小ナル佐久ノ平地アリ、南部ハ松本平ヲ主トシ、別ニ諏訪湖ノ周圍ニ小ナル平地ヲ有シ、其他天龍川、木曾川ニ沿ウテ各細長キ平地ヲ有ス。

信越鐵道ハ上州高崎ヨリ分レ、碓氷ノ峻嶺ヲ越ユル爲メ、廿六個ノ隧道ヲ穿テ、アプト式ニ由テ此ノ線路ヲ上リ、本縣輕井澤ニ達ス、此地海面上三千七百尺ノ處ニ在リテ涼風極暑ヲ拂フヲ以テ夏季外國人ノ來リテ暑ヲ避クル者數百人ニ至ル、コレヨリ汽車ハ淺間山ヲ右ニ望ミ、千曲川ニ沿ヒ小諸、上田二万三千、藤井氏ノ舊城地ヲ經テ姥捨山ノ名勝ヲ左ニ望ミ、武田上杉ノ古戰場ナル川中島ノ邊ニ於テ、千曲川及犀川ヲ渡リ、篠ノ井ヲ過ギテ長野市ニ達ス、此沿道養蠶ノ業甚盛ニシテ、桑園遠ク連ナリ、處々蠶室ノ散在スルヲ見ルベシ、上田ハ又盛ニ蠶種ヲ他府縣ニ輸送シ、且上田紬ノ産アリ、

長野市(三)ハ縣廳所在地ニシテ、物貨ノ集散多ク市況毀賑ナリ、古來善

光寺ノ大伽藍アルヲ以テ諸國ヨリ參詣者陸續トシテ絶エズ其阿彌陀如來ハ物部守

屋ガ難波ノ堀江ニ投セシ所ノモノナリト云フ。松代真田氏十萬石ノ舊城地、ハ津城ト云フ。ハ長野ノ東南ニ在リ、佐

久間象山ノ出デシ所ニシテ養蠶機織ノ業ヲカム、須坂ハ長野ノ東ニ在リテ製絲ノ業甚盛ナリ、篠ノ井ヨリ松本ニ出ヅル鐵道ハ今工事中ニ

屬シ、此間筑摩山脈連亘スルヲ以テ道路頗ル峻惡ナリ、松本戸田氏六萬ハ其平原ノ中部ニ位シ、從來信州南部商業上ノ中心タリ、此平原萬一千ハ犀川支流ノ流域ニシテ、至ル所蠶業甚々盛ニシテ亦多ク秋蠶種ヲ製ス。

中山道ハ輕井澤ノ西追分ヨリ分レ、和峠ヲ越エテ諏訪平ニ出ヅ、湖畔ニ上諏訪下諏訪ノ小邑アリ、此近傍製絲ノ業最モ盛ニシテ、工場軒ヲ並べ、年産額五百万圓ニ達ス、本邦中斯業ノ盛ナルコト此地ニ及ブモノナシ、上諏訪ニハ又温泉多ク、戸々浴場ノ設アリ、冬季湖面氷凍シテ人馬水上ヲ往來ス、湖水流レテ天龍川トナル、其沿岸ノ平地ニ飯田町四一千

アリ、木綿織及ビ元結ヲ産ス、中山道ハ諏訪ヨリ塩尻峠ヲ越エ進ンデ木曾ノ谷ニ出ヅ、木曾ノ棧道寢覺ノ床等ノ勝地アリ、木曾義仲此地ニ出ヅ、
古昔ノ棧橋ハ福嶋ニアリシト云フ、今碑アリテ也、燕翁ノ句ヲ刻ス、棧や命をからむつたかづら 木曾山林ハ本邦中有名ナルモノニシテ、蕨、鬱トシテ晝猶暗ク、殊ニ檜、杉、樅等ヲ出シ、有用ナル材木略壹億萬本ヲ有ス。

本縣ハ山脈重疊セルヲ以テ古來久シク偏僻ニ屬シタリシガ、維新以降養蠶製絲ノ業益發達シ、從テ諸般ノ業務一般ニ振作スルニ至レリ、本縣米麥ヲ産スルコト少ナカラズト雖モ、最モ主要ナル生産物ハ繭ト生絲トニシテ年産額約一千五百万圓ニ達ス、其他山繭蠶種ノ外、蕎麥ハ古來ノ名産タリ。

五、岐阜縣

美濃飛驒二國ヲ管ス

美濃ノ西南部ハ豊饒ナル平野ヲナシテ尾張ニ連ナリ、所謂美濃米ヲ産ス、年産額約一百万石ニシテ、品質優等ナリ、然レドモ木曾川、長良川、揖斐川等下流ノ地往々水害ヲ受クルコトアリ。

岐阜市

三万二千

ハ縣廳所在地ニシテ金華山其東ニ峙ツ、近時益々繁盛ナル都會トナレリ、其傍ヲ流ルル長良川ハ古來鵜飼ヲ以テ名高シ、東海鐵道名古屋ヨリ來リテ近江ニ入ル、市ノ産ニハ美濃紙、提灯、團扇等アリ、
此市ハ昔テ明治二十四年十月廿八日大地震ノ爲メ非常ナル損害ヲ受ケタリ、此震災ハ美濃ヨリ尾張ニ亘リテ最モ甚シク、凡震災地ヲ通シテ震死者七千餘人、潰倒セル家屋八萬二達セリ

大垣ニ位シ、舟楫桑名ニ通ズ、少シク西スレバ關ヶ原天下分ヶ目ノ大戦ノアリシ所ニ至ル其近傍ニ不破ノ關趾アリ、其南ノ多度山中ニ有名ナル養老ノ瀧アリ。

東中山道ハ岐阜ノ南ナル加納ヨリ略ボ木曾川ニ沿ウテ信州木曾ニ入リ、又岐阜ヨリ鍛工多キ關ヲ通ジ、益田川ノ上流ヲ遡レバ、飛驒ノ高山ニ出ヅベシ、多治見ハ國ノ東南部ニ在リテ大ニ陶器ヲ産ス、此地ト名古屋トノ間ニハ不日ニシテ鐵道ノ開通ヲ見ルベシ、飛驒ハ古來工匠ヲ以テ聞エ、今モ其餘風ヲ存ス、高山五万ハ此國第一ノ都會ニシテ位山ハ其南

ニ峙テリ、高山ヨリ越中ニ出ヅル道ニハ古昔籠ノ渡ノ危険アリシモ今ハ板橋トナレリ。

本縣產物ハ米穀ノ外、茶及繭ヲ産スルコト多ク、殊ニ鑛物中銀ハ其產額秋田縣ニ次ギ、金銅鉛モ亦少ナカラズ、黒鉛ハ本邦中ノ主產地ナリ、亦惠那郡ヨリ黃玉石ノ如キ貴石モ産出セリ、絹織物或ハ絹綿交織モ亦多ク、美濃紙ノ價額モ亦莫大ナリトス、陶磁器製造ハ三千七百ノ職工ヲ用井其產額ハ愛知縣ニ次ゲリ。

六、括論

甲信ハ諸種ノ點ニ於テ頗ル相類似スル所アレドモ、美濃ハ却テ尾張ト關係スルコト多シ、而シテ此地方ハ現時計畫セル鐵道ノ成ルヲ待ツテ大ニ關係ヲ密ニスルコトヲ得ベシ、武田信玄ノ甲斐ニ於ケル、木曾義仲、佐久間象山ノ信濃ニ於ケル、特ニ史上ニ名アル者ナリ、飛驒ハ元來工匠ニ名アリテ左甚五郎ノ如キ者出デタリ。

第五章 北陸地方

此地方ノ中、越後、佐渡、越中、能登、加賀、越前、若狹ノ七國ヲ含ミ、新潟、富山、石川、福井ノ四縣ヲ置キテ管治ス。

一、地勢 羽越山脈綿亘シテ奥羽地方及群馬縣トノ界ヲ劃シ、其餘脈延ヒテ信濃ノ國境ニ及ブ、而シテ富士帶火山脈ハ信越ノ國境ニ於テ、高妻、黒姫等ヲ噴起シ、更ニ越後ノ燒山、妙高山ヲ噴起セリ、越中信濃ノ界ハ主トシテ飛驒山脈ニヨリテ成リ、大蓮華山 四〇〇尺 殊ニ高峯タリ、越中、加賀、越前ノ南部ハ美濃飛驒高原ノ一部ヲナシ、以テ西ハ中國山脈ニ連續セリ、從テ此地方ハ南方山地ヨリ次第ニ傾斜シテ、日本海沿岸ノ平地トナレル一帶ノ地方ニシテ、地味沃饒ナレドモ、氣候寒ク、雨雪多シ、太平洋方面ノ東海道トハ著シキ差違ヲ現セリ。

二、海岸 越後ノ海岸ハ其北方海府浦、及米山彌彦山ノ麓ヲ除ク外、大抵平行ニシテ、屈曲少ナク、至ル所砂丘ヲ形成ス、其越中トノ界ハ山骨海波ニ激シ所謂親不知ノ濱トナル、然レドモ今ハ海岸歩シテ進ムベシ、越

中ハ富山灣深ク灣入シ、其内二三ノ港灣アリ、能登半島長ク斗出スルコト十八里七尾灣更ニ半島ノ腹部ニ蝕入ス、珠洲崎、綠剛崎ノ邊岩礁海中ニ散在シ、風波穩ナラズ、北海第一ノ險惡ト稱セラル、加賀ノ海岸亦屈曲少ナク良港ナシ、所々沿岸ニ湖水ヲナス、河北潟較、大ナリ周圍六里廿町越前ノ西部及若狹ノ海岸ハ鋸齒狀ヲナシ、敦賀灣、小濱灣ハ有用ナル港ヲ有ス、概シテ北陸ノ海岸ハ冬季風濤荒ク、航海頗ル難シトス、

三、河流

信濃川越後ノ平野ヲ北流スルコト凡四十里、魚沼川ヲ合セ新潟港ニ注グ、河口ヨリ數十里ノ間流勢緩徐ニシテ小汽船ヲ通ズ、多クノ都會ハ其沿岸ニ發達セリ、阿賀野川岩代ヨリ來リ、全長四十五里、中途一派ヲ分チテ信濃川ニ通ジ、本流ハ松ガ崎ノ港ニ注グ、舟楫灌溉ノ利少ナカラズ、神通川ハ飛騨宮川ノ下流ニシテ流程五十里、東岩瀬港ニ注グ、下流ノ幅二百五十間アリ、射水川又莊川ト云フハ飛騨白川ノ末ニシテ伏木港ニ注グ、全長五十八里アリ、其他常願寺川、黒部川、手取川等アリ、凡北陸ノ

水ハ總ベテ北ニ流レテ日本海ニ注グ、

四、新潟縣

越後佐渡ヲ管ス。

越後ハ日本海ニ臨ミ長サ百五十里ニ亘レル狹長ナル地方ニシテ、河流灌溉ノ利ヲ得テ肥沃ノ地多ク、米穀ノ産本邦第一タリ、殊ニ信濃川ノ平原ハ數十里ノ間田畝能ク開ケ、人煙稠密、所謂越後米ノ本場トス、

信越ノ鐵道ハ長野ヨリ來リ、妙高山ヲ西ニ望ミ、高田ヲ過ギテ直江津ニ至ル、高田神原氏ノ舊城ハ新潟、長岡ト共ニ本縣主要ナル都會ナリ、此地冬

季深雪ヲ以テ名高ク、全部悉ク丈餘ノ積雪中ニ埋沒セラル、木綿織、粟飴ノ産アリ、直江津人口一万、モト今町ト稱スハ鐵道ノ端ニ位シ、水陸運輸ノ便アルヲ以テ近時漸ク繁盛ニ赴ケリ、東京トノ距離百八十哩其西南ニ春日山ノ城趾アリ、輝虎ノ據北越鐵道ハ直江津ヨリ海岸ニ沿ヒテ東ニ走リ、米山峠ニ於テ

十數個ノ隧道ヲ通過シ、柏崎ヨリ折レテ長岡ニ至ル、此地信濃川上流小千谷十日町等ニテ製スル越後縮集散ノ中心ニシテ、新潟市トハ汽船常

ニ往來シ豪商富家、軒ヲ並べ、市内モ亦機織ノ業盛ンナリ、汽車ハ是ヨリ三條一万加茂等ノ商業地ヲ經テ沼垂ニ達ス、沼垂ヨリ信濃川ノ長橋萬代橋長サ四百廿八間、水道第一ノ長橋トスヲ渡レバ新潟市ニ出ヅ。

新潟市五万二千ハ縣廳所在地ニシテ、本邦ノ六港ノ一タリ、市街ハ溝渠縱横ニ通ジ、建築亦見ルベキモノアリト雖モ、惜シイカナ港内水淺ク、貿易未ダ隆盛ナリト云フヲ得ズ、其外國トノ輸出入ハ百五十萬圓許ニ過ギズ、五泉ハ阿賀野川ノ中流ニ在リ、精巧ナル五泉平ハ其名高シ、新發田溝口地舊城ハ羽前街道ノ衝ニ當リ、兵營アリ、是ヨリ北村上ヲ經テ羽前ニ至ルベシ、此他越後ノ海岸ニハ寺泊、出雲崎、糸魚川等ノ小港アリ、佐渡ハ越後ノ海上十餘里ニ在リ、島内丘陵起伏スト雖モ、中部ニハ平地アリテ稻ニ適ス、夷港ハ天然ノ良港ニシテ新潟ト汽船常ニ往來ス、赤泊ハ越後ノ寺泊ト相對シ、冬季汽船ノ往復アリ、小木モ亦良港ナリ、相川ハ島中第一ノ都會ニシテ、其東北ニハ金北山ヲ有ス、此山古來有名ナル金山ニシテ德

川氏ノ初メヨリ今日迄ニ産出スル所ノ金銀合セテ一億圓ヲ超ユト云フ、此地ニテ又一種朱泥ノ無名燒ヲ製ス、相川ノ東南眞野村ニ順徳天皇ノ陵アリ、概シテ此島ハ歴史上上方人ノ來住セシコト多キヲ以テ言語ノ如キモ優雅ナル點ヲ存ス。

本縣ハ米ノ産額ニ於テハ本邦中第一ニシテ年額三百萬石ニ近シ、石油ハ古來ヨリアリタレドモ、近年産額益々多量ニシテ、本邦礦業中ノ盛大ナル者ノ一トナレリ、織物及酒ノ産モ多ク、魚類ハ鳥賊ヲ第一トシ、其他鯛、鮭、鱒等ヲ得ルコト多シ、佐渡ノ金産ハ本邦第一ニシテ、銀モ共ニ多ク産ス。

五、富山縣 越中全部ヲ管ス

越中ノ平地ハ諸水ノ灌溉ヲ受ケ、米穀ノ産多シ、富山市ハ縣廳所在地ニシテ國ノ中央ニ位シ、神通川ニ臨ミ、河口ニ東岩瀬ヲ控フルヲ以テ交通運輸ノ便ヲ享ケ、物貨ノ集散盛ンナリ、賣藥ハ此市ト共ニ名高シ、富山ノ

東ハ常願寺川ヲ渡リ、水橋、滑川一万余盛ナル漁業地ヲ過ギ、商工業活潑ナル魚津一万余ヲ經テ、黒部川ニ架シタルアイモ橋愛本橋日本三奇橋ヲ渡リ、越後ニ至ルベシ。

立山ハ國ノノ東南ニ聳ユル休火山ニシテ、夏季登山スルモノ多シ、其山中ノ地獄谷ハ硫烟常ニ噴騰ス。

富山市五万九千ハ現時北陸鐵道ノ終點ニ當リ、コレヨリ近江ノ米原ニ達ス、市ノ西ノ神通川ハ古來舟橋ヲ以テ有名ナリシガ、今ハ換フルニ安全ナル木橋ヲ以テセリ、高岡市ハ富山市ノ西鐵道線路ニ當リ、金物漆器等ノ産ヲ以テ名高く、其北ニ伏木港アリ、特別輸出港ニシテ汽船幅湊シ、市況繁盛ナリ、射水川ヲ隔テテ伏木ノ對岸ニ新湊八千アリ、漁業盛ンニシテ多ク鹽鱒、干鰯等ヲ産ス、中越鐵道ハ高岡ヨリ分レテ南ノ城端ニ達ス、城端ノ東南山中ヲ五箇山ト云ヒ、天柱石猿橋ノ奇觀アリ、高岡ヨリ汽車ハ彼ノ有名ナル俱利加羅谷ノ近傍ヲ過ギテ加賀ノ津幡ニ達ス。

本縣海岸ハ多ク漁業ヲ營ミ、鰯鱒ノ産殊ニ多シ、中部ノ平地ハ米穀ヲ産スルコト大ナリ、南部ハ養蠶製絲ニ從事スルモノ多シ、又居民關東地方ニ出稼スルモノ少ナカラズ。

六、石川縣 加賀及能登ヲ管ス。

七尾鐵道ハ津幡ヨリ分レテ七尾ニ達ス、七尾港ハ前ニ能登島ヲ控ヘ、水深ク波靜カニシテ北海ノ良津タリ、其西北ニ和倉ノ温泉アリ、浴客甚ダ多シ、輪島港ハ北方海岸ニ在リテ其漆器ハ殊ニ名高く、其西南ニ曹洞宗本山ノ一ナル總持寺アリ。

金澤市八万ハ北陸第一ノ都會ニシテ、前田氏百萬石ノ舊城地ナリ、石川縣廳第九師團ノ司令部、第四高等學校等ノ設アリ、北二里ニ金石港ヲ控フルヲ以テ貨物ノ運漕自在ナリ、日本三公園ノ一ナル兼六園ハモト前田氏ノ別業ニシテ天然ノ丘陵ニ由リテ人工ヲ加ヘ、規模宏大ニシテ景致幽遠三公園中第一ト稱ス、象眼細工、陶漆器ハ名産タリ、鐵道ハ金澤ヨ

リ手取川ヲ渡リ、小松四千万大聖寺ヲ通ジテ越前ニ入ル、小松近傍ニ安宅關趾アリ、其地ハ漸次沈降シテ今ハ海トナレリ、大聖寺ノ南ニ山代山中ノ温泉アリ、其南ニ九谷村アリ、山代ニテハ盛ンニ九谷焼ヲ製造ス、縣下ノ織物ニハ所謂加賀絹アリ、陶漆器モ亦縣下著名ノ産物ナリ、

七、福井縣

越前若狹ヲ管ス。

汽車ニテ越前ニ入り、九頭龍川ヲ渡レバ福井市ニ達ス、人口四万三千、松平氏三十二万石

ノ舊城市、舊名北ノ莊 市ハ足羽川ニ跨リ、縣廳所在地ナリ、此市羽二重ノ機業最モ

盛ンニシテ、其名歐米市場ニ高シ、市内ニ藤島神社、別格官幣社ニシテ、新田義貞ヲ祀ルアリ

リ、市ノ東四里ニ永平寺、曹洞宗ノ本山アリ、日野川北流シテ足羽川、九頭龍川

ヲ容レ、其河口ニ三國港、舊名坂井港ヲ開ク、此港福井市トハ舟楫相通ズルヲ

以テ市況活潑ナリ、九頭龍川上流地方ニ勝山大野ノ都會アリテ製絲織

物業盛ンナリ、鐵道ハ武生ヲ過ギテ敦賀ニ達ス、武生ハ鍬、鎌等ノ鍛冶ヲ

業トスル者多ク、敦賀ハ開港場ニシテ水深ク古來有名ノ港トス、其北ニ

金ヶ崎アリ、南朝ノ古城市ニシテ金崎宮此ニ在リ、尊良、恒良ニ親王ヲ祀ル

若狹ノ海岸ハ岬灣出入、大牙相交リ、陸ニハ平地少ナク、土質亦瘠セタリ

然レドモ其小濱港、酒井氏ノ舊城地ハ水深ク大船ヲ泊スベシ、此地ノ名産ニハ、

若狹塗、瑪瑙細工アリ。

本縣下ハ羽二重ノ産年額八百萬圓ニ達シ、其他奉書紙、鳥子紙、蚊帳、奉書

紬、若狹ノ漆器共ニ有名ナリ。

八、括論

此地方ハ冬季北西風日本海ノ水蒸氣ヲ齎ラシ、之ガ爲メニ

多量ノ雨雪ヲ生ジ、海岸ノ平地ト雖モ、積雪三四尺ニ達シ、山間ハ一丈以

上ニ及ブ所アリテ翌年二三月ニ至ルモ、猶田園ハ堆雪ノ中ニ埋沒セラ

ル、漁類ニハ越後ノ鮭、鱒、能登ノ鱒、鯨、若狹ノ鯛、鰈ヲ有名ナリトス。

此地方米穀ノ産ハ六百萬石ヲ超ユレドモ、關東地方ノ如ク麥類ヲ産ス

ルコト多カラズ、今史上ノ人物ニ就キテ見ルニ、上杉、前田、柴田氏等ノ外、

橋本左内ハ越前ニ出デ、錢屋五兵衛ハ加賀ニ出デ、若狹ニモ亦學者勤王

家ヲ出シタリ。

第六章 畿内地方

從來畿内地方ハ山城、大和、河内、和泉、攝津ノ五國ノ稱ナレドモ、近江ハ永ク京部ニ接シ、其ノ感化ヲ受クルコト最モ多ク、地勢モ亦畿内ト同時ニ説クナレドモ、ナリトスルガ故ニ、此地方ニ入レタリ、兩丹ハ大部今京都府下ニ属スルヲ以テ其部ハ府下ニ合説シ、和歌山縣モ四國ヨリハ寧ロ畿内ニ合説スルヲ傾トスルガ故ニ此部ニ入レタリ。

本地方内ニハ滋賀縣、京都府、奈良縣、大阪府、和歌山縣ヲ包含ス。

一、地勢 中國山脈、丹波、攝津、山城北部ニ綿亘スレドモ、左迄ノ高峯アラズ、其内愛宕山〇三三八ハ有名ニシテ山城丹波ノ間ニ峙チ、其脈南北ニ亘リテ山城平原ニ臨メリ、紀伊山脈ハ東西ニ亘リ、大和南部、紀伊北部ニ於テ頗ル重厚ナル山地ヲ形成シ、其内彌山〇六七二、釋迦岳〇六四〇、大峯山〇六二一、大日岳〇六一七等ノ高峯アリ、以上二山脈ノ外ニ南北ニ亘レル三箇ノ山脈アリ、東ニ在ルモノハ鈴鹿山脈ニシテ概ネ近江ノ平地ト美濃、伊

勢ノ界ヲ劃シ、其西ハ笠置山脈ニシテ近江伊賀ト山城大和ノ間ヲ走り、其内ニ比良峯、比叡、笠置ノ諸山アリ、其西ニ葛城山脈アリテ山城大和ノ平地ト攝河泉ノ平野トノ間ヲ劃ス、其内金剛山特ニ高シ、而シテ主ナル平地ハ四箇アリテ大阪ノ平野ヲ最大ナルモノトシ、其他ハ近江ノ琵琶湖畔ノ平地、山城、大和ノ平地是ナリ。

一、河湖 琵琶湖ハ面積八十方里(南北十六里、東西一里ヨリ五里ニ至リ、至ルニ)アリ、本邦第一ノ淡湖ニシテ湖上汽船縱横ニ往來シテ交通甚ダ便ナリ、近江ハ主トシテ其周圍ノ平地ヨリ成レリ、此湖ヨリ出ヅル者ハ則勢田川ニシテ宇治川トナリ淀川トナリ下流數條ニ分レテ大阪灣ニ入ル、水量多ク流勢緩ニシテ運輸ノ便甚ダ大ナリ、吉野川ハ大臺原山ノ麓ニ發シ、大和中部ヲ横斷シ、紀伊ニ入リテ紀伊川トナル、十津川ハ大和南部ノ水ヲ集メ、紀伊ニ入リテ熊野川トナル、丹波ノ水ハ一部ハ大堰川トナリテ山城ニ入り、一部ハ福知川トナル、福知川ノ下流ハ由良川ト稱シ

流程三十里其他大和川ハ大和ヨリ河内ヲ横斷シ灌溉ノ利少ナカラズ。
 三、滋賀縣 近江一國ヲ管ス琵琶湖ハ國ノ面積三分一ヲ占メ、形狀琵琶湖ニ似タリ、國名モ亦此湖(淡水)ヨリ來ル敦賀ヨリ汽車ニ乗ジテ本縣下ノ域ニ入り、柳瀬ノ長キ隧道ヲ通り、賤ヶ岳、余吾湖ノ東ヲ進メバ一碧鏡ノ如キ琵琶湖上ニ竹生島ノ峙ツヲ見ン、ヤガテ姊川ヲ渡リテ長濱ニ着スベシ、賤ヶ岳ノ戰ヲ語レ、七本槍ハ誰々ハ辨財天ヲ祀ル濱縮緬ハ此地ヲ本場トス、是ヨリ東ニ伊吹山ヲ望ミテ米原ニ達シ、東海道鐵道ト聯絡ス、更ニ南スレバ彦根伊井氏ノ舊城地近江鐵道ハ是ヨリ分レテ南ニ赴キ、現時八日市マデ達セリ、彦根ヨリハ蚊帳ノ産アル八幡ヲ過ギ、野洲川ヲ渡リ、草津ニ至リテ舊東海道ニ合ス、關西鐵道モ亦是ヨリ分ル、是ヨリ汽車ハ勢多ノ唐橋ヲ傍ラニ見テ鐵橋ヲ渡リ、馬場ニテ支線ヲ大津ニ分チ、逢坂山ノ中腹ニ穿テ大谷ノ隧ヲ經テ山城ニ入ル。
 大津三萬ハ縣廳所在ノ地ニシテ湖水ニ臨ミ、汽船ノ便アリ、膳所ノ城趾、

粟津原 木曾義仲戰死ノ所皆其南ノ湖畔ニアリ、勢多川ヲ少シク下レバ石山寺アリ、大津ノ傍ノ長良山ニハ有名ナル三井寺アリ、長等山圍城寺ト號ス、湖水チ一畔ニ收メ、風光絶佳ナリ。近年此山ノ麓ヨリ溝渠ヲ穿チテ湖水ヲ京都ニ疏通シ、運漕ノ便ヲ開ケリ、大津ヨリ湖畔ヲ北ニ進メハ滋賀ノ宮趾ヲ西ニ望ミ、宮趾ノ在ル所ハ唐崎ノ松ヲ見テ坂本ヨリ比叡山ニ上リ、延曆寺ニ詣ルベシ、琵琶湖畔ハ至ル所風景ニ富ミ、近江八景ノ名夙ニ現ル、八景ハ矢橋歸帆、石山秋月、瀬田雨、堅田落雁、比良暮雪ヲ云ヒ、支那洞庭湖瀟湘ノ八景ニ因ミテ名ケタルモノナリ。近江商人ハ古來忍耐勤勉ニシテ、多ク近江京都ノ織物ヲ齎ラシテ至ル所ニ行商セリ

産物ハ濱縮緬蚊帳地ノ外茶及源五郎鮒、勢多川ノ鯉、伊吹艾、信樂燒等アリ、

四、京都府 山城全部、丹波ノ大部、及丹後ヲ管ス、今先ヅ山城ヲ述ベ次ニ兩丹ニ移ラン、愛宕一帶ノ山脈西ヲ限リ、比叡山東ニ聳エテ其脈南

ニ赴キ、鷲峯山トナリ、笠置山トナル、北ハ山々相並ビテ大悲山鞍馬等ヲ起シ、南ハ亦逼リテ奈良平地ト一帯ノ丘陵ヲ隔ツ、此間一面ノ平地ニシテ東西二三里南北十里許、宇治川此平原ノ南部ヲ横流シテ水量最モ多ク、木津川伊賀ヨリ來リ、國ノ南境ヲ巡リテ宇治川ニ入ル、此両川相逼ル所ニ大ナル巨椋^{アケラ}ノ池ヲ涵フ、宇治川以北ハ此平原ノ主要ナルモノニシテ、鴨川、桂川東西ニ流レ、其水合シテ宇治川ニ注グ、此鴨桂兩川ノ間ハ桓武天皇以來七十一代千七十六年間平安城ノ舊地ニシテ、初メハ左右兩京ヲ置キ、九條ノ大路ヲ東西ニ通ジ、規模宏大ナルモノナリシガ、星霜遷移、兵亂相繼ギ、右京バ早ク荒廢シ、七條以南モ亦田圃ニ委シ、却テ鴨川以東及北部ニ發達シ以テ今日ノ京都市街ヲナセリ。

京都市^{三三}万ハ現時西京ト稱シ、本邦三府ノ一ニ居ル、街衢整正、道路清潔ニシテ七條ノ大路東西ニ通ジ、三條、四條、寺町通、新京橋ノ邊最モ繁華ナリ、三條以北ヲ上京區、以南ヲ下京區トス、鴨川ニハ數多ノ大橋ヲ架シ、主

ナル街路ニハ電氣鐵道ノ設アリ、舊皇城ハ市ノ北部ニ在リテ宮殿ハ猶舊觀ヲ改メズ、二條離宮ハ市ノ西部、修學院、桂ノ兩離宮ハ各市外ニアリ、第三高等學校博物館京都大學等ハ皆明治以來次第ニ此地ニ置カレタリ、抑此ノ地山水清麗、且歷代帝都タリシヲ以テ名稱舊跡至ル所ニ多ク、神祠梵刹比々トシテ相望メリ、上加茂神社、下加茂神社、大德寺、建勳神社織田信長、金閣寺、仁和寺、妙心寺、護王神社和氣清麻呂等ハ北部ヨリ西部ニアリ、銀閣寺、黒谷平安神宮、南禪寺、知恩院、八坂神社、清水寺、豊國神社豊臣秀吉、三十三間堂、東寺、東西本願寺、泉涌寺先帝兩陛下ノ御陵及其他、東福寺等ハ西部南部ニ在リ、各寺院ハ何レモ規模宏大ニシテ泉池花木ノ觀ルベキ者多ク、珍器什寶書畫ヲ藏スルコト夥シ。

鐵道東海道線ハ近江ヨリ來リ、大谷ノ隧道ヲ通ジ、山科稻荷ヲ經テ市ノ南端七條ニ停車場ヲ置キ、山崎ヲ經テ大坂ニ通ジ、奈良鐵道ハ七條ヨリ伏見、宇治ヲ經テ奈良ニ達シ、京都鐵道ハ京都西部ヨリ嵯峨ヲ經テ丹波

ニ通ズ。

伏見九千ハ京都トノ間ニハ電氣鐵道アリ、大坂トハ宇治川ニ由テ汽船交通ノ便ヲ有シ、市内商業頗ル盛シナリ、町ノ東北丘陵ノ上ニ豊太閣、挑山城ノ遺趾アリ、登臨風景極メテ好シ、此邊多ク桃樹ヲ植ウ、木幡宇治ノ邊ハ茶園甚ダ多ク、木がくれて茶摘みもきくやほととぎすばせを黄蘗山萬福寺禪宗派ノ本山、ハ宇治川ノ北ニ在リ、宇治橋ヲ渡レバ則東ニ平等院ヲ見ル、是レ源三位頼政ノ自殺セシ所ナリ、其鳳凰堂ハ七百餘年前ノ建築ニシテ、其美妙ナル意匠ハ内部ノ壁畫ト共ニ本邦ノ寶物ナリ、宇治ハ元來幽雅ノ地ニシテ、最モ夏夕觀燈ニ宜シ、宇治ヨリ南シテ木津ニ至リ、關西鐵道ニ乘リ換ヘ、木津川ニ沿ウテ上レバ笠置山ニ至ルヲ得ベシ、突兀タル巉岩ノ頂ハ則後醍醐帝蒙塵ノ舊趾ナリ、伏見ノ西部ニ淀稻葉氏ノ舊城地、八幡山崎ノ小邑アリ、八幡ノ傍ノ丘陵ニハ歷代崇信厚キ男山八幡社則石清水八幡宮、鎮座ス、男山ノ丘陵ハ天王山ト相對シ、其間頗ル隘ク、此狹路ヲ過グレバ大坂ノ

平原トナル、嵯峨ハ京都ノ西部ニ在リテ其地ノ嵐山ハ春櫻、秋楓、山紫水明ノ勝ヲ兼ヌ、天龍寺、清涼寺、大覺寺、等其近傍ニ在リ、清瀧川ハ保津川ノ支流ニシテ其上流溪間ニ三尾梅尾、高尾、榎尾ノ勝地アリ、秋季霜楓眞ニ燃ユルガ如シ。

京都ハ四隣ニ斯ノ如キ勝地ヲ有シ、春朝秋夕、逍遙俯仰ノ間、人心ヲ薰陶スルコト多カルベク、且多年皇族ノ住ハセ給ヒシ所トシテ公卿紳士ノ感化ヲ受ケ、言語風俗人情ニ至ル迄亦一段優美ノ發達ヲナシ、意匠、緻密、工藝、美術ニ長ジ、製出スル所ノ西陣織、友禪染、繡箔、及清水燒、粟田燒、蒔繪ノ漆器、京紅、白粉、扇子、人形ノ如キ、此地ノ特産トシテ他ノ模倣スル能ザル所ノモノタリ、近年琵琶湖疏水ノ業成リシヨリ其水力ヲ利用シテ諸般ノ工業ニ應用シ新事業モ亦漸ク發達ノ運ニ向ヘリ、北部ノ山間八瀬、大原、鞍馬等ノ民ハ主トシテ農樵ノ業ニ從ヒ、多ク來リテ薪炭ヲ市ニ鬻グ、京都鐵道ハ嵯峨ヨリ保津川ノ溪間ヲ通ジテ丹波ニ

入リ、龜岡ヲ經テ現時園部ニ達ス、福知山ハ丹波ノ西北ニ在リテ阪鶴鐵道攝津ヨリ通ズ、第廿旅團ノ司令部此ニ在リ、此地ヨリ由良川ニ沿ヒ大江山鬼城ノ傍ヲ過ギ、丹後ニ入リテ舞鶴ニ達ス、丹後ハ海岸屈曲多ク西部ハ半島ヲナシテ其端ヲ經岬ト云ヒ、巨巖波ニ峙チ、舟行危險ナルコト能登ノ珠洲岬ニ劣ラズ、其東ハ水深ク大艦巨舶ヲ泊スベク、第四鎮守府ノ所在地タリ、舞鶴ヨリ由良川ヲ渡リ、丹後富士由良ヶヲ傍ニ見テ宮津ニ達ス、同名ノ灣ニ臨ミ、開港場ニシテ丹後第一ノ都會ナリ、灣ノ西北岸頭江尻ヨリ一條ノ砂洲突出シ、長サ廿七町四十間 幅三十七間對岸ト僅ニ一小海峡女珠ノ切戸ト稱スヲ隔ツルノミ、蒼松一帶白砂ト共ニ連ナリ、風景極メテ佳ナリ、日本三景ノ一ナル天橋立是レナリ、國ノ西北ニ在ル峯山ハ丹後縮緬ノ本場ナリ、其西ニ久美濱港アレドモ、港口淺クシテ大船ヲ入レ難シ、當府下產物中織物ハ優ニ本邦第一ニ位シ、其年產額二千數百萬圓ニシテ、群馬、愛知ヲ合セタルモノニ同ジ、茶ハ量ニ於テハ静岡ニ讓レドモ、質

ハ本邦ニ於テ最モ優等ナリ、漆器、陶磁器モ其量ニ於テハ劣ル所アレドモ、技術ニ於テハ讓ル所ナシ、而シテ青銅器ハ量ニ於テモ第一タリ、織物染物ノ業ト共ニ藍ヲ產スルコトモ少ナカラズ、
 而丹ノ地タル平地少ナク、地味モ亦礫确ニシテ稼穡ニ適セザル所多シ、故ニ蠶織ニ從事スル者多シ、丹波ノ粟、烟草、桑酒及府下各所ノ松茸ノ如キ亦名産トス。

五、奈良縣 大和全部ヲ管ス

奈良、鐵道ハ山城ノ木津ヨリ直チニ大和ニ入リ、奈良ニ達ス、奈良ノ平原ハ山城ノ平原ヨリ較、小ナリ、北ハ一帶ノ丘陵ニ由テ山城ニ界シ、西ハ葛城山脈ニ限ラレテ生駒、志貴、金剛、葛城ノ諸峯相連ナリ、南ハ丘陵相擁シテ吉野郡ニ及ビ、大和川ノ上流此平原ノ田圃ニ灌溉セリ、抑此一面ノ平野ハ我皇室祖先歷代ノ都シ給ヒシ所ニシテ上古ノ宮趾神社及古刹多ク、又處々ニ高大ナル御陵ヲ散見シ、懷古ノ情禁ゼザラシム。

奈良三万ハ縣廳所在ノ地ニシテ此平野ノ東北部ニ位シ根來塗、奈良漬、奈良晒、筆墨等ハ市ノ名産タリ、樹木鬱葱タル春日山其東ニ聳エ、最モ愛スベキ嫩草山或ハ是ヲ三笠山ト云フハ其麓ニ立ツ、春日神社ノ鹿、東大寺ノ大佛、興福寺ノ塔、猿澤池ノ柳等皆遊覽者ノ視聽ヲ感動セザルハナシ、東大寺ノ正倉院ハ奈良朝ノ遺物ヲ保藏シ、奈良博物館ハ上古ノ佛像什寶等ヲ陳列スルコト夥シ、抑此地ハ古昔奈良七朝ノ帝都ノ一部ニシテ、市ノ西一帶ノ平野中ニハ都迹五條、六條、七條、八條、九條等ノ村落相連ナリ、當時ノ巨刹今猶存スルモノアリ。

大阪鐵道ハ奈良ヨリ郡山一万二千、柳澤氏舊城地、法隆寺、王寺ヲ經テ大阪ニ通ジ、南和鐵道ハ王寺ヨリ高田ヲ經テ五條ニ達シ、紀和鐵道ハ五條ヨリ橋本ニ至ル、又奈良ヨリ南櫻井驛マデハ奈良鐵道ニ由テ往復スベク、櫻井高田間ハ大阪鐵道ニ由テ聯絡セラレタリ、法隆寺ハ我が國最古ノ巨刹ニシテ聖德太子ノ創立ニ係リ、多ク當時ノ

寶物ヲ藏シ、金堂ノ壁畫、玉蟲ノ厨子最モ有名ナリ、更ニ南ニ進メバ畝傍山東北陵、橿原神宮モ參拜スベク、東ニ於テハ長谷寺ノ觀音、多武峯ノ談山神社藤原鎌足ヲ祀ル等ヲ巡ルベシ、大和南部ハ吉野郡ニシテ國ノ過半ヲ占メ、北部ハ吉野川横流シ、河岸ニ上市下市ノ都會アリ、其以南ハ總ベテ山岳峻險ニシテ山上大峯山ハ行者ノ崇信スル靈場タリ、吉野ハ上市ニ近ク、其地深谷ヲ繞ラシ、山中到ル處櫻樹ヲ以テ蔽ハル、花期遊人唯アアト驚クノ外ナシ、此地南朝四代行宮ノアリシ所ニシテ吉水院、如意輪寺、後醍醐天皇ノ御陵等感慨ノ情ヲ起スベキ古蹟多シ。

六、大阪府 攝津ノ一部河内和泉ノ全部ヲ管ス。

此攝、河、泉ヲ包有セル畿内平野ハ西ノ一面大阪灣ヲ抱キ、淀川、大和川、其中部ヲ流レ、地味沃饒、四望瞭然トシテ開ケ、僅ニ山岳ヲ杳靄ノ間ニ見ルノミ、淀川ハ下流數條ニ分レテ共ニ河口ヲ灣頭ニ開キ、大阪市七十五万ハ此分流セル河域ニ跨リテ建設セラレタリ、加之縱横ニ溝渠ヲ通ジ、數百ノ

橋梁ヲ架シ以テ舟運交通ノ便ヲ開ケリ、安治川ノ河口ハ内外船舶ノ輻湊スル所ニシテ、現時開港場ノ一タリ、其ノ輸出入額七百萬圓ヲ有スト雖モ、水淺ク巨舶近キ難キヲ以テ今ヤ築港ニ從事セリ、其計畫セル船渠ブールノモノニ比シテ猶二倍ノ大サアリト云フ、規模ノ宏大ナル想見スベキナリ府民元來商業ニ從事シ、敏捷ニシテ機ニ投ズ、此地ハ關西貨物集散ノ一大中心市場ニシテ、東京市場等へ物價高低ノ影響ヲ及ボスコト少ナカラズ、殊ニ近時工業勃興シ會社工場到ル處ニ起リ、烟突林立煤烟空ニ滿テリ、故ニ商工業ハ東京ト伯仲ノ間ニ在ルノミナラズ、銀行會社ノ數ハ却テ東京ヨリ多ク、其資本金モ一億圓ニ達セントス、其製造品ハ綿絲ヲ初メトシテ、燐寸、煉瓦、硫酸、銅鐵器等ニ及ビ、造船所モ亦一箇ヲ有シ、政府ノ設立ニ係ルモノニハ、造幣局、砲兵工廠アリ、市内最繁華ノ區ハ心齋橋通、千日前、道頓堀等ニシテ、佛寺ニハ天滿天神、高津宮、生國魂神社、四天王寺、安倍野神社、住吉神社等アリ。

大阪城ハ豊大閑ノ經營ニ由テ天下ニ無比ト稱セラレシガ、今ハ唯牙城ヲ存スルノミ、サレド猶規模宏壯巍然トシテ市ノ東ニ聳エタリ、第四師團司令部、中部都督司令部、此中ニ在リ、茶臼山、真田山ハ市ノ南部東部ニ在リテ共ニ古戰場タリ

官設鐵道ハ東ハ京都、西ハ神戸ニ通ジ、關西鐵道ハ河内四條畷ヲ經テ名古屋ニ至リ、大阪鐵道ハ柏原、王寺ヲ經テ奈良ニ達シ、河陽鐵道ハ別ニ柏原ヨリ分レ、道明寺楠ノ産ヲ經テ富田林ニ至ル、富田林ノ南ニ聳ユル金剛山ノ麓ニハ千早、赤坂ノ城趾アリ、南海鐵道ハ堺、岸和田ヲ經テ紀州和歌山ニ至ル、堺ノ近傍大小路ヨリ河内ノ狹山狹山ノ池ハ崇神天皇ヲ經テ長野マデハ別ニ高野鐵道ノ設アリ、四條畷ハ正平ノ古戰場アル所ニシテ其近傍四條畷神社ハ正行及楠氏一族ノ靈ヲ祀ル。

堺市五万ハ往時本邦無比ノ外國互市場タリシガ、港内水淺キヲ以テ其繁華次第ニ大阪ニ移レリ、然レドモ猶大阪以南ノ一商區ニシテ鐵器、段

通織ハ此市ノ特産タリ、海濱ノ風景殊ニ宜シク、妙國寺ノ蘇鐵ハ最モ有名ナリ、市ノ東ニ仁徳天皇ノ御陵アリ、外堤ノ延長二百八十三間、陵ノ高池十五間、陵中ノ最大ナルモノナリ田ハ北部貨物集散ノ主要ナル市場ニシテ、其地ノ炭及酒ハ殊ニ名高シ、阪鶴鐵道ハ此地ヲ通ジテ丹後ノ福知山ニ達ス。

此府下平原ヨリ生ズル所ノ穀産モ頗ル多量ニシテ、米麥合セテ百八十八萬石ニ至ル、綿ハ鳥取縣ニ次ギテ多ク、綿絲紡績業ハ本邦ノ中心ニシテ、其産額ハ年々長足ノ進歩ヲナシ、其工場ハ全國七十餘箇所ノ内廿箇所ヲ府下ニ有セリ、酒類織物ノ産モ亦少ナカラズ。

七、和歌山縣 紀伊ノ大部ヲ管ス。

大和ノ五條ヨリ汽車ハ紀ノ川ニ沿ヒ本縣下橋本ニ達シ、其南三里ノ高野山ニハ有名ナル金剛峰寺眞言宗古義 眞言宗新義アリ、山中扁柏、金松杉等ノ樹木甚ダ多シ、是ヨリ粉川根來眞言宗新義 眞言宗新義ノ寺院ヲ見テ和歌山市ニ達スベシ、紀ノ川ノ沿岸ハ平地多ク土壤肥沃ニシテ米穀ノ産少ナカラズ、和歌山

市五万八千ハ徳川氏五十五萬石ノ舊城市ニシテ現時縣廳所在ノ地タリ、海陸ノ便ヲ並有シ市況頗ル盛ンナリ、綿フランネルハ重要ナル製品ニシテ、和歌ノ浦ハ風光ノ勝ヲ以テ聞エ、其南ノ黒江ハ漆器ノ産ヲ以テ名高シ、日高川ノ沿岸ハ紀州蜜柑ノ本場ニシテ其栽培ハ一林ニシテ數里ニ互ルモノアリ、湯淺一万田邊新宮等皆沿海ニ在ル都會ナリ、那智山ハ新宮ノ西ニ在リテ其山腹ニハ高八百四十尺ノ瀑布アリテ海上ヨリ望ムコトヲ得ベシ、新宮ヨリ熊野川ニ浴ヒテ進メバ山間ノ一邑タル本宮ニ達シ、是ヨリ大和十津川郷ニ進ムヲ得ベシ、本宮ノ熊野神社、新宮ノ熊野速社ヲ并セテ熊野三社ト稱ス玉神社、那智山ノ熊野夫須美神

本縣ノ地タル山岳蟠結シ平地少ナク道路崎嶇タリ、海岸ハ出入多シト雖トモ、一モ大灣ヲナスモノナク、地位外洋ニ突出スルヲ以テ風波強ク潮流急ニシテ、殊ニ南端潮岬大島ノ邊最モ甚タシトス、土耳其古軍艦ノ沈没セシハコトナリ

縣下諸種ノ海産物ニ富ミ漆器ノ産ハ本邦ニ於テ最モ多量トス。

八、括論

此地方ハ本邦中人民夙ニ繁殖セシ所ニシテ今日ニ至リテモ猶全國中戸口尤モ稠密ニシテ畿内五ヶ國ニツキテ見レバ大約一方里六千人ノ割合ナリ、是等多數ノ人ガ各適應セル生活ノ度ヲ維持センニハ、亦大ナル生産力ヲ要スベキコト明カナリ、而シテ畿内ハ人口寧ろ過剩ニ失セラル有様ヲ現ハセリ、又開國以來常ニ帝都ノ在リシ所ナリシヲ以テ此地方ハ最モ本邦歴史ト密接ノ關係ヲ有セリ。

練習問題

- 一、北陸道ト東海道トノ異ナル點ヲ擧ゲヨ。
- 二、甲斐ノ産物ヲ擧ゲヨ。
- 三、長野市、松本町ニ就キテ知ル所ヲ書ケ。
- 四、岐阜縣製産物ノ状態ヲ記セ。
- 五、北陸道ニ於テ重要ナル港十ヶ以内ヲ擧ゲヨ。
- 六、北陸道ノ海産物ヲ擧ゲヨ。
- 七、北陸道ニ於ケル織物ヲ問フ。
- 八、北陸道ニ於ケル現時鐵道線路ノ状態。
- 九、大聖寺、赤泊、和倉、珠洲、三條ノ位置。
- 十、北陸道ニ於テ鐵器ヲ産スル都會ヲ問フ。
- 十一、北陸東山地方ニ出テシ人物十人ヲ擧ゲヨ。
- 十二、畿内ノ地勢ヲ記セ。
- 十三、京都ニ於ケル有名ナル神社寺院ヲ述ベヨ。
- 十四、京都ノ産物ヲ擧ゲヨ。
- 十五、丹後ニアル三港ヲ擧ゲヨ。
- 十六、奈良市ニツキテ知ルヲ述ベヨ。
- 十七、大和ニ於テ有名ナル神社寺院數ヶヲ擧ゲヨ。
- 十八、大阪市ノ製産物ニツキテ述ベヨ。
- 十九、堺市、四條、吸ニツキテ知ル所ヲ述ベヨ。
- 二十、能登ノ地形ヲ描ケ。

第七章 中國地方

兵庫岡山廣島山口鳥取島根ノ六縣管轄地ヲ含ム。

一、地勢

中國山脈東西ニ亘リテ、土地ハ自然ニ山陰ト山陽トニ分

タル、山陰トハ山ノ北ニシテ山陽トハ山ノ南ヲ云フナリ。山陰一帶ハ日本海ニ臨ミ、山陽一帶ハ瀬戸内海ニ臨ム、而シテ長門ノ一部モ亦地勢上山陰ニ屬スルモノナリ、北部一帶ハ平地少ク氣候モ較、寒ク、且雨雪多ケレドモ、南部一帶ハ平野開曠ノ所多ク、且無數ノ嶋嶼前面ニ羅列シテ風光明眉ヲ極メ、氣候モ亦温暖ニシテ雨雪少シ、山岳連亘スレドモ、亦東山地方ニ於テ見ル如キ高峻ノモノナク、其高キモノモ大略四五千尺ニ過ギズ、又現時ハ一ノ活火山ヲ有セズト雖モ、其ノ過去ノ時代ニ於テハ、非常ナル勢ヲ以テ、至ル所ニ噴火セシモノナルコトハ、其岩石ニ由テ徵

證スルコトヲ得ベシ、伯耆ノ大山ハ即チ舊火山ノ一ニシテ此地方第一ノ高峯〇尺九五九タリ。

一、海岸

北面一帶ハ概ネ平直ナレドモ出雲ニハ嶋根半島東ニ斗出シテ、其南ニ宍道湖ヲ擁シ、更ニ伯耆ノ夜見ガ濱ト共ニ中海ヲ包ム、半嶋ノ東端ヲ地藏崎トシ、北端ヲ多古鼻ト云ヒ西端ヲウルツノセヒ、ハナ十六嶋鼻ト稱ス、巨礁十六之ヲ繞ルニ由ルナリ、長門ノ北面ハ山脈ノ餘派往々海ニ入りテ島嶼トナリ、更ニ飛ンデ見島ノ一群ヲ成ス、馬關ノ關門ヲ過グレバ、則瀬戸内海ニシテ海岸線犬牙錯雜極マリナク、長汀曲浦數フルニ遑アラズ、廣島灣兒島半嶋ノ如キハ特ニ其出入ノ著シキモノナリ。

三、河流

江ノ川ハ中國第一ノ巨流ニシテ備後大部、安藝石見一部ノ深流ヲ混同シ、屈折北流シテ日本海ニ注ク、延長五十里舟楫ノ通ズルコト殆ド甘里ナリ、其他備前ノ西大河七三十東大川一三十備中ノ高梁川里廿八等ハ稍大ナレトモ、概スルニ此地方ノ河流ハ水量少ナク、或ハ平時殆ド

水ヲ絶ツモノ往々是アリテ東海北陸地方トハ大ニ其趣ヲ異ニス。

四、兵庫縣

播磨淡路、但馬ノ全部ト攝津丹波ノ一部トヲ管ス。

東海道鐵道ニテ大阪ヨリ西ニ進メバ、神崎ニ於イテ阪鶴鐵道ヲ横ギリ、西宮、住吉等ヲ經、武庫山、摩耶山ヲ右ニ望ミテ神戸市ニ達スベシ、阪鶴鐵道ハ神崎ヨリ南ハ尼崎ニ、北ハ伊丹池田ヨリ生野川ニ沿ヒテ丹波ノ一部ニ入り、篠山、柏原ヲ經テ目下福知山迄開通セリ、尼崎ハ海岸ニ在リテ溝渠四通シ舟楫ノ便アリ、西宮、御影一帶ハ所謂灘八郷ノ地ニシテ古來醸酒ノ業甚ダ盛ンナリ、從テ富豪家少ナカラズ、西宮ハ殊ニ其最タリ、伊丹モ亦醸酒ヲ以テ著ハレ、灘地方ト共ニ其名全國ニ高シ、住吉ノ北三里有名ナル有馬ノ温泉アリ、神戸市ハ縣廳所在ノ地ニシテ、北ニ山ヲ負ヒ、東ニ和田岬ヲ控ヘ、湊川市ノ中央ヲ流レテ其東西ニ二灣ヲ形成ス、河ノ西ハ舊來ノ兵庫ニシテ、河ノ東ハ開港以來新ニ發達セル所ノモノナリ、現時本邦港開場中横濱ト東西相對峙シ、戶口ノ滋殖、市況ノ殷盛モ亦相

頗煩ス其輸出ハ横濱ニ讓レドモ輸入ハ却テ之ニ優ル輸出ノ主ナルモノハ米、茶、燐寸、樟腦、海産物等ニシテ輸入ノ主ナルモノハ綿、金巾、石油、砂糖、諸器械等トス。

湊川神社ハ市ノ北ニ在リテ賽客常ニ絶エズ、嗚呼楠子之銘碑ハ凍トシテ社頭ニ立テリ、諏訪山ノ公園ハ眺望ニ宜シク、生田森、布引瀧、福原ノ舊趾等ハ市ノ近傍ニアリ。

山陽鐵道ハ神戸ヨリ明石、姫路等ヲ經テ岡山市ニ通ズ、神戸ノ西一帯ノ海岸ハ須磨浦ニシテ、風光極メテ好ク、鵜越、一谷ノ古跡ハ其近傍ニ在リ、岸ニ沿ヒテ播磨ニ入レバ風景ノ美益々加ハリ、舞子濱ニ至リテ絶景言フベカラズ、砂濱一帯ノ老松屈曲盤結シ、白帆ノ去來ト淡路島ノ翠黛トハ一眸ノ中ニ在リ、此地ヨリ舞子燒ヲ産ス、明石松平氏八萬石ノ舊城地ハ繁盛ノ都會ニシテ、明石鯛ヲ産シ、舊城ハ離宮タリ、明石ヨリ姫路ニ至ル間ニ、高砂、尾上等所謂播磨名所アリ、別府ノ手枕松、尾上松、高砂ノ相生松、曾根ノ天神松、石ノ寶殿

明石ト濱路嶋トノ間ハ逼リテ明石海峡ヲナシ、其間僅カニ一里ニ過ギズ、淡路嶋中田畝ヨク開ケタリ、洲本ハ東岸ニ在リテ稍盛ンナリ、由良ハ紀伊ニ渡ルノ要津ニシテ砲臺ヲ設ケ、要塞砲兵ヲ置ケリ、福良ヨリハ珉平燒ヲ出シ、淡路國伊賀野村ノ人、加集珉平、京都ニ上リ、五條坂ノ陶工、尾形周平ニ從ヒテ學ビ、天保年中其村ニ歸リテ製陶ヲ初メ、子孫傳ヘテ今日ニ至ル。阿波ノ撫養港ト舟楫常ニ往來ス。

姫路酒井氏十五萬石ノ舊城地ハ繁盛ナル都會ニシテ、舊城ハ高ク、其北部ニ聳エ、第十師團司令部其中ニ在リ、姫路革ハ此地ノ特産タリ、姫路ヨリ西揖保川ノ西岸ニ醬油ヲ以テ名高キ龍野町アリ、更ニ西部ニ四十七士ヲ以テ有名ナル赤穂町アリ、此邊沿海一帯盛ンニ製鹽ニ從事ス、赤穂鹽ノ名世ニ高シ、白旗山南北朝ノ時、赤松氏ノ據リシ所ハ遙カニ其北部ニ在リ、書寫山山中圓教寺ハ姫路ノ西北二里ニ在リ。

播但鐵道ハ姫路ヨリ南ハ飾磨津ニ、北ハ生野ニ達ス、此地ハ中國山脈中ニ在レドモ、海面上略、一千尺ニ過ギズ、其銀山ハ并セテ金銅鉛ヲ産シ、其

産額ハ金銀銅各年々十萬圓以上ニ達ス、生野ヨリ朝來川下流ヲ城ノ崎川或ハ豊岡川ト云フニ沿ヒテ下レバ豊岡ニ出ヅ、柳行李ノ産アリ、豊岡ヨリ玄武洞ノ奇觀ヲ見テ城ノ崎温泉ニ出ヅルコトヲ得ベシ、出石ハ豊岡ノ東南ニ在リテ出石燒ヲ産ス。

本縣ハ平地多ク地味豊饒ナルヲ以テ穀類ニハ米麥合シテ三百餘萬石ノ産アリ、酒ハ五十餘萬石ニシテ、全國第一ニ位ス、牛及ビ生絲モ亦少ナカラズ、魚鹽ノ利モ大ナリ。

五、鳥取縣

因幡伯耆ヲ管ス。

鳥取市池田光政ノ從弟光仲ヨリ傳ハリタルハ縣廳所在ノ地ニシテ、千代川下流ノ平野ニ位シ、但馬、播磨、美作、伯耆ニ通ズル街道ノ衝ニ當リ、市況繁盛ナリ、市ノ東ニ稻葉山ヲ見ル、山麓ニ宇倍神社武内宿禰ヲ祀ルアリ、千代川ノ河口ニ加露港アレドモ、水淺ク風濤亦暴シ、湖山池ニハ鯉鮒アリ、其下流ハ加露川ニ注グ、國道山陰道ハ概ネ海岸ヲ通ズレドモ、輕沙脚ヲ没シテ

行步頗艱ム、伯耆ニ入リテ東郷池ヲ左ニ見テ天神川ヲ渡リ、淀江、米子ヲ過ギテ出雲國ニ入ル、天神川上流ノ倉吉ハ精巧ナル生絲ヲ産シ、又木綿飛白ヲ産ス、淀江ノ東ニ名和神社アリ、名和長年ヲ祀ル、大山ハ或ハ大神山ト云ヒ、著名ノ高山ナリ、其東北ニ船上山アリ、米子ハ國中第二ノ都會ニシテ水陸交通ノ便ヲ得、此處ヨリ一條ノ長洲突出スルコト五里、島根半島ト中江海峡ヲ夾ム、其岬端東ニ向テ境港アリ、深サ五仞、巨舶直ニ岸ニ着クベク、港内波穩カニシテ山陰第一ノ良泊ト稱セラレ、敦賀、馬關等ト定期汽船ノ便アリ。

因州ノ牛及白珊瑚、伯州ノ木綿及鐵礦ハ本縣ノ産物タリ、而シテ綿ハ一百萬貫ヲ産シ本邦第一ニ位ス。

六、岡山縣

備前、備中、美作ヲ管ス。

美作ハ四方山ヲ以テ圍ミ、自然ニ一區域ヲナス、然レドモ地勢南ニ向テ低ク、津山川、高田川、南流シテ備前ニ入リ、東大川、西大川、トナル津山ハ國

ノ中部ニ在リテ道路四通ス、西ハ四十曲峠ヲ越エテ伯耆ノ日野川ノ邊ニ出テ、北ハ那岐山五二六〇尺ノ東側黒尾峠ヲ經テ因幡ニ入り、東ハ播磨ノ佐用郡ニ入ル雲齋織ハ市ノ名産タリ、市ノ西ナル院ノ庄ハ兒嶋高德ノ櫻樹ヲ削リシ所ナリ、中國鐵道ハ津山ヨリ岡山ニ通ズ。

山陽鐵道ハ播磨ヨリ舟坂峠兒嶋高德ノ後醍天皇ヲ奪ハントセシ所ニ於テ六百間ノ隧道ヲ穿テテ備前ニ入り、備前燒ノ本場伊部村及刀劔ノ產地長船ノ近傍ヲ過ギテ岡山市ニ達ス、岡山市ハ山陽道ニ於テ廣嶋ニ次グ大都會ニシテ、備前西部ノ平野ニ位シ、旭川西大市内ヲ貫流シ、市況益々殷盛ノ情ヲ呈ス、縣廳、第六高等學校、第三高等學校醫學部等此ニ在リ、市内ノ後樂園ハ本邦三公園ノ一ニシテ、瀟洒清潔泉池花木ノ情甚ダ風致ニ富ム、紋筵ハ市ノ名産タリ。

鐵道ハ岡山市ヨリ舊街道ニ分レテ備後ニ入り、吉備津彥神社ノ在ル眞金村ノ南ヲ過ギ、倉敷、玉島、笠岡等ヲ經テ廣島縣ニ入ル、倉敷ハ備前ニ屬

スル兒嶋半島ノ咽喉ニ位シ、盛ンナル商區ナリ、其南ノ藤戸村ハ古昔藤戸渡佐々木盛綱コ、ヲ渡リタリノアリシ所ナレドモ今ハ既ニ陸地トナレリ、半島ノ南端下津井港ハ讚岐ノ丸龜ト日々船舶ノ往復アリ、玉嶋、笠岡及備前ノ牛窓ノ諸港ハ共ニ商舶ノ輻湊スル所ニシテ、殊ニ玉嶋ハ四國ノ多度津ト日々郵便船ノ往復アリ、笠岡ノ南ニ在ル高島ニハ神武天皇ノ宮趾アリ、高梁川下流ヲ大川ト云フニ沿ウテ上リ、高松城ノ遺趾ヲ見テ北進スレバ、高梁ニ至ル、此地北方貨物ノ集散地ニシテ、高梁川ハ舟運ノ便ヲ有シ、玉嶋港ト連絡ヲ保ツ、高梁ヨリ北部ニ在ル川上郡吹屋村、吉岡、鑛山ハ銀銅合セテ三十餘萬圓ヲ出シ、更ニ國ノ南部都宇郡中庄村、帶江、鑛山ハ銅二十餘萬圓ヲ出ス。

本縣米麥ノ産ハ二百餘萬石ニ達シ、又多ク藍ヲ出ス、其他壘表類、刀劍、銅鹽、陶器等ノ外牛ハ飼養セルモノ十萬頭ニ近ク、本邦第一ニ位ス。

七、廣嶋縣

安藝備後ヲ治ム、山脈縱横ニ走り、海岸ニモ小山脈ノ起

伏スルモノアリテ其趨勢ハ海上無數ノ島嶼ト相關聯ス、從テ水脈紛々
タリト雖モ、北部ノ水ハ大抵三次川、吉田川ニ集マリ、北流シテ江ノ川ノ
源ヲナシ、西部ハ太田川ニ集マリ、南部ハ數條ノ小流ヲナシテ共ニ瀬戸
内海ニ入ル、是等ノ地勢ハ東海道ト異ナルヲ見ル。

鐵道ハ備後ニ入リテ福山阿部氏ノ舊城下、尾道、糸崎、三原ヲ經テ安藝ニ入リテ
廣嶋ニ達ス、鞆津ハ福山ノ南海岸ニ在リ、阿武兔岬其西ニ峙ツ、保命酒ノ
名産アリ、尾道ハ向島ト相對シ、港内波穩カニシテ商舶輻湊ス、鞆津ト共
ニ風景甚ダ佳ナリ、糸嶋三原共ニ海港ヲ有シ、近時益々盛ンナラントス、
安藝東部ノ海岸ニ在ル竹原ハ頼山陽ノ郷里ナリ。

廣島市ハ關西ノ大市ニシテ縣廳及第五師團司令部此ニアリ、太田川分
派シテ市内ヲ貫流シ、海岸ニハ宇品港ヲ控フ、廣島灣内幾多ノ島嶼ハ峯
ヲ連テテ灣口ニ羅列セリ、其中似、嶋ハ安藝ノ小富士ト稱セラル、市内社
寺園池ノ觀ルベキモノ多ク商業活潑ニシテ殊ニ廿七八年ノ役大本營

ヲ此地ニ置カレシヨリ、一層繁盛ノ運ニ向ヘリ、廣嶋ヨリ宇品ヲ經テ吳
港ニ至ル間ハ別ニ鐵道ノ便ヲ備ヘ、吳ハ第二海軍鎮守府ノ在ル所ニシ
テ其對岸江田嶋ニハ海軍兵學校アリ、其南ノ倉橋島ト本陸トノ間ハ所
謂音戸瀬戸オシロニシテ其幅五十餘間ニ過ギズ、古昔平清盛ノ開鑿セシモノ
ト稱セラル。

廣島ヨリ西ハ宮島停車場ニ至リ、直ニ嚴島ニ航スルヲ得ベシ、其嚴島神
社ハ三笠濱ノ下ニ在リテ岸ニ倚リ、水ニ架シ、左右ニ長廊ヲ廻シ、潮滿ツ
レバ恰モ水上ニ浮ブガ如シ、其結構ノ偉麗ナル、風景ノ秀絶ナル、優ニ口
本三景ノ一ナリ更ニ此島ヲ一周スレバ七浦ノ勝アリ、而シテ彌山ハ嶋
中ニ聳フルコト一千三百尺餘、此嶋又毛利、陶二氏ノ古戰場ニシテ嚴嶋
神社ニハ書畫什寶ヲ藏スルコト夥シ。

廣島ヨリ東北吉田村毛利氏ノ起リシ所ヲ經テ吉田川ニ沿ヒテ下レバ備後ノ三
次ニ出ヅ、此地ハ北部ノ商業區ニシテ、江ノ川此ヨリ舟楫ノ便ヲ得、土地高

ク、雲霧甚ダ多シ、米麥ノ産ト共ニ甘薯、綿、麻ノ栽培モ亦盛ンナリ、其他備後ノ壘表安藝ノ牡蠣ノ如キハ名産トス。

八、山口縣 周防、長門ヲ管ス。

鐵道ハ本縣下ニ入リテ岩國、柳井津、徳山ヲ經テ三田尻ニ達ス。

岩國吉川氏ノ舊城地ノハ岩國縮及ビ岩國半紙ヲ産シ、其岩國川ニ架シタル錦帶

橋ハ五小橋ノ連架ヨリ成リ、奇巧ヲ以ツテ古來名アリ、柳井津ハ周防東

南部ノ要港ニシテ、柳井縞甘露醬油ハ此地ノ名産タリ、其東南ニ横ハル

ハ大島ニシテ、山勢嶮峻延ヒテ伊豫ニ至ル、大嶋ト北方本陸トノ間ハ大

畑ノ瀬戸ト稱シ、潮流激甚奔雷ノ聲ヲナス、大島ノ西室津半島ノ南端ニ

室津アリ、其西ノ長島ニハ上、關アリ、其西ニ室積アリ、共ニ舟泊ニ便ナル

所トス、徳山毛利氏ノ舊城地ノハ徳山灣頭ニ位シ、水深ク自然ノ良港ヲナシ、大艦

巨舶ト雖モ碇泊自在ナリ、此地ニテ山陽汽船商社ノ定期連絡船ニ乗込

メバ、海上五時間ニシテ九州門司港ニ着スベシ。

三田尻ハ現時山陽鐵道線ノ終點ニ位シ、山口市ニ近キヲ以テ船客貨物

常ニ輻湊ス、其南ニ中、關アリ、三田尻ヨリ佐波川ヲ渡リ、鯖山峠ヲ越ユレ

バ山口市ニ達ス、此市ハ三方山ヲ繞シ西南一方遠ク開ケテ田圃相連ナ

リ、樅野川其間ヲ南流ス、此地嘗テ大内氏歷代ノ城地ニシテ、京都ノ公卿

來遊スル者多ク、其富盛遠ク海外迄聞エタリシガ、大内氏ノ滅亡ト共ニ

衰頽セリ、幕末ノ頃、毛利氏ノ居城トナリ現時縣廳所在地ニシテ、神社寺

院ノ觀ルベキ者多シ。

三田尻ヨリ西行スレバ長門ニ入リ、豊浦ヲ經テ馬關ニ達ス、此地モト下、

關或ハ赤間關ト稱シ、馬關海峡ヲ隔テ門司港ト相望ム、東ハ逼リテ早鞆、

瀬戸トナリ、西ハ彦嶋横ハリテ北海ノ巨濤ヲ防グ、後ハ丘陵ヲ負ヒ火、山

ニハ砲臺ヲ設ク、實ニ本邦西部ノ關門タリ、港ハ深サ三仞ヨリ十二仞ニ

至リ、大艦巨舶ヲ泊スルニ足レリ、此市又開港場ニシテ、石炭、米、綿布等ヲ

輸出シ、穀類、肥料等ヲ輸入ス、市内ニハ赤間宮官幣中社ニシテ祀ル、引接寺曾テ李淵

章ノ旅箱ニ等見ルベキ者多シ市ノ東端ハ古昔ノ所謂壇浦ニシテ人ヲシテ無限ノ感ヲ起サシム。

萩ハ長門中部ノ北海岸ニ在リテ阿武川其西ヲ流ル毛利氏累代ノ城市タリ。

本縣產物中麥ハ多カラザレドモ米ハ五百万石ニ達ス、鹽ハ百万石ヲ産シ、全國ノ首位ヲ占ム、海產物ニハ鯛、鰯、鱒、鮭及鯨等アリ。

九嶋根縣 出雲石見ヲ管ス。

山口町ヨリ山陰道ニ從ヒテ石見ノ國ニ入レバ東ニ青野嶽ヲ望ンデ津和野ニ着スベシ、是ヨリ高津川ヲ渡リ海岸ヲ經テ濱田港ニ達ス、此國第一ノ都會ナリ、是ヨリ以東江ノ川ヲ渡リ温泉津ヲ經大森銀山ノ傍ヲ過ギ三瓶山ヲ望ンデ出雲ニ入ル、概スルニ石見ハ數多ノ橫嶺國內ヲ横ギリテ平地甚ダ少ク、土地亦礫确ニシテ禾穀ニ適セザルヲ以テ甘藷ヲ栽培スルコト多シ、然レドモ南部山岳ノ地方ヨリハ鑛物ヲ産スルコト多シ。

出雲國簸川郡ニ入リテ神戸川ヲ渡レバ、今市ニ達ス、簸川郡ハ沃饒ナル

沖積地ニシテ穀產殊ニ多ク、今市ハ其本場タリ、蓋シ古昔夫道湖ハ杵築ノ

海ニ流入シ、北部ノ半島ハ嶋トナリ居タリシ者ガ、次第ニ沖積地ガ發達シ、今日

ノ如クナリシ者ナラント云フ、今市近傍ノ地中ヨリ船ヲ掘リ出シタルコトアリ、此ヨリ杵築町ニ達シテ出雲大社ニ參拜スベシ、官幣大社出雲大社ハ

トシテ今日ニ至レリ、其祭主ハ天穗日命ノ子孫ニシテ、今市ヨリ簸川ヲ渡リ

現時ノ東京府知事千家尊福男ノ如キモ其家系ナリ。今市ヨリ簸川ヲ渡リ

宍道湖ノ南岸ニ沿ヒ布志燒ヲ産スル湯町村等ヲ經テ東行スレバ松江

市ニ達ス、宍道湖ハ周回十一里餘、其東ハ逼リテ大橋川トナリ、中ノ海ニ

通ズ湖中魚類多ク、其鱈ハ殊ニ有名ニシテ支那松江ニ産スルモノト、其

形狀ヲ一ニスト云フ、松江ノ名モ此ニ基ク、鰻モ亦湖中ノ名産ナリ、

松江市ハ縣廳ノ所在地ニシテ、松平氏十八万六千石ノ舊城地、大橋川ノ兩岸ニ跨リ山

陰第一ノ都會トス、是ヨリ東部ハ尼子氏ノ舊城趾アル月山ヲ望ミテ米

子ニ達ス、隱岐ハ四大島ヨリ成リ、其島後ハ最モ大ニシテ島前ハ西島、中嶋、知夫里

嶋ノ三ヨリ成ル島後ノ西郷港ハ日本海中ノ良港ナリ、西嶋ニハ後醍醐天皇ノ黒木ノ御所ノ跡ヲ止メ、中島ニハ後鳥羽天皇ノ陵廟アリ、本島ノ鯛ハ殊ニ名産トス。

石州ノ銀、鐵、半紙及雲州ウルクツブルヒ十六島ノ海苔、蜜柑、人參、陶器ノ如キ共ニ名産トス。

十、括論

合セテ中國ト稱スレドモ、山陰ハ平地少ナク人口亦密ナラズ、山陽ハ上古ヨリ主要ナル街道ニ屬セシヲ以テ現時人口頗ル密ニシテ、山口廣嶋二縣ノ民ハ外國ニ出稼スル者少ナカラズ、住民ノ性質モ一般ニ敏捷伶俐ナレドモ、稍輕薄ニ流ルルノ傾アリト云フ、然レドモ名和長年、大石良雄、池田光政、頼山陽、吉田松陰ノ如キ皆炳トシテ史上ヲ照ラセリ。

第八章 四國附瀬戸海内

德島、香川、愛媛、高知ノ四縣アリテ各阿波讃岐、伊豫、土佐ノ一國ツツヲ管

ス。

一、地勢

瀬戸内海ノ南ニ踞マル本邦五大島ノ一ニシテ、東西長クシテ約七十里、北ハ豫讃灣南ハ土佐灣トナリテ陸地ニ入り、從テ南北狭キ處ハ十數里ニ過ギズ、豫讃灣ノ東西ハ讃岐高繩ノ兩半島トナリ、土佐灣ハ室戸蹠アシズノ兩岬是ヲ擁ス、全島形狀蝙蝠ノ翼ヲ擴ゲタル如ク、又不正ナル七邊形ヲナセリ、山脈ハ九州南部山脈ヨリ來リ、一旦沒シテ豊豫海峽トナリ、再ビ崛起シテ四國ノ脊梁トナリ、鬼ヶ城山ニ起リ、笹峯、雪光山、祖谷山、劍山尺七三九〇トナリ、蒲生田岬ニ至リ海ニ沒シ、以テ紀伊山系ニ連ナル讃岐山脈ハ四國山脈ヨリ分レ、別子山、雲邊寺山トナリ、鳴門海峽ニ至リテ低下シ、淡路ヲ經テ又紀伊ニ連ナル、火山脈ハ九州阿蘇山ト相連ナリ、四國山脈ノ北ニ當リテ高繩山、石槌山、飯野山ヲ起セリ、斯ノ如ク山脈連亘スルヲ以テ平地甚ダ少ナク、吉野川沿岸ノ平野ノ外ハ大概海岸ノ小平地ニ過ギズ。

一、海岸

七邊形ノ一角鳴門海峡ヨリ薄生田岬ニ至ル間ハ海岸大概平坦ナリ、蒲生田岬ハ紀伊ノ比井岬ト相距ルコト十一里、其以北ハ紀伊海峡ヲナス、是ヨリ室戸岬ニ至ル間ハ沿岸風景ニ富メリト雖モ、峭岸斷崖少ナカラズ、中部以南ハ殊ニ然リトス、阿波ノ吹ノ土佐甲浦ニ至ル間ニ、飛石ハネ石ゴロ々々石ト云フ所アリ、極メテ危険トス。室戸岬ハ海ニ斗出スルコト三里、岬角絶壁ニシテ亂礁多ク、遙カニ蹉跎岬ト相對シテ南海ノ望標タリ。此二岬ノ間ハ則土佐大灣ニシテ中部沿岸ハ高知ノ平野ヲナス、此灣ハ天武天皇ノ即位十三年ニ地震ノ爲メ陷落シテ成リシモノト云ヒ。蹉跎岬ヨリ佐田岬ニ至ル間ハ豊豫海峡ノ東岸ニシテ、幾多ノ島嶼ト共ニ出入窮リナク、良港モ亦少ナカラズ、佐田岬ハ斗出スルコト十三里、豊後ノ佐賀關ト相對シテ速吸海門ヲナス、是ヨリ東北高繩半島ノ極端大隅鼻ニ至ル迄沿岸稍平地アリ、大隅鼻ヨリ讚岐半島ノ西面三崎ニ至ル間平地狭ク峭岸多シ、是ヨリ以東ノ海岸ハ出入又甚シク、從テ港灣ニ富ミ、沿岸平野モ亦頗ル發達セリ。

三、河流

吉野川ハ全長三十七里四國第一ノ長流ニシテ四國三郎ノ稱アリ、源ヲ遠ク瓶ヶ森山ノ南麓ニ發シ、屈曲東流シテ阿波ニ入り、徳嶋ノ傍ニ至リテ海ニ入ル、舟楫遠ク伊豫ニ近キ山城谷ニ通ズベシ、其他四萬十川廿五里仁淀川、那賀川ヲ稍大ナリトス。

五、徳嶋縣

北ハ讚岐山脈ヲ以テ香川縣ニ境シ、西部ハ山脈次第ニ重疊シテ祖谷ノ山間トナリ、東方一帶ノ沿岸ト吉野川ノ沖積層地方トハ本縣重要ノ平地タリ。

徳島市人口六万二千、蜂須賀氏ノ舊城地ハ縣廳所在ノ地ニシテ、水陸ノ便ヲ兼有シ市ノ特産ニハ絨織アリ、フランネル織モ近年大ニ發達シ、其額前者ニ超ユルニ至ル、徳島鐵道ハ現時山崎迄十八哩間開通ス、撫養町一万八千ハ良港ヲ有シ、其邊齋田鹽ヲ産スルコト盛ンナリ、齋田ハ市内一部ノ名ナリ港ノ前面ニ在ルヲ大毛島トシ、其東北端ハ淡路ノ鳴戸崎ト對シ、相距ルヲ十五町餘、干潮ノ時ハ海水瀧ノ如ク落チテ渦狀ヲナシ、舟楫通ズベカラズ、所謂鳴戸

是ナリ、大毛嶋ニハ土佐泊アリテ古來土佐ヘノ驛路タリ、大毛嶋ノ北ニ
 嶋田山アリテ此島ト本陸トノ間ハ又小鳴戸ヲナス、吉野川ノ沿岸ヲ遡
 レバ商業地ナル脇町及漆器ノ産アル半田、烟草ヲ産スル池田等ノ諸邑
 ヲ經テ西スレバ伊豫ニ入ルベク、南スレバ土佐ニ入ルベシ、祖谷ノ山中
 ハ吉野川ノ支流祖谷川ノ上流ニ在リテ戸數九百許、風俗人情別世界ヲ
 ナシ、農樵等ノ業ニ従事ス、山中溪流ニ數多ノ蔓橋ヲ架シ、其善徳ニ在ル
 モノ最モ大ナリ、長サ三十三間幅四尺山中舊家中ニ平氏ノ遠裔今ニ存スト云フ、
 祖谷ノ東南劍山ニハ劔社アリテ安徳天皇ノ御劔ヲ祀ル、小松嶋二万ハ
 徳嶋ノ南ニ在リテ良港ヲ有シ、盛ンニ漁業ヲ營ム、
 藍ハ本縣最要ノ産物ニシテ殆ド五十萬貫ヲ産シ、全國總額ノ四分一ヲ
 占ム、其他烟草、砂糖及塩ノ産モ亦大ナリ、

五、香川縣

本縣前面海中ニ島嶼多ク、其小豆島ハ一郡、高松市三万四千
 ナナセドモ、島嶼ハ總テ後ニ脱クベシ 二万石ノハ縣廳所在ノ地ニシテ海運ノ便ヲ有シ、讚岐鐵道ハ是ヨリ多
 菴城地

度津ヲ經テ琴平ニ達ス、其栗林公園ハモト藩主ノ遊息所ニシテ風致ニ
 富メルコト本邦三公園ニ讓ラズト云フ、屋島山ハ市ノ東ニ屹立シ、山ノ
 南ニ安徳天皇内裏ノ趾アリ、五劔山ハ屋嶋ノ東ニ聳エ昔ハ五峰並ビ立
 チシガ、今ハ地震ノ爲メ一峯ヲ缺ケリ、是ヨリ東ハ志度ヲ經テ阿波ニ入
 ルベシ
 高松ノ西ノ白峯ニハ崇徳天皇ノ陵アリ、是ヨリ製鹽業ノ盛ナル阪出
 町二万ヲ經テ讚岐富士ノ稱アル飯野山一四五ヲ南ニ望ミ、丸龜二万ヲ
 過ギテ多度津ニ至ルベシ、此地ハ汽船往復ノ要港タリ、善通寺ハ其南ニ
 在リテ鐵道線路ニ當リ、丸龜ノ第十一師團司令部ハ此ニ設置セラレタ
 リ、善通寺ハ弘法大師 琴平神社ハ象頭山ノ半腹ニ在リテ參詣者ノ多キ
 コト、伊勢大廟ニ次ギ、社殿ハ甚ダ壯嚴ナリ、觀音寺町三万ハ國ノ西部ニ
 在リ、其海濱ハ風景ニ富メリ、

本縣ノ製糖業ハ著シキ度ニ達シ、全國中唯鹿兒嶋縣ノミ稍之ニ比スベ

ク、製鹽業モ亦山口縣ト比肩スベシ。

六、愛媛縣

松山 人口三万七千、久松氏十五萬石ノ舊城地

ハ國ノ西部ニ在リテ縣廳所在

ノ地タリ、西ハ三津濱、北ハ道後ノ温泉、南ハ郡中、横河原等ト伊豫鐵道ニ由テ連絡スルヲ以テ市況盛ンニシテ歩兵第十旅團ノ司令部此ニ在リ、綿木綿ハ市ノ產物タリ、三津濱ハ汽船絶エズ往來シ、特ニ安藝ノ宇品港ヘハ毎日往復ノ便アリ、三津濱ノ前面稍北ニ當リテ興居嶋アリ、形狀ノ似タルヨリ伊豫ノ小富士ノ稱アリ、道後ノ温泉ハ神代ヨリ有名ナルモノニシテ、泉質亞兒加里性ヲ具ヘ、一年間入浴スルモノ八十萬人ニ及ブト云フ。

いよのゆの湯桁の数は左八つ右は九つ中は十六 役小角 天武持統時代ノ人

松山ヨリ南シテ肱川を渡レハ大洲ニ至ル 加藤氏六萬石ノ舊城地、中江藤樹幼時此ニ居タルコトアリ

肱川河口ニ長濱港アリ、八幡濱ハ其地方貨物ノ出入スル所ナリ、宇和嶋 町人口一萬三千伊達政宗ノ長

良港トス、灣ノ西ニ日振嶋アリ、古昔藤原純友ノ據リシ所ナリ、今治 一萬五千人

ハ高繩半嶋ノ東北部ニ在リ、新居濱ハ豫讃灣ノ中部ニ在リ、共ニ舟泊ノ要港トス、新居濱ハ又製鹽業盛ンナリ。

石槌山、瓶ヶ森山等ハ共ニ土佐ノ境ニ跨ル高峯ニシテ、石槌山ノ絶頂ニハ

石土比古神ヲ祀ル、登路ハ甚ダ峻峻ニシテ三條ノ鐵鎖ヲ繫別子山ハ其ノ

東方ニ在リテ其北側ニハ立川、別子等ノ鑛區ヲ有ス、別子銅山ノ產出ハ

足尾ニ次ギ、本年度バ七百四十萬斤ノ見込ナリト云フ、市川鑛山モ其近

傍ニ在リテ安傾母尼ヲ產スルコト世界第一タリ。

本縣ニハ鑛物ノ外織物、木蠟、紙及伊絲簾等アリ、米麥ノ產ハ遙カニ百萬

石ヲ超エ甘藷モ亦少ナカラズ。

七、高知縣

高知市 三萬七千、山内氏廿四萬石ノ舊城地

ハ本縣唯一ノ都會ニシテ、本

縣ニハ他ニ又人口一萬以上ノ市邑ヲ有セズ、高知ヨリ外灣ニ至ル迄ニ里許ノ間海水深ク彎入シ中部一海峽ニ由リテ此灣ヲ兩分ス、北ナルハ

吸江ト云ヒ、南ナルヲ浦戸灣トス、高知ハ吸江ノ頭ニ在リテ鏡川市ノ南ヲ流レテ又此灣ニ入ル、舊城樓ノ成臨閣ハ眺望殊ニ宜シ、浦戸港ハ灣ノ咽喉ニ在リ、國比左村クニヒサ之國府ノ趾ニ居リキ、ハ市ノ東北ニ在リ、其近傍ニ物部川ヨリ疏通セル溝渠アリテ野中兼山ノ遺業ヨリ成レリ。

高知ヨリシテ道路ハ西北仁淀川ノ上流地方ニ遡リ、伊豫ノ松山ニ達スベク、東北吉野川ノ上流ヲ渡リ、伊豫ノ東境ニ出デテ阿波讚岐ニ達スベシ、更ニ西ノ方海岸ニ沿ヒ高岡、須崎、中村ヲ經、四萬十川ニ沿ウテ上リ、伊豫ノ宇和島ニ達スベシ、須崎ハ良港ヲ有シ、浦戸港ト汽船常ニ往復シ、其繁華高知ニ次グ、中村ハ渡川ノ東岸ニ在リテ河口ニ下田港ヲ有ス、中村ハ古昔一條氏ハク五クシ百餘年ノ治所ナリ、此邊ノ南海岸ニ龍串ノ寄景アリ。

本縣海産ニ富ミ、其鱈節ト珊瑚トハ從來名産ト稱セラル、鯖鯨モ亦少ナカラズ、土佐半紙ノ製造ハ益々盛大ニ赴キ紙類合計二百万圓ヲ超エ、本邦第一ニ位ス。

八、括論

本州ニ比スレバ地位稍偏スルガ如キモ畿内ニ近キト交通ノ至便トニ由リ域内早ク開ケ、從テ殖産事業モ亦發達シ、人口ノ密ナルコト東山道ノ比ニアラズ、殊ニ香川縣ノ如キハ一方里ニ六千有餘人ニシテ、其稠密ナルコト東京大阪ニ次グ、歷史上ノ人物ヲ舉グレバ讚岐ノ空海、伊豫ノ河野氏及土佐ノ野中兼山ノ如キ最モ忘ルベカラザル人ナリ。

九、瀬戸内海及其嶋嶼

本邦ノ地圖ヲ開キテ之ヲ見レバ、本州ノ西部ニ當リテ一ノ大ナル内海東西ニ長ク彎入シ、其内部ニ更ニ幾多ノ港灣及無數ノ島嶼散布シテ其形狀錯雜窮リナキヲ見シ、此ノ如キ地貌コソ是レ本邦發達ノ上ニ於テ其裨益實ニ大ナルモノアリシナレ、見ヨ、此内海ヲ取り圍ム所ノ海岸平地ハ史上ニ於テ概ネ夙ニ皇化ニ濕ヒシ形迹アルコトヲ、神祖ノ大和ニ入り給ヒシモ亦此内海ヲ利用セシニ由レリ、今其内海ノ境域、形勢、航路、風景、島嶼、産物等ニツキ畧記スベシ

抑瀬戸内海トハ、南ハ紀伊海峽及豊豫海峽ニ終リテ太平洋ニ連續シ、北ハ馬關海峽ニ由リテ僅カニ日本海ト相連ナレル一帯ノ海ヲ云フモノニシテ、此内海ハ地勢ニ由リテ更ニ之ヲ數區域ニ分ツコトヲ得ベシ、明石、鳴門ノ兩海峽ハ淡路島ト共ニ殆ド東部ヲ縱斷シ、其東部ハ由良海峽ニ由リテ更ニ紀伊海峽及大阪灣ノ二部ニ分タル、次ニ兒嶋半島ハ讃岐ノ尾崎岬角ト最モ相近ク、相距ルコト二里許ニ通ギズ、其東ノ海ハ播磨灘ヲ主トス、次ハ伊豫ノ高繩半島ノ北端ヨリ安藝ニ對スル海峽ニ由リテ分タレ、其東ニハ水嶋灘、備後灘、燧灘アリ、是ヨリ以西ハ瀬戸内海中最モ廣キ部分ニシテ伊豫灘、周防灘、豊豫海峽ハ各其一部ニ與ヘタル名稱ナリ。

本邦至ル所風景ニ富ムト雖モ、凡ソ此内海ヲ航スルヨリ美觀ナラザルモノハアラザルベシ、一島隠レテ一嶋顯ハレ、一峯去リテ一巒來ル、實ニ應接ニ暇アラズ、況ンヤ又沿岸ノ市邑港津ハ海上ヨリ是ヲ望ムニ、宛トシテ仙境ヲ觀ルガ如シ。

此内海ノ航路ハ縱横限リナク、白帆常ニ相望ムト雖モ、現時大阪ヨリ各地ニ至ル汽船ノ主要ナル航路ヲ舉グレバ、其馬關トノ間ハ兩地各毎日一回ノ出帆アリテ大阪ヨリ神戸ニ寄リ、四國ノ高松、多度津ヲ經、備後ノ鞆津、尾ノ道等山陽道ノ要港ヲ過ギ、門司ヲ經テ達ス、大阪ヨリ伊豫ノ宇和島ニ至ルモノハ、兩地各隔日ノ出帆ニテ多度津迄ハ前者ト同ジク、夫ヨリ今治、三津濱、長濱ヲ經、更ニ九州沿岸ニ寄港シテ達ス、其他大阪ト日向ノ細嶋間モ隔日ノ出帆ニシテ、大阪徳嶋間、玉島多度津間、宇品三津濱間ノ如キ、各毎日二回ノ航通アリ、其他紀伊沿岸ヲ經テ伊勢海熱田ニ達スルモノ、或ハ鹿兒島或ハ長崎或ハ日本海諸港ニ出ヅルモノ、或ハ沖繩、臺灣或ハ朝鮮ニ達スルモノ、更ニ遠ク橫濱ヨリ支那印度歐洲トノ往復モ、大抵安全ト便宜トノ爲メニ此内海ノ通路ニ由レリ、故ニ古昔交通不便ノ時ニ當リテハ此内海ハ歐洲ノ地中海ト相似タリ、更ニ此内海ガ本

邦軍備上ニ與フル利益ハ極メテ大ナルモノアリ、馬關海峽ハ敵艦ニ對シテハ到底通過スベカラザル關門トナリ、由良海峽ニ於ケル數個ノ砲臺、鳴門海峽、東岸ニ於ケル築造中ノ砲臺ハ又内海ノ門ヲ鎖セリ、而シテ速吸海門ハ唯數艘ノ軍艦ノ警備ヲ要スルノミ。

内海島嶼極メテ多ク、其稍大ナルモノ播磨ニ家島群島アリ、其西南ニ小豆島周回三アリテ、讃岐ノ小豆郡ヲナシ、良好ナル醬油ヲ産ス、島ノ南部ニ草加部灣アリ、聖上當テ御寄港アラセラレタリ、島内又風景ニ富ム、是ヨリ西ニハ備後ノ院島十伊豫ノ大三島十五大島十一安藝ノ大崎上嶋十二倉橋島廿五江田島能美島十五等アリ、嚴嶋ハ神社ヲ以テ名高く、周防ノ大島三十一郡ヲナシ、綿木綿ヲ産ス、瀬戸内海中淡路ニツギテ此嶋ヲ最大トス、各嶋共ニ居民甚ダ多シ。

此内海ヨリ直接ニ製産スルモノハ漁業ト製鹽トニ在リ、殊ニ製鹽ハ天氣晴朗ナルト氣候温暖ナルトニ由リ、本邦中特ニ此沿岸ニ適シ、從テ五

千餘町歩ノ鹽田ヨリ年々五百萬石ヲ製シ、其價格八百萬圓ニ達ス。

練習問題

- 一、中國ノ日本海方面ノ要港ヲ舉ゲヨ。二、中國全部ノ縣廳所在地ヲ陳ベヨ。
- 三、瀬戸内海沿岸ノ風景ニツキテ知レル所ヲ記述セヨ。
- 四、赤穂、舟坂、吉田、倉吉、音戸、瀬戸、萩、西郷、津、藤戸、村、吉備、津彦神社、大森、銀山ノ位置及其ノ他知レル事柄ヲ略記セヨ。
- 五、山陽道ト東海道ト異ナル點アラバ述ベヨ。六、四國ノ産物ヲ舉ゲヨ。
- 七、中國ノ河流五條及四國ノ河流三條ヲ舉ゲヨ。八、淡路ノ三方ニ於ケル海峽ヲイヘ。
- 九、瀬戸内海ニ於ケル各部ノ海ノ名ヲイヘ。
- 十、中國四國ニ於テ歷史上有名ナル人十人ヲ舉ゲヨ。

第九章 九州及ビ沖繩地方

此地方ハ筑前筑後肥前肥後豊前豊後日向大隅薩摩壹岐對馬ノ十一國ト琉球諸嶋トヲ含ミ、福岡佐賀長崎熊本大分宮崎鹿兒嶋及ビ沖繩ノ八縣ヲ置ケリ。

一、地勢 九州ハ所謂中彎ノ西端ニシテ本邦第三ノ大島ナリ、崑崙山脈本州ニ現ハレテ二個ノ山系ヲナス、一ハ肥前兩筑豊前地方ニ横ハリ

テ長豊海峡ニ没シ、中國山系ニ連ルモノニシテ、九州北部山系ト稱シ、國見岳、雷山、寶滿山、福智山等之ニ屬ス、一ハ南部ニ起リテ薩隅二國ノ境ニ盤峒シ、東北ニ亘リテ日向肥後ノ境ニ聳エ、臼杵佐賀、關ニ至リ、豊豫海峡ニ陥リテ四國山系ニ連ルモノニシテ、之ヲ九州南部山系ト云フ、其主ナルモノハ白髮山、市房山六千六百尺、祖母山五千六百尺、朝日岳等ニシテ、市房山ハ本州第一ノ高峯ナリ。

此外二個ノ火山帶アリ、一ハ霧島帶火山脈ニシテ、遠ク南洋ヨリ來リ、臺灣嶋ヲ經テ琉球諸嶋及ビ薩隅諸嶋ヲ隆起シ、薩摩ノ南端ヨリ九州ニ入リテ開聞岳薩摩宮土下稱 三〇六九尺、櫻嶋三九九尺ヲ起シ、日向ノ霧島山トナル、霧嶋山五五三〇尺ハ大活火山ニシテ東西二峰ニ分カレ、東峯ノ頂上ハ即チ高千穂峯ナリ、此ヨリ西北ニ向ヒテ島原半嶋ノ温泉岳四六八尺トナリ、多良岳ニ連ル、一ハ阿蘇帶火山脈ニシテ肥後ノ阿蘇山ニ起リ、由布岳豊後宮土鶴見 岳英彦山トナリ、東北國東半島ヨリ瀬戸内海ニ没シテ四國ノ火山脈ニ

連ル

筑前豊前ノ平原ハ南ニ北部山系及ビ阿蘇火山脈ヲ負ヒテ北方ニ傾斜シ、南部山系ハ南部ノ分水界ヲナシテ東西兩斜面ヲ別テリ。

一、海岸

瀬戸内海ヨリ長豊海峡ヲ出レバ響灘ニシテ、若松蘆屋ノ兩港アリ、其西ハ玄海灘ニシテ風波荒ク船客ヲ艱マシ、志賀半嶋遠ク海中ニ突出シテ博多灣ヲ包ム、此ヨリ東航シテ肥前ノ海岸ヲ廻レバ、半島灣ノ夥シキ全國無比トス、東松浦半嶋ハ北ニ突出シテ壹岐嶋ト壹岐海峡ヲ狹ミ、東ハ唐津灣ニシテ、西ハ西松浦半嶋ト伊萬里灣ヲ擁ス、西松浦半嶋ハ西、平戸嶋ニ對シ、南ハ彼杵半島突出シテ大村灣ヲナス、灣口ニ佐世保軍港アリ、大村灣ヲ出ヅレバ西方海上ニ五嶋、列嶋中通、福江、宇久、奈留、久賀アリ、南ニ野母崎斗出シテ長崎港其間ニアリ、野母崎ノ東ニ島原半嶋アリ、南、天草島ニ對シ、肥後筑後ト一大灣ヲ抱ク、之ヲ有明洋又ハ筑紫灣ト云フ、灣内宇土半嶋ノ西端ニ三角港アリ、天草諸嶋ノ東ハ八代灣ニシテ、西

ハ天草灘ナリ、天際一碧波高ク、轉山陽ノ遊ヲ想起セシム。

雲耶山耶吳耶越 水天髣髴青一髮 萬里泊舟天草洋

烟横蓬窓日漸沒 瞥見大魚波間跳 大白當船明似月

此ヨリ南薩摩ノ海岸ハ屈曲少ナク、西ニ旣諸島上中下ノ三アリ、薩摩半島ト大隅半島トノ間ハ鹿兒嶋灣ニシテ、其内ニ櫻島アリ、開聞岬佐多岬相對シテ其灣口ヲナセリ、佐多岬ノ東北、日隅ノ境ニ志布志灣アリ、此ヨリ、北方日向ノ海岸ハ殆ンド眞直ニシテ、其海上ヲ日向灘ト云フ、豊後ノ海岸ニ至レバ出入稍多ク、四國ノ伊豫ト相對スル所ヲ豊豫海峽ト云フ、鶴見岬地藏岬斗出シテ其間ニ臼杵佐伯ノ兩港アリ、地藏岬ハ佐田岬ト相對シ、北ニ國東半島アリテ大分灣ヲ擁セリ、國東半島ヲ廻レバ沿岸屈曲ナク、遙ニ中國ニ對シテ周防灘ヲ狹メリ。

三、河流 筑前ノ平原ハ土地肥沃ニシテ米穀豐熟シ、遠賀川其東部ニ北流シテ響灘ニ注ク、此川ノ流域ハ筑豊炭田ニシテ石炭ノ産額本邦第

一トス、豊前ノ山國川驛館川亦北流シテ灌溉ノ利多シ、南部山系ノ西北ニ筑紫平原アリ、肥後筑後ニ亘ル大廣地ニシテ、筑後川菊池川白川緑川球麻川等之ヲ灌流シ、嘉穀ノ大生産地ナリ、筑後川三五ハ千年川又ハ筑紫次郎ト稱スル九州第一ノ大河ニシテ、球麻川ハ本邦三急流ノ一ナリ、薩摩ノ川内川ハ源ヲ日向ノ山中ニ發シ、西流シテ海ニ入ル、九州第一ノ長流ニシテ長四十六里、其灌域農産ニ富メリ、南部山系ノ東斜面ニ在ル大淀川美々津川五箇瀬川等ハ、皆東流シテ日向灘ニ注ギ、大分川大野川ハ大分灣ニ注グ。

四、福岡縣 筑前筑後全部及ビ豊前六郡ヲ管ス。

九州ノ東北端ニ門司市五二アリ長豊海峽ヲ隔テ赤間關市ト相對シ、其間僅カニ五六町、砲臺ヲ設ク、港内水深ク、後ニ山ヲ負ヒ、汽船ノ瀬戸内海ニ出入スルモノ必ズ此所ニ寄港シ、帆檣常ニ林立ス、貿易港ノ一ナリ、數年前迄ハ寂タル僻地ナリシガ九州鐵道布設以來頓ニ繁盛ニ赴ケリ、

門司ヨリ汽車ニ乗ジテ西南ニ向ヘバ小倉市小笠原氏ノ舊城地アリ、西
 部都督及ビ第十二師團司令部ノ在ル所ニシテ小倉織ノ産世ニ著ハル、
 小倉ヨリ鐵路西行スレバ蒼茫タル玄界灘ヲ北ニ控ヘ、若松蘆屋ノ兩港
 ヲ望ミ、香椎箱崎ヲ過ギテ福岡市ニ至ル、若松ハ石炭輸出ノ要港ニシテ
 日ニ隆盛ニ赴キ、九州鐵道ノ支線ハ此地ヨリ南向シテ本線ト交ハリ、筑
 豊ノ炭田ニ達セリ、蘆屋ハ遠賀川ノ河口ニ位シ、古ノ岡港神武天皇東征ノ
途申寄港シ給ヒ
 所ナリ、香椎ニ香椎宮アリ、官幣大社ニシテ神功皇后ヲ祀ル、箱崎ニハ應
 神天皇ノ靈ヲ祀レル箱崎宮アリ、敵國降伏ノ勅額ヲ掲グ、近年此近傍ニ
 元寇記念碑設立ノ企アリ、香椎箱崎一帯ノ沿岸ハ古來名勝ノ地ニシテ
 白砂青松相映シ風光絶佳ナリ。
 福岡市福岡博多ヲ合併シタルモノナリ、黒田氏五十二
萬石ノ舊城地ニシテ人口六万六千ヲ有セリハ博多灣ニ臨ミ、福
 岡縣廳ノ在ル所ナリ、博多ハ昔時外交ノ要津タリシ所ニシテ博多織ヲ
 産シ、貿易港ノ一ナリ、市ノ東南ニ太宰府廳ノ舊跡アリ、菅原道真ヲ祀レ

ル太宰府神社及ビ水城ノ古城跡其近傍ニ在リ。
 福岡ヨリ鐵路南行スレバ久留米市有馬氏ノ舊城地
人口二万九千ニ至ル、筑後ノ名邑
 ニシテ筑後川ノ沿岸ニ位シ、久留米總ヲ産ス、筑後川口ニ大川アリ、其東
 南ニ柳河アリ、共ニ名邑ナリ、柳河ノ東南ニ三池炭田アリ、三池炭坑ノ名
 世ニ高ク、大牟田町九万ハ石炭積出ノ要港ニシテ市況大ニ發達シ、鐵道
 久留米ニ通ズ。
 本縣所屬ノ平原ハ頗ル肥沃ニシテ種々ノ穀類ヲ生ジ、米ハ最モ良質ニ
 シテ其額百餘萬石ニ達シ、烟草、麥、藍等亦重ナル農産物ナリ、礦物ハ石炭
 ノ産殊ニ夥シク其額三百餘萬噸、代價千四百萬圓ニ達シ、本邦全産額ノ
 大部ヲ占ム、製造品ハ博多織、小倉織、久留米總等普ク世ニ知ラレ、生蠟、紙、
 油等亦著名ナリ。

五、佐賀縣

肥前ノ内一市八郡ヲ管ス。

九州鐵道ハ久留米ノ北ナル鳥栖ヨリ分レテ西向シ、佐賀市、有田ヲ經テ

長崎縣ノ佐世保長崎三通ゼリ。

佐賀市 三万二千七百、鍋島氏 三十五万石ノ舊城地ハ筑紫平原ノ西部ニ位シ、東西交通ノ要路ニシテ佐賀縣廳ノ所在地ナリ、有田ハ磁器ノ產地ニシテ有田燒ノ名世ニ著ハル、北方ノ伊萬里ハ磁器積出ノ要港 故ニ又伊萬里ニシテ、其間伊萬里鐵道ヲ布設セリ、伊萬里ノ東北松浦河口ニ唐津アリ貿易港ノ一ニシテ、唐津燒ノ名産アリ、近傍良質ノ石炭ヲ採掘ス、唐津ノ西北、松浦半島ニ名護屋城趾アリ、秀吉征韓ノ時ニ陣營ヲ設ケシ所ナリ。 縣下西北地方ニハ良質ノ石炭多シ、陶業亦盛ニシテ、有田燒、唐津燒等ヲ出シ、又生蠟、茶、鹽等ヲ産ス。

六、長崎縣

肥前ノ内一市六郡ト壹岐對馬トヲ管ス

長崎市ハ長崎縣廳ノ在ル所ニシテ控訴院アリ、第五高等學校ノ醫學部アリ、此地三面丘陵ヲ負ヒ、西方一帶ノ海水ヲ擁シ、港内水深ク大船巨艦ヲ容ルベシ、寛永年間此港ヲ開キシヨリ殆ンド三百年、西洋文物ノ輸入

ハ實ニ此地ニ始マレリト謂フベシ。

此地ハ貿易港ノ一ニシテ、商業盛ニ行ハレ、石炭、鰯、米、樟腦、椎茸等ハ重ナル輸出品ニテ、石油、砂糖、生牛皮、線綿、油糟等ハ輸入品ノ重ナル者ナリ、輸出入ノ合計二千七百万圓ニ達ス、市内唐木細工、鼈甲細工ヲ産シ、長崎、烟草ノ名世ニ高シ、長崎港ヲ出ヅレバ西南海上ニ高島、中島アリ、共ニ良好ナル石炭ノ産出地ナリ、島原半島ハ長崎ノ東ニ連リ、東岸ニ島原ノ舊城市アリ、繁華ノ都邑ナリ、温泉岳其西ニ聳エ、數多ノ温泉アリ、口ノ津ハ半嶋ノ西南ニ在リ、貿易港ノ一ニシテ多ク石炭ヲ輸出ス、長崎ヨリ西北行スレバ鐵路佐世保ニ達スベシ、佐世保ハ第三海軍區鎮守府ノ在ル所ニシテ、灣内水深ク堅牢ナル船渠ヲ有セリ、佐世保ノ西北ニ當リテ平戸嶋アリ、嶋内ノ平戸港ハ始メテ和蘭ト互市ヲ開キシ處ナリ、此嶋ノ西南ニ五島列嶋アリ、近海漁利ニ富ミ、五嶋鯨、五嶋鰯ノ名著ハル、福江、富江ハ其名邑ナリ、平戸ヨリ北航スレバ壹岐島アリ、嶋内ニ郷浦、勝本等ノ港アリ、

北海岸ハ巖穴多ク、鬼ノ岩屋ト稱ス。勝本ヨリ西北ニ向ヒテ對馬海峽ヲ渡レバ對馬島ニ達ス。對馬ハ宗氏ノ舊領地ニシテ、壹岐嶋ト共ニ屢々外寇ノ難ヲ蒙リシ所ナリ。嚴原ニハ嶋司廳及ビ警備隊ヲ置キ、竹敷港ニハ砲臺ヲ設ケタリ。佐須奈、鹿見モ嶋内ノ名邑ニシテ嚴原ト共ニ貿易港ナリ。

縣下產物ノ重ナルモノハ鰯、鯨、鰯等ノ海產物ニシテ、砂糖及ビ七嶋表ハ多ク島原半島ノ近傍ニ産シ、甘藷ハ對馬及ビ五島列嶋ニ生ズ。

七、熊本縣

肥後全部ヲ管ス。

熊本市 細川氏五十四万石ノ舊城地 ハ九州ノ中央ニ位スル大都會ナリ。熊本縣廳所在ノ地ニシテ、第五高等學校ヲ設置セリ。市街ハ白川ニ臨ミ、九州鐵道ニヨリテ、北ハ福岡ニ通ジ、南ハ八代ニ達シ、市況繁盛ニシテ百貨輻輳ス。熊本城ハ市ノ中央ニ在リテ宏壯堅固ナルヲ以テ知ラル。現時第六師團司令部アリテ西海ノ要鎮タリ。此城ハ慶長年中加藤清正ノ建

築セシモノニシテ、西南ノ役ニ久シク包圍セラレ、樓櫓燒失セリ。

守城者誰谷少將築城者是當年鬼將軍

五岳

市ノ北方田原坂ノ戰趾 西南ノ役最モ激戰ノ地ナリ ヲ過ギ菊池川ニ沿ヒテ東行スレバ隈府ニ至ル。往時菊池氏ノ據リシ所ニシテ菊池神社アリ。熊本ノ西南ニ當ル三角港ハ宇土半島ニ在リテ貿易港ノ一ナリ。八代 一千万 ハ九州鐵道ノ南端ニシテ球麻川其南ヲ流レ市況繁華ナリ。球麻川ノ上流ニ人吉アリ。其河口ノ西方海中ニ天草群嶋アリテ、上島、下島最モ大ナリ。本縣ノ東南ハ山岳重疊スレドモ、西北部ハ筑紫大平原ニ屬シ、農產物ニ富ム。米ハ七十餘万石ヲ産シ、肥後米ト稱シテ其名高ク、粟ハ卅餘萬石ニシテ其產額本邦ニ冠タリ。天草嶋ニハ甘蔗、甘藷及ビ無煙炭ヲ産ス。

八、大分縣

豊前ノ内二郡ト豊後全部トヲ管ス。

九州鐵道ノ支線小倉ヨリ分岐シテ東南行シ豊州鐵道 豊前行橋ニテ接續ス トナリテ本縣ニ入り、中津ヲ經テ宇佐ニ終ル。中津 五千万 ハ本縣ノ北部ニ在リ

テ山國川ノ下流ニ臨メル名邑ナリ、山國川ノ上流ハ即チ耶馬溪ニシテ怪岩鬱樹ノ雄威壯觀ナル、實ニ天然名勝ノ區ト謂フベシ。

日車紅閃曉風回、樹々晴烟次第開。青壓馬頭驚欲倒、萬峰飛舞自天來。

星巖

中津ヨリ汽車ニ乗ジテ東南行スレバ驛館川ヲ渡リ宇佐ニ至ル、宇佐神社ハ和氣清麿ノ事蹟ヲ以テ史上ニ有名ナリ、宇佐ヨリ陸路東南行シテ國東半島ノ頸部ヲ過グレバ、大分灣ニ臨ンデ別府アリ、由布嶽其西ニ峙チ有名ナル温泉アリ、コレヨリ大分灣ニ沿ヒテ東行スレバ大分町ニ至ル、大分町松平氏ノ舊城地ニシテ往昔大友氏ノ據リシ所ナリ、人口一万三千アリハ大分縣廳ノ在ル所ニシテ大分川其東南ヲ繞リ、航行ノ便アリ、釜鍋及ビ檜物細工ヲ産ス、大分ノ東南豐豫海峽ニ臨ムデ佐賀、關、臼杵及ビ佐伯等ノ諸港アリ、皆縣下ノ名邑ニシテ船舶常ニ出入セリ。

産物ハ鹽表七ヲ主トシ、鑄物、紙、豐後絞等アリ、其他大豆、煙草、甘蔗等ヲ産ス、豐後ノ海岸ハ九十九浦ト稱シ、漁業盛ニシテ、干鳥賊、海參等多ク、製鹽業亦盛ニ行ハル。

九、宮崎縣

日向國全部ヲ管ス

日向ノ地勢タル三面殆ンド南部山系ニ包マレ、餘脈國內ニ起伏シ、諸川皆東流シテ日向灘ニ注グ、平地ハ諸川ノ河谷ト海岸トニ在ルノミ、且ツ海岸屈曲少ナク良港ニ乏シ、故ニ交通甚ダ不便ニシテ諸般事業ノ發達古來著シカラズ、人口亦甚ダ少ナシ、大分ヨリ南行スレバ本縣ノ域ニ入リテ延岡アリ、五箇瀬川ニ跨リ縣下ノ名邑ナリ、五箇瀬川ノ上流ニ高千穂村アリ、太古天孫降下ノ靈地トシテ世ニ著ハル、延岡ノ南ニ細嶋港アリ、更ニ海岸ニ沿ヒテ南行シ、美々津川、高鍋川及ビ一ノ瀬川ヲ渡レバ宮崎ニ至ル、宮崎縣廳アリテ大淀川ノ下流ニ跨ル、市況甚ダ盛ナラズト雖モ、地方貨物ノ集散地ナリ、其南方ニ飢肥、油津アリ、油津港ハ細嶋ト共ニ航行ノ便アリ、大淀川ノ上流大隅トノ境ニ霧嶋山アリ、山ノ東南ニ在ル

宮九村ハ高千穂ノ宮趾ナリト稱ス都城三千万 其近傍ニアリテ大淀川ノ上流ニ臨ム宮崎ヨリ大隅ニ通ズル要路ニシテ其繁華ナルト縣下第一トス茶業盛ニ行ハル

縣下山林ニ富ミ材木樟腦日向炭椎茸等ヲ出ス其他綿糸日向半紙茶等ヲ産シ良馬ヲ出ス亦少ナカラズ

十、鹿兒嶋縣 大隅薩摩ノ全部ヲ管ス

鹿兒嶋市島津氏七十五万石ノ蓄城市ハ鹿兒嶋灣ノ西北ニ臨メル九州南部ノ大都會ニシテ鹿兒嶋縣廳ノ所在地ナリ甲突川其西南ヲ流レ櫻嶋前ニ當リテ御嶽高ク嶋中ニ聳ユ市況盛ニシテ神戸ニ定期ノ航行アリ飛白烟草等ヲ名産トス市ノ後ニアル城山ハ西郷隆盛戰死ノ地ナリ淨光明寺ニ其墳墓アリ鹿兒嶋ヨリ西北ニ向ヘバ熊本街道アリ八代熊本ニ通ズ途中ニ芹野金山アリ川内川ヲ渡レバ大平寺趾秀吉四征ノ時ニ本營ヲ置キシ所ナリアリ阿久根六千万出水等ノ名邑アリ阿久根ハ燒酎ヲ産シ出水ハ烟草ヲ産ス鹿

兒嶋ノ南ニ谷山ト稱スル錫山アリ谷山ヨリ海岸ヲ南行スレバ指宿万六千ヲ過ギテ山川アリ昔時琉球船ノ渡來セシ所ナリ開聞嶽其西ニ聳ユ嶽ノ北麓ヲ西行スレバ坊津ニ至ル坊津ハ琉球ヘ航スル要港ナリ往時唐船ノ碇泊所ニシテ歐船亦嘗テ來泊セシコトアリ有名ナル鹿籠金坑其近傍ニアリ竹嶋硫黃嶋黑嶋等ハ遙ニ南方海中ニアリ鹿兒嶋灣ノ北部ヲ東ニ廻レバ加治木六千万福山等アリテ日向ノ都城ニ通ゼリ國分ハ加治木ノ東北ニ在リテ烟草ノ產地ナリ

薩隅諸嶋ハ大隅ノ南方海上ニ在リ之ヲ大別シテ種々子嶋屋久島寶七島口ノ嶋中ノ嶋臥蛇嶋平嶋取訪瀬嶋惡石嶋寶島等ニシテ硫黃竹黒ノ三嶋ヲ合セテ川邊十島ト云フ及ビ大島諸島大嶋喜界嶋徳嶋沖嶋永良部嶋與論嶋等トス皆火山質ニシテ硫黃ヲ産ス種子嶋ハ最モ大ナルモノニシテ天文年間葡人ノ鐵砲ヲ傳ヘシ所ナリ屋久島ニ一湊港アリ寶七島ノ海上ハ航行危險ニシテ七嶋灘ト稱ス大嶋ハ大島諸島中ノ最大ナルモノニシテ島内ニ名瀬港アリ嶋司廳ノ在ル所ニシテ碇泊ノ要港ナリ

喜界嶋ハ平康頼僧俊寛ノ配流ノ地ナルヲ以テ世ニ知ラル。

薩摩瀨沖の小島ヨ我はありとおやには告げよ八重ノ汐風 (康頼)

薩摩緇薩摩上布、薩摩燒國分烟草、櫻嶋大根等ハ有名ノ產物ニシテ、芹野

鹿籠ノ金礦亦名アリ、砂糖。(其額三百万貫ニ居ル)甘蔗(一億二千万貫ニ居ル)

壘表七島等ヲ産ス

十一、沖繩縣

琉球列島全部ヲ管ス。明治十二年置縣

琉球列嶋ハ沖繩群嶋先嶋群嶋ノ二群ニ分レ、大小ノ嶋嶼五十有餘ヲ含

メリ、諸嶋皆山多ク水利ノ便少ナシ、氣候ハ全ク島嶼的ニシテ寒暑ノ差

少ナシ、沖繩群嶋ノ主ナルモノヲ沖繩島トス、周回百餘里嶋内ヲ國頭、中

頭、嶋尻ノ三部ニ分ツ、那覇ハ嶋尻ニ在リ、琉球第一ノ都會ニシテ沖繩縣

廳師範學校等アリ、市況盛ニシテ貿易港ノ一ナルドモ、灣内水淺クシテ

大船ヲ泊スルニ足ラズ、首里ハ其東ニ在リ、舊時琉球王ノ都セシ處ニシ

テ縣下第二ノ都會ナリ、運天港ハ國頭ニ在リテ本列嶋第一ノ良港ナリ、

先島群嶋ハ宮古八重山ノ兩諸嶋ニ分ル、宮古諸島中ノ主ナルモノハ宮

古島ニシテ、石垣嶋、入表島ハ八重山諸嶋中ノ主ナルモノナリ、

米穀ハ平地少ナキト水利ニ乏シキトヲ以テ多ク生ゼズト雖モ、甘蔗ハ

産額殊ニ夥シク、列島第一ノ產物ニシテ砂糖ノ製造盛ナリ、又甘蔗ヲ産

シ内地各所ニ繁殖セル甘蔗ハ此地ヨリ移植セシモノナリ、其他藍、緋、上

布、芭蕉布、泡盛、漆器等アリ、普ク世ニ知ラル。

十二、括論

九州ノ地タル氣候温和ニシテ山水秀麗、原野ハ嘉穀ヲ

生ジテ多ク有用ノ礦材ヲ藏シ、森林丘陵到ル處ニ鬱蒼トシテ水産亦敢

テ類ヲ他ニ讓ラズ、人民其土ニ安ンシテ都華ノ風ニ遠カリ、疎野朴直ニ

シテ體軀強健ナリ、古來外交ノ衝ニ當リテ大ニ國威ヲ宣揚シ、廣ク世界

ノ文物ヲ輸入シテ邦家隆盛ノ基ヲ開ケリ、本島ノ皇國ニ貢獻スル豈ニ

少小ナリト云フベケンヤ、蓋シ太古皇祖發祥ノ處、遺光萬世ヲ照シテ然

ルモノカ、近世ノ人物ニハ維新ノ業ニ與カリカアル者肥ノ鍋嶋閑叟薩

ノ島津齊彬、大久保利通、西郷隆盛等アリ、文學者トシテハ、筑前ニ貝原益軒、豊後ニ廣瀬淡窓等アリ、琉球ノ地ハ其脈九州ニ連レリト雖モ、海上遠隔ノ處ニ在ルヲ以テ、自ラ習俗ヲ異ニセリ、置縣以來内地ノ事業文物ヲ注入セルモ、琉球語尙民間ニ行ハレ、男女結髪ノ風ヲ改メズ、然レドモ俗ニ從ヒテ之ヲ化スルハ、明主ノ功漸浸ノ法必ズ東漸ノ制ニ優ルモノアラン。

練習問題

- 一、九州沿海ノ港灣ヲ問フ。
- 二、九州ノ分水界及ヒ各斜面ニ注射スル重ナル河流ヲ記セ。
- 三、九州ノ火山脈及ヒ各所屬ノ火山ヲ記セ。
- 四、九州鐵道ニ沿ヘル著名ノ都邑ヲ問フ。
- 五、九州ノ氣候及ヒ物産ヲ問フ。
- 六、九州ノ軍備ヲ問フ。
- 七、九州人士ノ性質及ヒ近世有名ノ人物ヲ問フ。
- 八、琉球列島ヲ區分セヨ。
- 九、薩隅諸島ノ重ナルモノヲ舉ケヨ。
- 十、琉球列島ノ物産ヲ問フ。

第十章 北海道

本道ニハ十一國ヲ容レ、其内千島ヲ除キ主嶋ヲ稱シテ或ハ十州嶋、北州嶋ノ稱アリ、此十一國ハ一道廳及ビ十八支廳ヲ以テ是ヲ分轄ス。

一、地勢

本島ノ形狀ハ鳥ノ翔ルニ似タリ、渡嶋ハ其頭ニ當リ、後志、膽振ハ其頭ニ當リ、石狩ハ其脊ヲナシ、日高十勝ハ一翼ヲナシテ南ニ延ビ、天塩北見ハ他ノ翼ヲナシテ北ニ開キ、釧路ハ臀トナリ、根室ハ股トナリ、其尾ハ斷續スレドモ千嶋列嶋ニ當レリ、而シテ此飛鳥形ノ大嶋モ地位餘リニ邊僻ニ在リシヲ以テ長ク本邦主要ノ部分トナラズシテ空シク翔ルコト數千年ニ及ビ明治以降漸ク駭々トシテ開拓ノ運ニ向ヘリ。

二、海岸

地形以上ノ如シト雖モ、海岸屈曲甚ダ多シト云フヲ得ズ、渡島ハ津輕海峽ヲ隔テテ陸奥ト相對シ、北見ノ北端ハ宗谷海峽ヲ隔テテ樺太ト相對ス、此兩海峽ノ間ニ在ル本嶋ノ西面ハ總テ日本海ニ面シ、其石狩灣以南ハ岬角參差トシテ沿岸絶壁ヲナスモノ多シ、宗谷海峽ヨリ東端知床岬ニ至ル間ハ、北見ノ海岸ヲナシテオコソク海ニ面シ、概ネ平坦ノ砂濱タリ、根室ハ國後嶋ト根室海峽ヲ挾ミ、中部以南ハ根室灣ヲナス、灣ノ東ニ盡クル所ハ則チ納沙布岬トス、岬端ハ遙カニ北米晚香坡ヲ

指セリ、是ヨリ沿岸西南ニ延キ、日高ノ襟裳岬ニ至リテ窮マリ、更ニ屈折
轉廻シテ遂ニ噴火灣ヲナシ、延ビテ渡島ノ惠山岬ニ至リテ盡ク、此ノ納
沙布岬ヨリ惠山岬ニ至ルノ間ハ總テ太平洋ニ面シ、沿岸概ネ平衍ニシ
テ沃饒ナル原野ニ富メリ。

三、山岳 樺太山系ハ北端宗谷岬ヨリ起リテ襟裳岬ノ間ニ綿亘セリ
其北見ノ西南一帯ノ國境ニ於テハ東北山脈ノ稱ヲ得、宗谷嶽、天塩嶽此
間ニ峙チ、中途一派ヲ西南ニ分チテ増毛山脈ノ稱アリ、東北山脈以南石
狩日高ノ東北國境ニ於テハ日高山脈ノ稱ヲ得、其間ニ芽室山、ビバイロ
岳、神威岳 共ニ二千米
突以下ナリ 等アリ、千島帶火山脈ハカムシヤツカヨリ來リ、千
島列島ヲ噴起シ、本島ノ知床岬ヨリ西南ニ向ヒ、石狩十勝ノ國境ニ於テ
樺太山系ト交叉シ、從テ地盤ノ隆起特ニ甚シク、本嶋山岳ノ中心點トナ
リ、本道ノ最高峯ヌタツブカウシユベ山 九千九百
九十六尺 及ビ石狩岳オブタテシケ
山等ヲ噴起シ、少ラク石狩低原ニ落チシト、雖モ再ビ立チテ本嶋西部ノ

火山脈ヲナシ、後志山彙トナリテマツカリヌプリ山 即ハチ後志山、高
サ六千五百尺 等ヲ
起シ、渡嶋ニ入リテ渡島山脈、千軒山脈トナリ、以テ其兩端ニ終レリ。

三、原野、河流 石狩平原ハ本道中ニ於テ最モ主要ナル原野タリ、南
北三十餘里東西廣キ處十數里ニ至リ、其間四望濶然トシテ又一ノ丘陵
ヲ見ズ、數十ノ沼澤散在スレドモ地質概テ沃饒ニシテ無限ノ天産ヲ包
藏ス、石狩川其間ヲ廻流シ、淼茫トシテ海ノ如ク、全長九十六里 或ハ曰ク
百六十七
里或ハ曰ク百
三十五里ト 河口ハ三百五十間ノ幅トナリテ日本海ニ入ル、舟筏ノ通
ズルコト凡ソ六十里 本邦第一ノ長流ナルヤ
否ヤハ未定ノ中ニ在リ 十勝平原ハ本道ノ南東方面
ニ在リテ廣袤各々二十餘里ニ亘リ、灌溉ノ利漕運ノ便ヲ享有シ、地味亦
肥沃ナリ、十勝川此間ヲ貫流シ、流域五十三里ニ至ル、其他根室、釧路ノ平
野モ海岸ハ大概卑濕ノ蘆原ナリト雖モ、其他諸水ノ上流地方ニハ耕耘
牧畜ニ適スル地少ナカラズ、而シテ天塩川全長七十四里其沿岸膏腴ノ
地モ今猶森林莽々トシテ白日徒ラニ熊鹿ノ奔ルニ任スノミ。

四、石狩國

本道ハ十一ヶ國ニ分ツト雖モ現時道廳ヲ石狩ノ札幌市ニ置キ更ニ十八支廳ヲ各國ニ分置シテ以テ全道ヲ管治セリ故ニ先ヅ石狩國ヨリ講述スベシ石狩ハ西一面海ニ臨ミ北ハ増毛山脈ニ由テ天塩ニ界シ東ヨリ南ハ東北山脈ノ南部千嶋火山脈及日高山脈ニ由テ圍繞セラレ其中南方膽振ニ通ズル所ハ山勢低落シテ稍平坦ナルノミ、從テ國內山地多シト雖モ石狩川及ビ其支流ノ灌域ハ茫茫タル廣野ヲナシ其面積殆ンド國ノ三分ノ一ニ及ビ以テ本道ノ中心地ヲナセリ。札幌ハ此平野ノ西南ニ位シ道廳所在ノ地ニシテ現時人口三万八千ヲ有シ市街井然トシテ景象雄大ナルコト本州ニ於テ其比ヲ見ルコト稀レナリ本道ハ明治ノ新開地ナルヲ以テ此地モ亦三十年前迄ハ密林鬱々トシテ徒ラニ野獸ノ巢窟ナリシガ明治二年初メテ開拓使廳ヲ置キ同四年市街ノ區劃ヲナシテヨリ日ヲ逐ウテ益々繁盛ノ運ニ向ヒ以テ今日ノ狀況ヲ呈スルニ至レリ第七師團司令部及ビ農學校等ノ設アリ

テ其他製麻製糖製粉及麥酒製造等ノ會社アリ市ノ周圍ハ概ネ肥沃ノ既墾地ニシテ田園能ク整頓シ殊ニ盛ニ林檎ヲ産ス豊平川市ノ一部ヲ貫通シ對雁^{ツインカワ}ニ至リ石狩川ニ合ス下流ハ灌溉ノ便ヲ與へ上流ニハ常山溪ノ温泉アリ。

鐵道ハ札幌ヨリ西ハ後志ノ小樽ニ通ジ東ハ岩見澤ニ至リ折レテ膽振ニ入り室蘭ニ達ス岩見澤ヨリ支線ハ幌內幾春別ニ至ルモノ及ビ砂川ヲ經テ歌志内或ハ旭川ニ至ルモノアリ旭川ヨリ更ニ分レテ一方ハ天塩ニ通ズルモノアリテ現時殆ンド其國境ニ及ビ一方ハ十勝ニ通ズルモノニシテ上富良町ニ達セリ。

岩見澤ハ四通八達ノ衝ニ當リ附近ノ村落ニ對シテ中央市場ノ觀アリ其東ノ幌內幾春別及ビ夕張炭山ハ共ニ有名ナリ石狩川ニ浴ウテ北ニ進メバ空知^{ソウチ}太^{チノ}ニ至ル石狩雨龍兩平野ノ境界ニ位シ物貨輻輳シ他日一大市場タルベキ地ナリ其東方空知川ノ沿岸ニハ農場遠ク連ナル^{クタン}歌志

内炭山モ近傍ニ在リ、雨龍太ハ石狩雨龍兩河ノ會合スル所ニ在リテ、コレヨリ以上雨龍川ノ沿岸ハ未ダ多ク開拓ノ運ニ至ラズ、石狩川ヲ東ニ迦リカマカ神居古潭ニ至レバ、兩岸窄クテシテ千仞ノ壁ヲナシ、以テ上川平野ヲ限レリ、コノ平野ノ中央ニ在ルモノヲ旭川ノ市街トス、支廳ノ所在地ニシテ東南ニヌタツブカウシユベヲ望ミ、地廣ク土肥エタリ、創立後未ダ十五年ニ過ギズト雖モ既ニ勃然トシテ發達ノ運ニ向ヘリ。

本道中此國最モ既墾ノ地多ク、年々移住民ノ數モ亦最多トス、屯田兵約五千許、各村ニ分住シ舊土人千許モ亦各所ニ散在セリ、産物ハ緋、石炭、大小豆、蠶、蠶、雜穀、材木鐵道枕木、橋軸木等及ビ鱈、昆布、海鼠、緋油等ヲ主トシテ熊等ノ野獸モ亦少ナカラズ、而シテ内地ヨリ米及ビ苳、繩類、砂糖、紙類等ヲ輸入スルコト多シ。

六後志國

國內山岳多ク、平地多カラズ、唯後志川、利別川ノ灌域及ビ沿海ノ地ニ稍平衍ノ土壤ヲ見ルノミ、サレドモ沿海一帶魚網ノ利ニ

富メルヲ以テ人口少ナカラズ、且本道中渡嶋ニツギテ早ク開ケタル所トス、壽都、岩内、小樽ノ三支廳アリテ此國ヲ管ス。

炭礦鐵道札幌ヨリ西シテ此國ニ入り海濱ニ沿ウテ小樽ニ達ス、西海岸第一ノ要港ニシテ又開港場ナリ、同名ノ灣ニ臨ミ、深サ三尋ヨリ八尋ニ及ブ、札幌ノ發達ニツレテ此港モ益々隆盛ノ狀ヲ呈シ、現時人口六万ニ及ビ、船舶輻輳シ、此港一ケ年ノ總輸出入ハ二千万圓ニ近ク、輸出ノ主ナル者ハ緋、榨粕、石炭、大小豆ニシテ輸入ノ主ナルモノハ米及ビ日用品トス、手宮ハ小樽ノ北ニ在リテ鐵道ノ起點トス、高島岬ハ其ノ端ニ在リテ遙カニ天塩ノ雄冬岬ト對シ、遠ク石狩平原ヲ望ムベシ、小樽ヨリ以南ハ街道概テ海岸ニ沿ヒ、忍路ヲ經テ余市ニ至ル、人口一万余、余市川ノ河口ニ臨ミ、海産物ノ輸出多シ、此川沿岸ノ地、麥圃遠ク連リ開墾ノ業大ニ進メリ、余市ノ西ニ古平町アリ、余市ヨリ積丹半嶋ノ頭部ヲ過ギテ岩内ニ至ルベシ、積丹半嶋ノ極端ヲ神威岬トス、カモ井ハ神靈ノ義古昔ハ此地ヨリ以北内

地女人ノ行クヲ禁ジタリ、其北ニ積丹岬シキヤコタンアリ、二岬ノ間奇岩怪礁海中ニ
 碁布シ、舟行甚ダ艱ム、然レドモ沿岸漁利少ナカラズ。

岩内町ハ人口一万六千、良港ヲ有シ、殊ニ其東方ニハ有名ナル炭山アルヲ以テ
 市況殷賑ナリ、内地へ輸出スル貨物年七十万圓ニ至ルト雖、主コレヨリ
 雷電峠ヲ經後志川ヲ渡リ歌棄ヲ經テ壽都ニ至ル人口六千、南部ノ都會ニシ
 テ支應ノアル所ナリ、此地方ハ寒暑ノ差本道中ニテ少ナシト雖モ、大概
 暴風ノ衝ニ當レリ、コレヨリ南方太櫓村フトヲスギテ渡島ニ入ル、奥尻嶋ハ
 漁業地ナリ。

此國土人ハ七百ニ滿タズ、墾田ハ石狩以外ニ於テハ最多トス、産物ハ鯉、
 石炭、硫黃、大小豆、鱒等ニシテ穀物、魚網ノ類ハ是ヲ内地ニ仰グ。

七、渡嶋國 此國蝦夷地ニ於テハ最モ本州ニ關係早ク、長ク松前氏
 ノ領トナリ居リキ、國內山岳多ク、平地少ナケレドモ、海岸線ノ廣キコト
 本道第一ニ居リ、函館、龜田、松前、檜山ノ各支應ヲ以テ此國ヲ管ス。

後志ヨリ海岸ニ沿ウテ此國ニ入レバ熊石村アリ、古昔松前氏ノ關所ヲ
 置キシ所ナリ、ソレヨリ沿岸ノ漁村ヲ經テ江差ニ達ス、人口一万 物貨集
 散ノ地ニシテ、晩春鯉、鮭ノ季節ニハ内地ノ勞働者群ヲナス、輸出入ノ多
 キコト函館、小樽ニ次ギ、鯉類、鰯及大小豆等ヲ出シ、米、織物、魚網類、酒等ヲ
 輸入ス、檜山支應ノ所在地ナリ、是ヨリ千軒岳ヲ望ミテ福山町ニ至ル人口一
 万 往昔松前氏牙城ノ在リシ所ニシテ現時松前支應ノ所在地ナリ、然
 レモ商業貿易ハ盛ナラズ、其東南ニ白神岬アリ、是ヲ本道ノ極南端トス、
 函館ハ同名ノ灣ノ南ニ斗出スル一小半島ノ上ニ在リテ、後ニ函館山ヲ
 負ヒ、前ニ巴港ヲ控ユ、港内水深ク、三尋ヨリ十五尋ニ至リ、巨舶ノ碇繫ニ
 便ナリ、市況盛ニシテ内地ニモ見ルコト少ナシ、人口七万四千ニ達ス、港
 口ニ辨天崎ノ砲臺アリ、此港ハ貿易港ニシテ輸出入合計ハ二千万圓ニ
 達シ、輸出ノ主ナル者ハ鯉類、鮭、昆布、大小豆、硫黃等ニシテ、輸入ノ主ナル
 者ハ米、織物、金屬、酒、烟草、砂糖等ナリ、然レドモ其海外トノ輸出入ハ二百

万圓ニ過ギズ、市ノ東北郊外ニ五稜廓アリ、維新ノ際ノ古戰場ナリ、是ヨリ道ハ駒ヶ岳ノ西麓ヲ過ギテ森ニ出デ、噴火灣ニ沿ウテ膽振ニ入ル。此國ハ本道中最モ早ク開ケタレドモ、其人口猶一方里ニ六百餘人ニ過ギズ、土人ハ最モ少ナク、其總數モ僅カニ二百餘人ニ過ギズ。

八、膽振國

地勢二部ニ分レ、東部ハ石狩ニ連續スル平地ヲナセドモ、地味宜シカラズ、西部ハ後志火山脈連亘シテマツカリ山、硫黃山、樽前山、有珠岳、惠庭山ノ如キ火山少ナカラズ、從テ支笏湖、洞爺湖ノ如キ火山湖アリ、然レドモ噴火灣沿岸ノ地ハ沃饒ノ地ニ富メリ、室蘭ハ鐵道ノ起點ヲナシ、第五鎮守府ノ設置セラルベキ地ニシテ貿易港ノ一ニ位シ、麥、石炭、硫黃等ヲ外國ニ輸出ス、今支廳ヲ置ク、紋鼈村ハ農村ニシテ室蘭ノ西ニ在リ、能ク穀類ヲ産シ、殊ニ大豆ヲ有名ナリトス、製糖會社モアリ、白老樽前ノ海邊鰺ヲ産スルコト多ク、岩雄、登ヨリハ硫黃ヲ産ス、渡嶋ニ近キ國縫村ハ昔夷會沙具沙允ガ松前氏ト戰ヒタル所ナリ。

土人四千人各所ニ散在ス。

九、日高

日高山脈東北境ニ聳エ、次第ニ傾斜シテ海岸ノ平地ヲナス、而シテ支脈數條國內ニ横走シテ平行セル數區ニ分タレ、河流數條、其地ニ流ル、然レドモ一モ大ナルモノナシ、地味概テ豐饒ナレドモ、人口總テ二万ニ過ギズ、支廳ハ浦河人口千町ニ在リ。

此國ハ土人ノ中心地ニシテ、其人口六千三百ニ達ス、沙流川ノ傍ニ義經ノ城趾ト稱スル處アリ、近傍ハ土人ノ巢窟ニシテ、其内蝦夷第一ノ舊家モアリト云フ、染退川ノ上流ニ嘗テ夷會沙具沙允ノ居リシ城壘アリ、シニシテ十年部衆數千人ヲ以テ叛シ、ニヒカ新冠ノ高原ハ牧場ニ適シ、大ニ馬ヲ牧ス、ホロイ幌泉ハ襟裳岬ニ近ク、昔時此地ヲ以テ口蝦夷、奥蝦夷ノ境トナセリ、此國ノ產物ハ鮭、鱒等ノ外、昆布ヲ最トシ、沙金、野獸モ亦少ナカラズ。

十、十勝

十勝川五三里、十勝岳ヨリ出デ、國內ノ平野ヲ廻流シ、利別川ヲ合セ、大津川ヲ分チテ海ニ入ル、此河流域ノ地殆ンド二百方里ノ間沃

饒ナル原野ヲナシ、本道ニ於テ第二ノ富源トナス、然レドモ未ダ開墾シタル地多カラズシテ、人口猶一萬ニ及バズ、大津ハ大津川ノ河口ニ在リテ水深ク、後日商業上ノ要港タルベキコト必セリ、マツチノ軸木ヲ産ス、殊ニ石狩トノ鐵道開通スルニ至ラバ、其發達見ルベキモノアラン、國內モト十勝夷ノ巢屈ニシテ今猶夷人千七百許アレドモ既ニ聖代ノ化ヲ樂メリ、海産物ハ鮭、昆布ヲ主トス。

十一、釧路 北部ハ千嶋火山脈ノ鬱結スル所ニシテ、次第ニ傾斜シテ低地トナリ海岸ニ至ル、雄阿寒、雌阿寒兩山ノ間ニ阿寒湖アリ、周圍四里餘阿寒瀧直下三百間、其傍ニアリ、湖水流レテ阿寒川トナル、此湖ノ北ニ屈斜路湖アリ、周圍十里下流釧路川ヲナシ、阿寒川ヲ合セテ海ニ入ル、河口ニ釧路港アリ、人口三千五百東海岸ノ開港場ニシテ支廳ノ地トス、釧路川ニ沿ウテ標茶ヨリ、北熊落ニ至ル迄鐵道ノ設アリ、湖東ノ硫黃山ヨリ硫黃採掘ノ爲メナリ、其北ニ摩周湖六里餘アリ、海岸ニハ厚岸湖アリ、湖口開ケテ厚

岸灣ヲナス、厚岸港其岸ニ在リテ、沿岸海産物集散ノ地トス、國産ニハ鮭、昆布、硫黃、石炭等アリ、土人ハ千六百人許アリ。

十二、根室 納沙布岬ヨリ知床岬ニ至ル沿岸一帯ノ地ヲ占メ、北部ハ國後島ニ對シテ根室海峽ヲナシ、南ハ根室灣ヲナス、楓蓮湖周圍十里ハ其灣底ニ接ス、根室ハ支廳ノ地ニシテ又開港場タリ、本道第四ノ都會、人口一萬八千ニシテ、根室國近傍及千嶋ノ海産物輸出ノ中心ヲナシ、其額七十萬圓ニ達ス、然レドモ冬季ハ流水ノ害ヲ蒙ムルコトアリ、花咲港ハ此港ノ背面ニ在リテ冬季ハ船舶ノ出入多シ。

此國北境北見ノ境ニ良牛、山斜里岳アリ、沿海ノ地味亦宜シカラズシテ、只河岸沃饒ノ地アリト雖、穀産頗ル乏シク、牛馬ノ牧場ニ適セリ、漁業ハ甚盛ニシテ西別川ノ鮭ハ、本道中ノ最上品ト稱セラレ、其他鱒、鱈、鱈、昆布、鱈等多ク、鱒、鮭ノ罐詰ハ此地ノ特産タリ。

十三、北見 本道北斜面ノ地ニシテ、沿岸ハ知床岬ヨリ宗谷野斜

布兩岬ニ至ル迄約百余里ニ延長セリ、海岸湖沼多ク、猿湖湖^里二十、網走湖^里十一、最モ大ナリ、近海冬季ハ流水ノ爲メ航海ヲ杜絶シ、河流皆凍結ス、常呂川、湧別川ノ如キ河ノ稍大ナル者ニテ、沿岸農村ノ發達見ルベキモノアリト雖、要スルニ人烟稀少ニシテ、一方里ニツキ僅カニ三十餘人ニ過ギズ、西部稚内港^{ワッカナイ}千餘^{人口}ハ海產物集散ノ地ニシテ、宗谷港其北ニ在リ、東部北見町モ亦盛ンナリトス、西ノ海中ニ禮文^{レイブン}、利尻^{リジ}ノ三島アリテ、共ニ漁業ニ名高ク、利尻島ノ鬼脇、鷺泊ノ二港、禮文島ノ船泊ノ如キ共ニ春夏ノ候商旅ノ蝟集スル所タリ。

十四、天鹽

沿海一帶漁利ニ富ミ、住民亦少ナカラズ、南部ノ増毛ハ此國第一ノ海區ニシテ、鮮魚ノ一中心ヲナシ、支廳ノ地ナリ、北部ハ天鹽川溶々トシテ、流程七十四里ニ亘リ、長サニ於テ木邦第五ニ位ス、上流地方ニハアイヌノ部落ヲ見ルノミニシテ、下流地方ハ卑濕ナリ、然レドモ開墾ニ適スル地少ナカラズ、是等ノ地ハ天鹽川沿岸鐵道ノ敷設ト共ニ其發達期シテ待ツベキナリ、燒尻、天賣ノ二嶋ハ地味礪確アレドモ漁利多シ。

十五、千嶋

三十二島ノ總稱ニシテ、總テ火山質ヨリ成リ、活火山二十餘座ノ多キニ達ス、國後島ハ最南ニ在リテ、其南端ケラムイ岬ハ根室港ト相對ス、泊村^{六〇}人、其傍ニ在リテ、良港ヲ有ス、爺々岳、羅臼山島中ノ高山ナリ、東方ニ色丹島アリ、其斜古舟村^{一〇}人ハ良港ヲ有シ、千嶋第一ト稱ス、擇捉嶋ハ列島中最大ニシテ、紗那^{六〇}人ニハ支廳アリテ、漁期ニハ販ヲ極ム、其他内保村^{一五}人、藥取村^{一七}人共ニ好漁場タリ、寛政年間幕吏近藤守重此地ニ來リテ、夷民ヲ慰撫シ、次デ商人高田屋嘉兵衛擇捉以北得撫^{フシ}、新知ヨリ恩禰^{オンネ}古丹島ヲ經テ幌^{ハラ}、蕨^シ島ニ至ル、此島ハ大サ擇捉ニ次グ、其北ハ即占守嶋ニシテ、郡司氏等報効義會員ノ移住セシ所ナリ、本島ノ北ハ千島海峡ト稱シ、東察加ノロバトカ岬ト相對シ、其間三里ニ過ギズ、阿頼度嶋ハ本邦極北ノ嶋ナリ。

千島列島ハ鱒、鮭等魚類ノ外、海馬、海豹、臘虎、臘肭臍等ノ海獸ニ富ミ、鳥ニハ鴨類、野獸ニハ狐、熊、貂等多ク、硫黃ノ産亦少ナカラズ、然レドモ氣候寒ク風強キヲ以テ今ニ至ル迄無人嶋ヲ多シトス。

十六、括論

アイヌ人ハ此地ノ元住者ナレドモ現時人口一万八千ニ過ギズシテ年々著シキ増減ナシ、其多數ハ日高膽振ニ居リ、本道ノ開拓ハ年々進歩ノ成績ヲ顯ハシ、其移住民ハ北陸、奥羽ヲ主トシテ一年六万ヲ超エ、鐵道ハ三百哩ニ達セリ、從テ其成産物ハ本邦ニ於テ必要ナル地位ヲ占メ、鯡、鮭、昆布、鱈等ヲ主トシテ二千万圓ニ近シ、殊ニ鯡ハ西海岸ニ多ク、肥料トシテ一千万圓ヲ出ス、昆布ハ又本邦全産額ノ八割ヲ占ム、農産物中米ハ少ナシト雖、麥、大小豆等ハ頗ル多ク、殊ニ馬鈴薯ハ本邦全産額ノ半ニ居リ、甜菜、大麻、藍モ亦少ナカラズ、鑛物ハ石炭、硫黃、金銀、滿俺等ヲ主トシ、枝幸沙金ノ聲モ亦近來頗ル高ク、其他森林、牧畜ノ利モ多ク、概スルニ本道ノ富ハ其開發ニ從テ増大シ未タ其際限ヲ知ル可カラズ。

練習問題

- 一、北海道山脈ノ大勢。
- 二、北州島ノ略圖ヲ描ケ。
- 三、石狩平原ノ概況ヲ述ベヨ。
- 四、本道主要ノ産物。
- 五、本道重要ノ港八個ヲ舉ゲヨ及開港場ヲ問フ。
- 六、土人ノ情況ヲ述ベヨ。
- 七、本道ニテ開墾ニ見込アル土地ヲ列舉セヨ。
- 八、千島ノ情況ニ付知ル所ヲ記セ。

第十一章 臺灣

臺灣ハ琉球列島ノ西南ニ在ル群島ニシテ本邦ノ最南部ナリ、臺灣島ハ其最大ナル者ニシテ面積五千二百九十九方里、九州ニ伯仲シ、形恰モ木葉ノ如シ、澎湖列島、紅頭嶼、火燒嶼等亦重ナル者ニシテ、其近傍ニ散在セリ、此島ハ昔時高砂島或ハ中蜻嶋ト稱シ、我戰國時代ノ頃一時本邦人ノ占領セシ所ナリキ、近世歐人東航ノ初メニ當リ和蘭人之ヲ領セシガ、明ノ遺民鄭成功ナル者蘭人ヲ逐ヒテ此地ニ據リ、痛ク清朝ニ抗セリ、後鄭克塽ノ孫ノ降ルニ及ビテ遂ニ清ノ版圖ニ入レリ、皇紀二千三年然

レドモ僻遠ニ位スルガ故ニ政教共ニ行ハレズ所謂化外ノ民トシテ之ヲ處セリ明治七年征臺ノ役ハ島人ノ我ガ漂民ヲ虐殺セシニ起因セリ明治十七八年清佛戰爭ノ際ニ佛軍ノ本嶋ヲ封鎖セシコトアリシヨリ清廷此地ノ施政ニ注意シ漸ク文明ノ事業ヲ興起セシガ日清戰役ノ結果馬關條約ニヨリテ遂ニ我ガ版圖ニ歸セリ現時臺北臺中臺南ノ三縣ト宜蘭臺東澎湖ノ三廳トヲ置キテ之ヲ管治シ臺灣總督府之ヲ總理セリ。

一、地勢

臺灣山脈本島ヲ實キテ南北ニ亘リ東部ハ支脈錯綜シ岩石崎嶇トシテ交通甚タ不便ナレドモ西部ハ平坦ニシテ臺西平原ト稱セラレ諸種ノ產物ヲ生シ人民此處ニ繁殖セリ山岳ノ重ナルモノハ新高山 一萬三千九百七十九尺 シルグイア山 一萬一千三百餘尺 等ニシテ新高山ハ本邦第一ノ高峰ナリ北部ニ大屯火山彙アリ霧島帶ニ屬ス大屯山燒山等其中ニ在リテ皆噴火口ヲ有セリ。

二、海岸

臺灣島ノ沿岸ハ屈曲極メテ少ナク西部ハ諸川ノ運下スル泥土堆積シテ砂洲多ク東岸ハ斷崖絶壁ニシテ港灣ニ乏シ東北ニ北斗角三貂角アリ北斗角ノ北ニ在ル基隆港ハ本島ニ入ルノ門戸ニシテ内地ヨリ定期ノ航行アリ基隆ヨリ北海岸ヲ廻航スレハ本島ノ北端富貴角ヲ過ギテ臺灣海峽ニ入ル澎湖列嶋ハ本島ノ中西ニ在リテ其中ノ花嶼ハ本邦ノ西端 東經百十九度 西經二十度 ナリ更ニ南ニ航スレバ南岬ニ至ル本島ノ南端ナリ南岬ノ南約九哩ノ海上ニベールレート列岩アリ本邦ノ最南端 北緯二十五分 ナリ紅頭嶼ハ南岬ノ東ニ當リ其北ニ火燒嶼アリ。

三、河流

臺灣山脈本島ノ分水界ヲナシテ斜面東西ニ分レ河流ノ長大ナルモノナシ淡水溪 本島内第一大河 ハ西斜面ノ北部ニ在リテ上流ヲ大崙炭河 又大姑 呼ビ新店基隆二川ヲ合シテ臺灣海峽ニ注グ其他大甲溪大肚溪濁水溪下淡水溪等アリテ皆臺西平原ニ灌溉セリ東斜面ニテハ卑南大溪稍大ナレドモ餘ハ記スルニ足ラズ。

四、臺北縣

基隆(一)ニ雞籠ハ臺灣島第一ノ良港ニシテ山岳三面ヲ繞リ、北方ノ一部外洋ニ向フ、港内水深クシテ巨船ヲ容ルベク、現時開港場タリ、然ドモ東北風烈シキハ碇泊ニ利アラズ、近傍處々ニ石炭ヲ採掘シ、本港ヨリ之ヲ輸出ス、此地ヨリ流車ニ乗ジテ西行スレバ臺北府ニ至ル、臺北府ハ淡水溪ノ流域ニ位シ、山岳四面ヲ圍ミ、市街繁華ナリ、家屋ハ大抵二階造ニシテ道路廣ク馬車人力車アリテ交通自在ナリ、市ノ周圍ニハ凸凹形ヲナセル支那風ノ城壁ヲ廻ラセリ、臺灣總督府及ビ臺北縣廳ノ所在地ニシテ、本島第一ノ大都會ナリ、南方城外ニ艋舺アリ、新店川ニ臨ミ巨商富賈甚ダ多ク、市況繁盛ナリ、城北ニハ大稻埕ノ大市街アリ、新店川ト大嵙崁川トノ合點ニ位シ、艋舺ト同シク舊來ノ埠頭ナリ、此地ハ製茶ノ業盛ニシテ烏龍茶ノ輸出ヲ以テ著ハル、其北ニ淡水港一尾アリ、淡水溪口ニ在ル開港場ニシテ航路大稻埕艋舺ニ通ズ、然レドモ水淺クシテ大船ヲ繫グニ便ナラズ、小汽船ノ如キモ滿潮ノ時ニアラザレ

ハ河流ヲ沂ルコト能ハズ、輸出品ノ重ナルモノハ茶、樟腦、石炭、砂金等ナリ、臺北ヨリ汽車ニテ西南行スレバ新竹ニ達ス、現今臺灣鐵道ノ西端ニシテ肥沃ノ平野ニ位シ、城外田畝開ケ栽植盛ニ行ハル舊港其北ニ在リテ開港場ノ一タリ。

五、臺中縣

新竹ヨリ西南ニ進メバ本縣ニ入リテ後壠港アリ、開港場ニシテ後壠溪口ニ臨ミ小汽船ヲ容ルベシ、後壠溪ノ上流ニ苗栗アリ、盛ニ樟腦ヲ產出ス、後壠ヨリ南スレバ彰化ニ至ル、土地平坦ニシテ耕作ニ便ナリ、其東ニ臺中府、西ニ鹿港アリ、臺中府ハ大肚溪ノ上流畔ニ在リ、臺中縣廳ノ所在地ナレドモ、人口寡少ナリ、其東南山中ニ埔里社アリ、鹿港ハ縣下ノ要津ニシテ本島ノ中央ニ位シ、支那船常ニ輻湊シテ貨物集散ノ要地ナリ、本島ヨリ支那ニ渡ルニハ此湊ヨリスルヲ最モ近シトス、北方ニ梧棲アリ、共ニ開港場ナリ、彰化ヨリ更ニ南行スレバ東ニ雲林一ニ斗六街アリテ樟腦ノ集散ヲ以テ著ハレ、西ニハ下湖口一名開港場アリ

六、臺南縣

嘉義ハ北部ニ在ル名邑ニシテ、新竹、彰化等ト同シク田畝大ニ拓ケ陸路彰化ト相通ズ、西方ノ東石港ハ開港場ナリ、臺南府ハ嘉義ノ西南ニ在リ、臺南縣所在ノ地ナリ、近傍沙地多ク沃土少ナシ、市街稍々清潔敷クコ石ヲ以テス、南部商業ノ中心ニシテ、嘗テ支那臺灣府ノ在リシ所ナリ、西ニ安平港アリ、開港場ニシテ砂糖、樟腦、米等ヲ輸出ス、然レドモ港内水淺クシテ波浪常ニ高ク、殊ニ西南風烈シキ時ハ碇泊危険ニシテ船舶大抵難ヲ澎湖島或ハ打狗港ニ避クト云フ、臺南ヨリ東南行スレバ鳳山アリ、製糖ノ業盛ニ行ハル、亦南部ノ都會ナリ、其西北ニ在ル打狗一名後ハ盛ニ砂糖ヲ輸出シ、開港場ノ一ナレドモ水淺クシテ商況次第ニ衰微スル傾アリ、頃者臺南ヨリ此地ニ通ズル鐵道台南鐵道ヲ敷設セリ、鳳山ノ南ニ東港アリ、下淡水溪口ノ良港ニシテ商業繁華ナリ、開港場ニシテ南部地方ニ産スル米穀、砂糖等ヲ輸出スルコト甚盛ナリ、東港ノ南

ニ恒春アリ、本嶋最南ノ都會ナリ、其東北ニ在ル牡丹社ハ即チ嘗テ我漂民ヲ虐殺セシ蕃族ノ巢窟ナリ。

七、宜蘭廳

宜蘭ハ臺北府ノ東南ニ當リ本廳所在ノ地ニシテ、西ハ山ヲ負ヒ東海ヲ望メリ、蘇澳港南ニ在リテ水深ク東岸ノ良港ナリ、縣下南ハ生蕃地ニ接シ人口稀少ナリ、

八、臺東廳

臺灣島ノ東部一帯ノ地ヲ管スレドモ交通不便ニシテ暴戾ノ蕃族處々ニ部落ヲナシ、百餘社アリト云フ。社ハ部落ナリ。調査未ダ充分ナラズ、南方卑南、大溪ノ流域ニ在ル卑南ハ臺東廳ノ在ル所ナリ、

九、澎湖廳

澎湖列嶋全部ヲ管ス、諸嶋概ネ平坦ニシテ、山岳ナク又喬木ヲ見ズ、澎湖嶋、漁翁島、白砂嶋ハ其重ナルモノニシテ、相接シテ一大灣ヲナス、澎湖嶋ノ媽宮馬公ハ澎湖廳ノ在ル所ニシテ、港ハ灣内ニ向ヒ水深クシテ風波起ラズ實ニ臺灣ノ良港ナリ、

十、臺西平原

ハ本嶋ノ寶藏ニシテ諸種ノ物産ヲ生ズ、北部ニハ

茶ノ栽培盛ニシテ採摘ノ度數毎年七回ノ多キニ及ビ石炭亦殊ニ此地方ニ多シ中部山林ヨリハ樟腦ヲ出スコト夥シク世界第一ト稱ス巨木並立セリ南部ハ砂糖ノ製造甚盛ナリ以上四種ノ產物ハ實ニ本邦主要ノ大富源ナリ其他農産ニハ米、甘藷アリテ廣ク各地ニ耕作セラレ一年二回ノ收穫アリ又處々ニ石油、硫黃、砂金等ノ鑛物ヲ含有ス此等皆輸出ノ重要品ニシテ後來有望ノ產物ナリ

十一、括論

本島ハ本邦ノ最南遠隔ノ海上ニ位シテ肥沃ノ平野ヲ有シ殖産上軍事上一日モ忽ニスベカラザル地方ナリ從來ノ住民ハ支那人ト蕃人トノ二種ナリ支那人ハ本國南部ノ地方ヨリ移住セシモノニシテ北及ビ西部ノ平野ニ居リ概テ商業殖産ノ業ニ從來シ風俗言語等ハ鄉國ト大差ナシ蕃人ハ古ク此地ニ移殖セシモノニシテ生蕃熟蕃ノ二部ニ分ツベシ熟蕃ハ支那人ト雜ハリ耕作魚漁ヲ營ミ言語風俗既ニ支那風ニ感化セラル之ニ反シテ生蕃ハ東部ノ山間ニ棲息シ或ハ居

樹木樹皮ヲ以テ支那人ト交ハルコトナク甚之ヲ惡メリ性殘忍ニシテ常ニ家屋ヲ構成ス

刀槍ヲ携ヘ人首ヲ獲ルコト多キヲ以テ譽トセルモノアリ能ク岩石ノ上ニ馳驅シテ獸獵ヲ業トシ獸肉芋等ヲ常食トセリ其我ガ領土トナリ

テ内地人ノ陸續渡臺スルヤ屢番人ノ襲來ニ遇ヒ且氣候炎熱鳴嶼的氣候ナルヲ

以テ内地人ノ想像スル如ク酷熱ナラスニシテ濕潤多キト飲用水ノ惡シキトニ因リ一種ノ熱病ニ罹リ爲メニ大ナル損傷ヲ蒙レリ乃チ一方ニハ此等ノ障害ニ防

備シ一方ニハ諸船ノ事業交通機關教育殖産事業等ヲ創起セリ然レトモ日尙淺キ

ヲ以テ効果未タ充分ナラズ今ヨリ以後益進ンデ施政ノ方針ヲ謬ラズ此絶海ノ寶藏ヲシテ國家大富源タルノ實ヲ舉ゲシメ若シ平和破裂ノ秋アルモ隔靴噬臍ノ恨ナカラシメンコト實ニ全國萬民ノ期待スル所ナリ

練習問題

一、台灣島ノ地勢及ヒ主ナル山岳。

二、淡水溪流域ノ產物及都會。

- 三、台灣ノ開港場。
- 四、澎湖列島ニ就テ知レル所ヲ記セ。
- 五、台灣ノ物産ト氣候トノ關係。
- 六、生蕃ノ風習。
- 七、府縣廳ノ位置。

第三編 全國括論

第一章 氣候風土

一、海流

海流ガ其流過スル國土ノ氣候ニ影響ヲ與フルコトハ最モ著シキ者ナリ。本邦ニ於テハ暖流ニ黒潮アリ、赤道洋流ノ一派ニシテ臺灣ノ近傍ヨリ來リ、九州南部ニ於テ分レテ二派トナリ、本流ハ九州、四國及本州ノ南部ニ近ク流レ、房總半島ヲ過ギテ北東ニ屈ス、其支派ハ、對馬海峽ヲ過ギテ日本海ニ入り、本邦ノ岸ニ沿ウテ北上シ、宗谷海峽ヲ通過シ、オコツク海ニ入ル、此暖流ノ通過スルガ爲メニ本邦ノ氣候ヲ緩和ナラシメ、支那、朝鮮ノ同緯度ノ地トハ著シキ相違アラシメ、且鯉、鯖、鰯、鰒、玳瑁等ノ産多カラシム、寒流ニハ千島海流即チ親潮アリテ北海道ノ東岸ヲ

洗ヒ、三陸ノ岸ニ沿ウテ南下シ、金華山附近ニ至リテ其勢ヲ失フ、昆布、鯨鱈ハ此ノ海流ニ繁殖ス、其他樺太ノ東岸ヲ流ルル樺太海流、日本海ノ西岸ニ沿ウテ南流スルリマン海流モ亦寒流ニ屬ス。

二、氣温天氣

温度ハ概シテ緩和ナルコト常ニ外國人ノ羨ム所ナリト、雖緯度廿九度餘ノ間ニ延長スルヲ以テ其全年平均温度、臺灣恒春ノ七十六度餘ニ達スル所アリテ、北海道上川、釧路地方ノ如キ平均四十九度ニ達セザル所アリ、然レドモ英、領カナダノ北部、ロシアシベリヤノ北部ノ寒ノ如キ印度亞非利加ノ暑ノ如キハ本邦在住者ノ曾テ經驗セザル所ナリ、雨或ハ雪ハ臺灣、薩南諸島ニ於テ時トシテ年三千耗九寸ヲ超ユル處アリト、雖瀬戸内沿岸、東山北海ノ如キ概シテ二千耗以下ニ位ス、北海道ハ降雪尤モ多ク、其宗谷、上川ノ如キ一年間百四十二日ハ雪天タリ、九月ノ頃暴風往々南ヨリ襲來シテ家屋船舶ヲ害スルコトアリ、爲メニ、天氣豫報ノ制アリ、年中風ノ尤モ強キハ澎湖嶋ト北海道ノ壽都トナリ、

本邦ヲ七ノ氣象區ニ分ツ、琉球及九州南海道ノ南部ヲ一區トシ、瀬戸内地方ヲ二區トシ、九州中國ノ北部ヲ三區トシ、東海道及東山道ノ南部ヲ四區トシ、北陸兩羽、長野ヲ五區トシ、福嶋二陸ヲ六區トシ、陸奥、北海道ヲ七區トシ、臺灣ハ特ニ區外トス。

地震多キコト世界ノ他ノ地ニ類ヲ見ザル所ニシテ爲メニ國民ノ性質ニ影響セリト云フモノアリ。

三、動植物

本邦ハ雨量多ク地味豊沃ニシテ、且長ク南北ニ延長スルヲ以テ、植物ノ種類饒多ニシテ全世界ノ三分ノ二ヲ有スト云フ、而シテ北海道ヲ除キテ左ノ五帶ニ分ツコトヲ得ベシ。

第一、熱帶樹帶

蘇鐵、ヘゴ、榕樹等アリテ且最モ甘蔗ニ適ス。

第二、半熱帶樹帶

本州、關西ノ大部、東海道及北陸ノ西部海岸ヲ含ミ、松柏ノ森林多ク、暖地ニハ樟樹ヲ生ジ、茶、蜜柑ノ栽培ニ適ス。

第三、溫帶低地帶

關八州、北越、奥羽ノ平地ヲ含ミ多ク稻ヲ産ス。

第四、溫帶高地帶

本州一般ノ高地ヲ含ミ、檜、杉、樺等多ク、木曾山林モ是ニ屬ス、農作物ハ米ニ適セズ、麥、豆、馬鈴薯等ニ適ス。

第五、高山帶

富士、赤石分水山脈等高山ノ諸峰ニシテ、ツガ、偃松等ヲ特種トス。

北海道植物ハ、海岸ニハイタドリ等多ク、其他ハ本州第三帶、四帶、五帶ニ類シテ赤楊、柳、椴、松、杜松、白樺、サビタ、ハンノキヨリ偃松ノ如キモ生ゼリ、然レドモ概シテ云ヘバ北海道ハ寒帶性ナリ。

要スルニ日本植物群ハ滿州、朝鮮、支那ト同ジ區域内ニ屬シ、寒溫熱ノ三帶ニ亘レリ。

動物ノ中毒蛇蠍ノ如キハ熱帶性ニシテ南部ニ産シ、猪、鹿、兔、狐ノ如キハ溫帶性ニシテ其分布廣ク、熊、狼及殊ニ臘胸臍ノ如キ海獸ハ寒帶性ニシテ北方ニ住メリ。

第二章 人民政治

一、人民 吾ガ國民ハ所謂大和種族ヲ主トシ、北海道ノアイヌ種及臺灣ノ支那種及蕃人即チマレー種ヲ包有シ、統計四千六百萬ヲ超ユ大和種族ハ大體アルタイ種ニ屬シテ滿州蒙古及土耳其人等ト相連關スト云フ、從テ其言語モ以上諸國ノ語ト畧其語脈ヲ同フシ、即チ膠着語ニシテアリアン種ノ屈曲語、支那人ノ孤立語ト同ジカラズ、國民ノ性質一般活潑ニシテ、武勇ヲ好ミ、殊ニ清潔ヲ愛シ、忠孝ノ德ヲ貴ブ、然レドモ或ハ氣質輕躁ニ失シ、堅忍ニ乏シク、目前ニ泥ミテ永遠ヲ慮ラザル等ハ其弱點ノ著シキ者ナリト云フ。

我ガ國民ガ海外ニ在留スル者ハ七万以上ニ達シ、布哇ニ最モ多ク、合衆國、濠州、シベリヤ地方、支那、朝鮮、北米カナダ是ニ次グ、然レドモ其多數ハ勞働者ニ止マリ、殖民事業トシテ見ルベキ者ナシ、人口ノ繁殖力ハ頗ル盛ニシテ年々五十万ヲ増加ス、故ニ殖民ハ本邦ノ急務ナリ。

二、教育 各種學校ノ數ハ全國ヲ通ジテ殆ンド三萬ニ近ク、大學ハ東

京京都ニ各一箇ヲ有シ、高等學校ハ七箇所ヲ有シ、其他特種教育ノ學校皆次第ニ整備セリ、然レドモ一般女子ノ教育ハ比較的特ニ不進歩ノ中ニ在ル如シ、年々新タニ出版スル圖書ハ二萬種ヲ超エ、新聞雜誌ハ大約七百五十種ヲ有シテ其發賣高ハ四億ヲ超ユ、其他東京、京都、奈良ノ博物館ノ如キ皆見ルベシ

三、政體 明治廿三年憲法ヲ發布シテ我國ノ政體ヲ表明セラレタリ、即チ天皇ハ立法、行政、司法ノ三權ヲ總攬セラル、立法部ハ帝國議會是ヲ司ドリ、行政事務ハ内閣各省ノ國務大臣輔弼ノ任ニ當リテ其責ニ任ジ別ニ樞密院アリテ至高顧問府トナリ、會計検査院アリテ帝國ノ會計ヲ監督ス、司法權ハ、天皇ノ名ニ於テ裁判所是ヲ行フ

帝國議會ハ貴族、衆議院ハ皇族、華族及勅撰議員、多額納稅議員ヨリ成リ、凡三百人ヲ限リ衆議院ハ全國臣民ヨリ選舉セラレタル三百人ヲ以テ成ル。

國務大臣トハ内閣總理大臣及外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信ノ九省ノ大臣ヲ云フ此ノ各省大臣ハ入りテハ内閣ノ國務大臣トナリ、出テテハ各省專務ノ長官トナル、中央政府廳ニ知事アリ、郡區ニシテ成リ、地方政廳ハ總督府ニ總督アリ、道廳ニ長官アリ、府廳ニ知事アリ、郡區ニ郡區長アリ、鳴廳ニ島司アリ

リ、最上ノ裁判所ハ大審院ニシテ東京ニ在リ、次ニ七ヶノ控訴院ハ東京、大坂、名古屋、廣島、長崎、宮城、函館ニ在リ、次ニ地方裁判所アリテ其下ニ區裁判所ヲ管轄ス、各裁判所ノ司法官ハ判事、檢事ナリ。

四、兵備 全國皆兵ノ制ニシテ帝國臣民中滿十七歲以上滿四十歲迄

ノ男子ハ皆兵役ニ服スル義務アリ、兵役ハ常備陸軍現役三年、豫備四年、四年後備、五補充、陸軍第一七年、四月、海軍一年、國民第一、二分ツ陸軍ニ於テ兵士ノ種類ハ憲兵、步騎砲、工輜重各種ニシテ其兵員ハ現役十二萬餘、豫備殆ド十二萬、後備七万五千合計三十二万許アリ、此兵士ハ大畧近衛十二師團ニ分置シ、師團ハ總テ四十八聯隊ニ分タル、而シテ第七師團ノ屯田兵各地ノ要塞砲兵東京灣、由其、吳、蘇、佐世保、函館、舞鶴、下ノ關、基隆、澎湖、十ヶ所、對馬警備隊モ此内ニ含マル、憲兵及陸軍所要ノ各學校ノ生徒ハ師團以外ニ在リ、參謀本部ハ出師、國防、作戰ノ計畫ヲ司リ、監軍部ハ軍隊ノ練習、進歩ヲ規畫ス、海軍ハ沿海地方及島嶼ノ男子ヲ調査シテ之ヲ採リ、軍人凡二万五千人アリ、海軍ニ最モ必要ナル者ヲ軍艦トス、軍艦ニハ戰艦、海防艦、巡洋艦、砲艦、通報艦、水雷驅逐艦等アリテ現時殆ンド廿餘萬噸ニ達ス、帝國ノ領海ヲ五海軍區ニ分チ、各區ノ軍港ニ鎮守府ヲ置キ、海兵團ヲ設ケ、軍艦ヲ附屬セシム、海軍ノ軍令部ハ出師、國防、作戰ノ計畫及軍隊ノ教育訓練ヲ監督ス、軍艦ハ敷嶋、富士、八嶋ヲ初メトシ總噸數廿三萬ヲ超ユ、

五、外交

外交ハ國運ノ進長ニツキテ最モ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ、本邦ハ海外廿二ヶ國ト修交條約ヲ締結シ通商貿易ヲナシ、互ニ公使領事ヲ派遣駐在セシメテ交誼ヲ厚ウシ、彼我人民ノ往來ニ便シ、其臣民ヲ保護シ其貿易ヲ監督ス、海外領事館ハ三十四ヶ所ニ設置セラレ、其他名譽領事ハ廿六ヶ所ニ在リ、

六、財政

本邦政府ノ歲出入ハ各約二億二千万圓ニシテ、其經常費一億三千万圓餘ヲ平均スレバ、每一人三圓許ニ當ル、即チ英佛等ニ比較シテ僅カニ十分一ノ負擔ニ過ギズ、然レドモ國民ガ少ナカラヌ負擔ヲ感ズル者ハ、其富ノ度ガ歐米ニ比シテ甚下位ニ在ルガ故ナリ、本邦國勢

ノ發展ニ大ナル困難ヲ與フル者ハ實ニ此點ニ在リ二億圓餘ノ歲入中主ナル部分ハ地租酒稅海關稅等ノ租稅及官業官有ノ財產收入、公債募集、債金操入等ニ由テ生ズル額ナリ、歲出ノ主ナル者ハ海陸軍事費ニシテ全額ノ過半ヲ占メ、其他ハ國債費四億圓余ノ國債、アリ鐵道費府縣費等ナリ、租稅ヲ負擔スルコト尤モ多キ地方ハ兵庫縣ニシテ是ニ次グラ東京、福岡、大坂トシ、尤モ少ナキハ沖繩ナリ、明治三年以來三十年度迄貨幣鑄造ノ總高ハ三億八千萬圓ニ達シ、紙幣ノ現時流通高ハ約二億圓ナリ、然ルニ貿易ノ輸出入往々相償ハズシテ貨幣ノ濫出ヲ來ス是ヲ彼ノ英米ノ富ニ比スルニ其差霄壤ノミナラズ

七 概説

建國本邦ノ如ク深遠ナルハ世界ニ於テ其例ヲ見ズ、從テ國民ハ單一性ヲ有スルコトニ於テ亦他ニ決シテ其比ヲ見ルコトナシ、歐米ノ如ク、宗教ニ熱中セザレドモ皇室ヲ基本トセル道德ハ一國ノ統一ト發達トニ適シタルコトハ過去數千年ノ歴史ニ由テ既ニ証明セラ

レタリ政體ハ歐米ノ制ヲ斟酌シタレドモ其精神ノ美ハ古來民君ノ間ニ存セルモノナリ、武ハ古來本邦ノ尙ブ所ニシテ維新以降ノ進步ハ現時既ニ歐米ト相提携シテ亞細亞大陸ノ平和ノ爲メニ鞅掌スルニ至レリ、是レ總テ國民古來ノ潛勢力ガ發展セルモノニ外ナラズ、然レドモ國久シク東海ニ孤立安眠セシヲ以テ、外交往々意ノ如クナラズ、加フルニ財政缺乏ノ爲メ國勢ノ進步遲々タルヲ免レズ、是レ國民ノ大ニ注意スベキ所ナリ

第三章 生業

一、森林 我國ノ森林ハ概略二千万町歩ヲ有シ、全國耕地ノ四倍ニ當レリ、國民元來悉ク燃料ヲ是レニ仰ギ、且建築モ亦常ニ此森林ノ材料ニ由リシ者故ナキニアラズ、然レドモ人多ク地開クルニ從ヒ、漸ク濫伐ニ陥リ、鬱林ノ地化シテ赭山トナリ、爲メニ洪水氾濫ノ憂ヲ來スコト少ナカラズ、故ニ官私共ニ近來殖林ノ策ヲ講ジ、年々新メニ植ウル木數國有

アリ、工業用原料ニハ綿、大麻、苧麻、藍、莖、蘭、漆、楮、楮等アリ、畑草モ少ナカラズ、米ハ全國ニ於テ四千七百万石ヲ産シ、新潟、兵庫、福岡、愛知、千葉等ヲ主トス、麥ハ關東平野ヲ主トシ、大豆ハ茨城、小豆、粟ハ熊本、稗ハ栃木、黍ハ愛知、蕎麥ハ長野ヲ最トズ、甘藷ハ鹿兒嶋、馬鈴薯ハ北海道其首位ニ居リ、綿ハ鳥取、大麻ハ栃木、藍ハ徳島、烟草ハ茨城、岡山、神奈川、鹿島ヲ冠トス、茶ハ静岡、臺灣ヲ最トシ、京都三重是ニ次ギ、砂糖ハ臺灣ノ産三十億斤ニ達シ、本土ニテハ香川、鹿兒嶋ヲ最トス、

桑畑ハ近來益、發達シ、全國ニ於テ三十万町歩ヲ超エ、殊ニ福島、群馬、長野ノ如キ縣内全畑地ノ三分ノ一ニ出入ス、從テ養蠶ノ結果、製繭額頗ル多ク、全國二百万石ヲ超エ、長野、群馬、埼玉、福島、其首位ニ居リ、然レドモ天蚕柞蚕ハ飼養ノ區域廣カラズ、

五、工藝

農ハ本邦ヲ維持スルニ足ルベキモ、國運ノ進長ヲ計リ、宇内ニ雄飛スルノ資力ヲ造ラント欲セバ、内ハ工藝ヲ盛シ、ニシ外ハ貿易

ヲ擴張セザルベカラズ、現時本邦ノ大ニ泰西ニ劣ル所ノ者ハ寧ロ此製造工藝ノ點ニ在リ、現時本邦工業ノ主要ナルモノヲ舉グレバ、製絲、紡績、諸般ノ織物、抄紙及、摺附木、陶磁器、漆器、酒類、壘表等ノ製造ニシテ、製絲ハ全國ニ於テ四十万户ノ自宅業ノ外、特別工場四千ヶ所ヲ有シ、二百余万貫ヲ製出ス、是ヲ本邦ノ最大富源トス、群馬、長野是ガ首位タリ、紡績ハ其發達近來ノコトナレドモ、全國ニ七十餘ヶ所ノ工場アリテ三千四百万貫ヲ産シ、大阪府是ガ中心タリ、織物業ハ内國ノ需用トシテ奈良朝以來頗ル發達シ、其價格ハ一億ヲ超エ、京都、群馬、愛知、福井等是ガ首位タリ、福井ノ羽二重ハ特ニ近事ノ發達ニ係ルモノナリ、本業ハ後來最モ希望アル者ニシテ原料ノ自由ナルト、勞力ノ低廉ナルト、國人ノ技巧ナルトハ本業ヲ益、發達セシムルニ足レリ、抄紙業ハ舊來ノ法ニ由ル者多ク、泰西ニ優ラズト雖、價格ハ千三百万圓ニ達ス、摺附木製造モ侮リ難キ勢ニ達シ、兵庫、大阪ヲ主トシテ七百万圓ニ達シ、亞細亞各地ニ於テ盛ニ西洋品

六十萬個ノ馬車、人力車、荷車ハ旅客或ハ荷物ヲ載セテ二千里ノ國道八千里ノ縣道及市街ニ往還シ、是等ノ國道縣道及其他ノ要路ニハ二千六百餘ノ郵便局ヲ設ケ、年內每人平均十三回ノ郵便ヲ利用ス、電信線路延長ハ二萬餘里ニ達シ、海底河底信濃川最上川等ノ電線ハ二千哩ニ達セリ、外國ト往復スル郵便電信ノ總數ハ六百萬回ニ及ビ、朝鮮、北米合衆國ヲ最トシ、英國、支那是ニ次グ、電話モ亦益々發達シ、線條延長ハ既ニ一万里ヲ超ユ、水運ハ本邦ノ發達ニハ最モ必要ナル部分ヲ占メ、現今汽船ノ數ハ千餘艘、四十八萬噸ニ達シ、造船所モ百餘ヲ有セリ、而シテ特ニ此水運業ニツキ重要ナル會社ハ日本郵船會社及大阪商船會社ノ二トス、其汽船ハ一百艘、十九萬噸ニシテ、內國沿岸ハ勿論、歐米亞細亞各港濠洲ノ間ニ往復セリ、

九、概説

歐米諸國ハ夙ニ工商海運等ノ業ガ、國家ノ進運ニ缺ク可カラザル者ナルヲ知リ、官民共ニ斯業ニ勵精シ、列國相競争シテ遂ニ今日

ノ盛觀ヲ呈セリ、國力内ニ充實セザレバ文學ノ美武備ノ盛モ遂ニ其効果ノ全分ヲ占ムル能ハズ、故ニ是等共ニ相待テ以テ國家ノ進運ヲ期セザルベカラズ、內國地理ヲ學ブ者能ク山川水陸ノ形勢ヲ查察シ、住民經濟政治ノ有様ト相對照シ、更ニ歴史發達ノ狀況ニ考ヘ、漸ク是ヲ世界ノ狀勢ト比較セバ、其得ル所甚大ナル者アルヲ信ズ、本講義ノ如キハ紙數限リアリテ日モ亦短シ、其概ヲ擧ゲ其要ヲ撮ルニ止マル、讀者焉レヲ了セヨ。

練習問題

- 一、本邦寒流暖流ノ名稱。
- 二、動植物分布ノ大略。
- 三、海陸軍ノ兵數師團軍港ノ位置。
- 四、米麥棉藍ノ主產地。
- 五、本邦主要ナル礦物ノ額及其產地。
- 六、本邦工藝ノ主ナル者ハ何ゾヤ。
- 六、輸出物品ノ主ナル者數種宛テ其額ト共ニ擧ゲヨ。
- 八、海軍ノ有様ニツキテ述ベヨ。
- 九、水産業ノ狀況。
- 十、內國地理ヲ學ブ必要ヲ記セ。

日本地誌終

地理科

(1) 吾人日用の食鹽は重に何國何地に産するか。

我が國にて普く用ふる食鹽は到る所の海濱に産すれども産額多くして上等なるは瀬戸内海の沿岸諸國に若くはなし、就中最も著名なるは播磨の赤穂周防の三田尻阿波の齋田等なり。

(2) 瀬戸内海沿岸地方に於て製鹽業の盛大なる理由を述べよ。

瀬戸内海沿岸地方は降雨の量少くして海水頗る鹽分に富み且鹽濱よく乾くを以て製鹽業自ら盛大に至れるなり、但し其降雨の少きは四國には四國山脈東西に連亘するを以て太平洋より來る濕氣は、大抵其の南面に於て凝縮し雨となりて四國の南部に降り、山陰山陽兩道の境には中國山脈東西に連亘するを以て日本海より來る濕氣は、多く其の北面に於て凝縮し雨となりて山陰地方に降るに由るなり。

(8) 大河の吐口には大都邑あるを常とすと、其の著名なるもの五箇を挙げよ。

東海道には隅田川の吐口に東京市あり、畿内には淀川の吐口に大阪市あり、北陸道には信濃川の吐口に新潟市あり、南海道には四國なる吉野川の吐口に徳島市あり、紀伊なる紀伊川の吐口には和歌山市あり。

(4) 關東八州にて著名なる織物の産地を國別に挙げよ。

武藏國の八王子、上野國の桐生、伊勢崎、下野國の足利。

(5) 我國の物産中米茶生絲の重なる産地を挙げよ。

米百萬石以上の産地は千葉長野静岡富山新潟福島宮城山形秋田兵庫岡山山口福岡熊本の十五縣にして之を國別にすれば越後越中羽前陸前羽後肥後筑後下總等は重なる産地なり。

茶の重なる産地は駿河遠江にして山城之に次ぐ、生絲の重なる産地は信濃上野にして岩代之に次ぐ。

應用問題 我が國にて茶及び生絲は何縣に最も多く産するか。

(6) 我が國の三急流及び其の源末を記せ。

富士川最上川球摩川を三急流と云ふ、富士川は甲斐の北境に發し富士山の西より駿河の中央を横りて駿河灣に入る、最上川は岩代の境に發して北流し中程より北に折れて酒田港に注ぐ、球摩川は日向の境より發し西流して八代灣に入る。

(7) 吳、小倉、小牧山、占守島、伊萬里の所在及び著名なる事柄を問ふ。

吳は安藝の南岸に在り、倉橋能美の二島其の前面に横たはり、軍港の一にして要害極めて佳なり。

小倉は豊前の西北海岸に在り、海陸の交通便利にして市街繁華なり、其の小倉織は古へより名高し。

占守島は日本の東端にして千島に屬す、郡司海軍大尉が曩に同志の徒と共に移住せる所にして、其海にはらつて、あざらしにしん等の産あり。

小牧山は尾張なる土岐川の西にある小高き山なり西面共に平野なるを以て眼下に一瞥すべし此の山は慶長年間徳川家康が織田信雄を援けて羽柴秀吉と對陣せし處なり。

伊萬里は肥前の北海岸にあり陶器の名産地たる有田と相距ること僅に數里に過ぎずされば有田の陶器は大抵こゝにて販賣するを以て有田焼をば伊萬里焼といへり。

(8) 歐列六大強國の國名首府及び政體を問ふ。

英吉利露西亞佛蘭西獨逸澳地利匈牙利及び伊太利の六國は地廣く財饒にして兵又強し故に之を歐州の六大強國と云ふ其の首府及び政體は左の如し。

英吉利 首府ろんぞん政體立憲王政 露西亞 首府 せんとべいと
るするぶるぐ 政體 君主專制 佛蘭西 首府 ぱり 政體 共和
政治 獨逸 首府 へるりん 政體 立憲帝政 澳地利匈牙利 首

府 うゐんな 政體 立憲帝政 伊太利 首府 ちうま 政體 立

憲王政

(9) 本邦主要の平野並に其の中に在る大都邑を問ふ。

平野の最も大なるは關東平野にして利根川荒川等の流域を占め相摸武蔵安房上總下總常陸上野下野の八州に亘りて面積約百三十万里に達す其の南方東京灣に臨める所に我が帝國の首府にして東洋第一の大都會たる東京市あり又其の南に本邦第五の都會にして外國貿易の盛なる横濱市あり(水戸宇津宮前橋高崎の如き繁華の市邑も又此の平野にあるものとす。)

第二の平野は畿内なる淀川大和川の流域を占めたる平野にして山城大和河内和泉攝津の五州に亘り淀川の吐口に本邦第二の大都會にして内國商業の中心たる大坂市あり又其の東北に本邦第三の大都會にして工藝美術に名高き京都市あり又大坂市の西に本邦第六の大都會にして横濱市と同じく外國貿易を以て名高き神戸市あり(堺奈良の如き市邑も亦

此の平野
にあり。

第三の平野は、濃尾の平野として、木曾川の流域を占め、美濃、尾張に跨れり、尾張の名古屋市は、此の平野の中央に位し、本邦第四の大都會たり。(岐阜の早

野にあり。平
野にあり。)
(10) 山陽鐵道の汽車にて三田尻より神戸に至る間通過する國々府縣及び大河と市とを順序に列記せよ。

國名 周防、安藝、備後、備中、備前、播磨、攝津
府縣 山口縣、廣島縣、岡山縣、兵庫縣。

大河 太田川安藝、蘆田川備後、河邊川備中、西大川、東大川備前、加古川播磨
市 廣島、岡山、姫路、神戸。

(11) 東海道鐵道より分岐して北陸道に至る鐵道の起點終點及び停車場の主なるものを擧げよ。

起點 近江の米原 終點 越中の富山 停車場 長濱、敦賀、武生、福井。

大聖寺、小松、金澤、高岡等。

(12) 畿内の物産を列記せよ。

淀川、大和川等の流域には、米麥の産極めて多く、宇治の茶、大和、和泉、河内の綿等は、農産の主なるものにして、伊丹、西宮等の清酒、神戸附近の摺附木、京都の西陣織、友禪染、清水焼、大坂の綿絲、堺の鐵器、段通、奈良の晒布サラシ、墨及び漬物、吉野の紙、大和の飛白、河内の木綿等は、製造品の著名なるものなり。

(13) 阿蘇山、鳴門海峡、媽宮港、清水港及び犬吠岬の所在地を問ふ。

阿蘇山肥後の東部、鳴門海峡淡路と阿波との間、媽宮港澎湖島の南、清水港駿河府の内、犬吠岬利根川

岸右
(14) 東京と青森との間、日本鐵道に沿ひたる主なる都會の名を列舉せよ。
宇都宮、福島、仙臺、盛岡。讀者は各鐵道に付き之に類する問題を設けて自ら答案起草の練習を爲すべし。
(15) 關東の地勢を問ふ。本講義第一編第一卷日本地誌九ページを熟讀したる後讀者自ら答案を作ることを練習せよ。

- (16) 關東の著名なる河流を記せ。右に同じ。
- (17) 左の諸問題は、本講義第一編第一卷外國地誌を熟讀したる後は、容易く答案を起草し得べきものなれば、問題のみを掲げて答案を省きたり讀者須く石盤に之が答案を記して受験に應ずる準備を爲すべし。
- 一、亞細亞洲の位置境域を問ふ。 二、亞細亞洲の主なる山脈と河流とを記せ。 三、亞細亞洲の高地と平地とを問ふ。 四、亞細亞洲の海灣半島に就きて知る所を記せ。 五、亞細亞洲の邦制上の區劃を問ふ。 六、韓國の境域を問ふ。 七、韓國の地勢を問ふ。 八、韓國の主なる開港場を挙げよ。 九、韓國の主なる物産を記せ。 十、清國の境域及び區劃を問ふ。 十一、清國の平地と高地とを問ふ。 十二、清國著名の河流を記せ。 十三、清國著名の海灣及び貿易港を問ふ。 十四、清國著名の物産は何々なるか
- (18) 南日本北日本とは何れを云ふか。

我が國の地勢を検するに、大なる山脈二派あり、其の一は樺太山系として、東北より西南に走り、他の一は崑崙山系として、西南より東北に赴き、二者中部即ち甲斐信濃の邊に於て相結合して高峯峻嶺を現出し、富士山實に其の目じるしをなせり、此の結合點以北をば北日本と云ひ、以南をば南日本と云ふなり。

(19) 日本海に面せる本邦の著名なる貿易港四个を挙げ且其等の概況を記せ。

日本海に面せる本邦の重なる貿易港は新潟、敦賀、伏木、境の四港にして、其の概況左の如し。

新潟 信濃川の河口に臨み、陸に鐵道ありて市街殷賑内地の商業活潑なれども、惜いかな港内水淺く、大船の碇泊しがたきにより、外國貿易は盛んならず。

敦賀 敦賀灣に在り水深く北國一の良港にして、鐵道の便を兼有し、北

海産物の集散地たり。

伏木 越中灣内に在り、郵便汽船の定期寄港する所にして、多く米を輸出し、市況繁盛なり。

境 夜見ガ濱の東端に在り、水甚だ深く、巨舶直ちに岸に着くべく、港内波穏かにして、山陰第一の良泊と稱せられ、敦賀、馬關等と定期汽船の便あり。

(20) 本邦に於ける鮭、鯨、海苔、珊瑚、真珠の著名ある産地を示せ。

鮭は北海道に多く、就中石狩河口の産最も著名あり、鯨は紀州沖、土佐沖の産名高く、珊瑚、真珠は土佐沖最も有名あり、而して海苔は、武藏の品川、大森を特に名高しとす。

(21) 本邦中雨量最も多き地と最も少き地とを挙げ、且其多少ある所以を記せ。

本邦中雨降最少き地は瀬戸内海沿岸地方即ち山陽道の諸國及び四國

の北部一帯の地方にして、最も雨多き地は北陸道の中部、四國九州の南部沿岸地あり、抑瀬戸内海沿岸地方に雨少きは山陽道には其の北に中國山脈屏風の如く連続して、日本海より吹き來る濕風を遮り、其の濕氣を山陰地方に凝結せしめて雨とならしめ、四國には四國山脈東西に連亘して太平洋より來る濕氣を遮り、其の濕氣を四國山脈以南に於て凝結せしめて雨とならしむるに由るものにて、北陸道の中部及其の他に雨多きは前に述べざるが如き海陸の關係なきは勿論、却て海面より濕氣の來ること多きが上に、猶其の濕氣を凝固して雨とからしむる山脈の存するに由るあり。

(22) 横濱より海路にて左記の地に至る哩數を示せ

函館 神戸 長崎 基隆

函館まで五百十八哩 神戸まで三百四十三哩 長崎まで七百七哩
基隆まで千三百四十四哩

明治三十四年一月一日印
明治三十四年一月五日發

行 刷

編輯者

帝國通信講習會
東京市本郷區森川町一番地

代表者

渡邊政吉
東京市本郷區森川町一番地

發行所

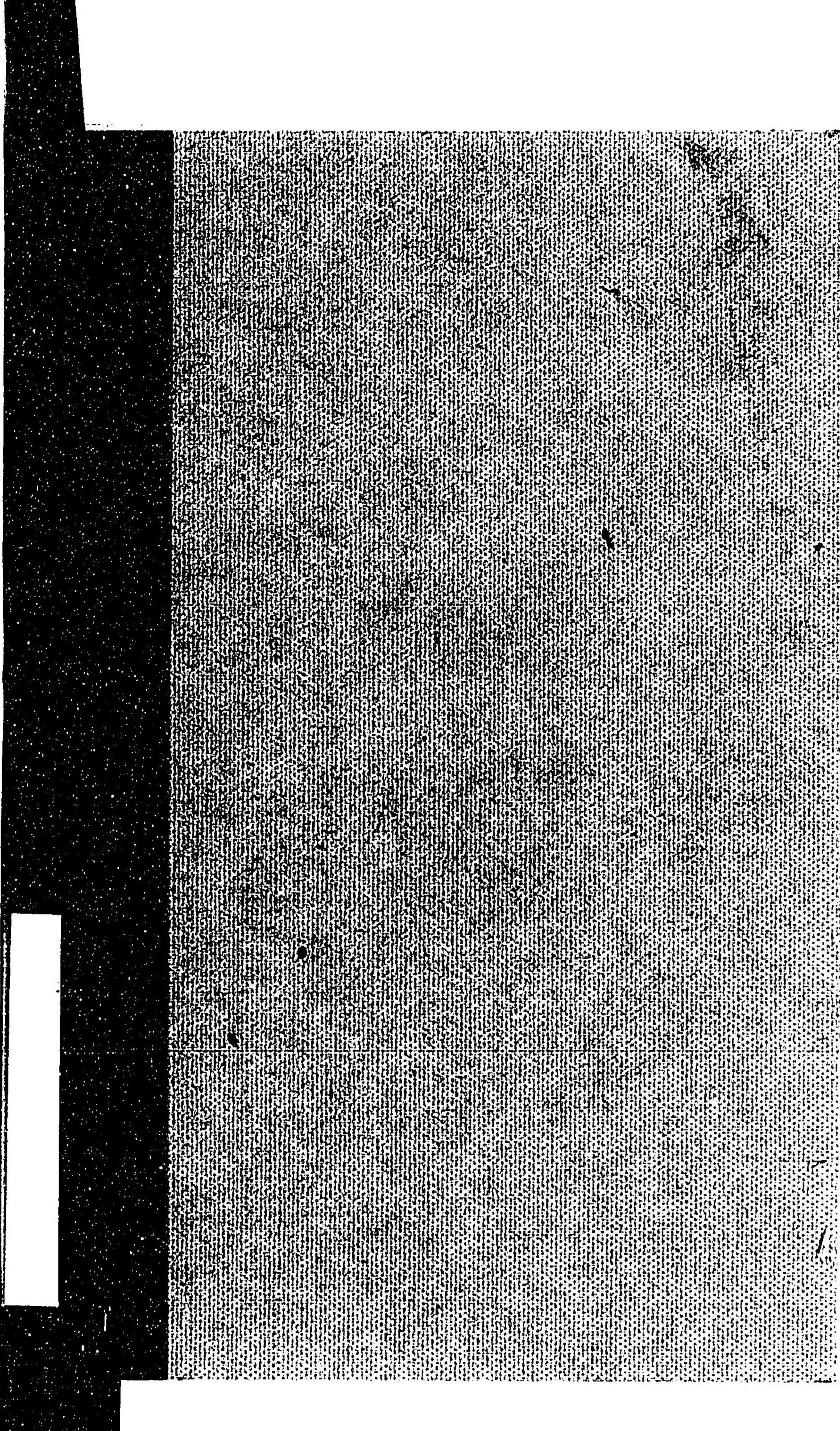
帝國通信講習會
東京市本郷區森川町一番地

印刷者

淺野鐵吉

不許複製

本報所有之權利
均受法律之保護
如有翻印或
轉載者
定必
究不貸



特20

269

日本地誌講義

国立国会図書館

022789-000-1

特20-269

日本地誌講義

帝国通信講習会／編

M34

ADB-0588

